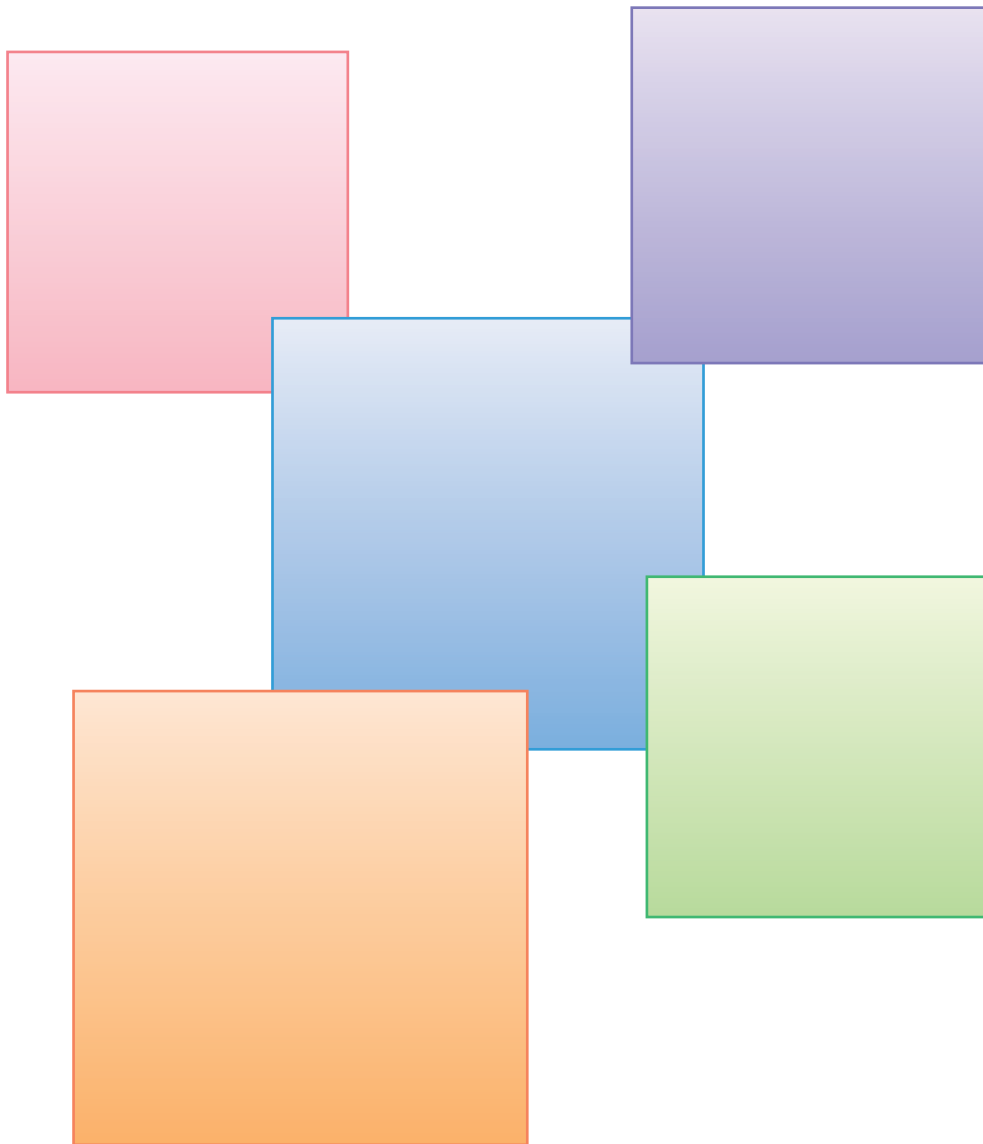


東京家政大学 教員の教育と研究

— 人材情報（教員）についての調査結果 —

(2018–2019)



東京家政大学
地域連携推進センター

ご 挨拶

—より一層の産学官連携と地域課題の解決を目指して—

ここにお届けする『東京家政大学 教員の教育と研究 ―人材情報（教員）についての調査結果―（2018－2019）』は、2017年度末に発行した『人材情報（教員）についての調査 2016－2017』に続く第3弾として作成されたものです。この冊子は、東京家政大学・東京家政大学短期大学部の専任教員について、教育・研究の取り組み等を分かりやすくまとめたもので、当センターが事業展開を行う上での必要性から生まれました。



センターの活動は、本学教職員の協力のもとに成り立つものです。そこで、本学の人材資源である教員が、どのような研究関心・研究課題を持ち、どのような教育・研究の成果を生み出しているか、把握すると同時に、広く大学の内外に紹介する事業として展開することにしました。

第1弾の冊子を発行したところ、大学内からは、「教員相互の研究関心の理解ができる」「もっと多くの人が掲載してほしい」という声が聞かれ、学外からは、「どのような先生がどのようなことをしているかがよくわかる」という評価をうかがい、第2弾、第3弾の発行となりました。

今回は、在職する教員の7割を超える方々から「回答」を頂きました。心より感謝申し上げます。今後さらに充実させていくことが求められると思いますが、学内の先生方にはこの冊子を活用していただき、教員相互の共同研究や、地域の行政、企業等との研究協力、共同開発などが進展することを願っています。また、学外の方には、研究協力、共同研究・共同開発など、本学教員と連携・協力し合う中で、より発展的な課題解決に結びつけていただければと思います。創造は既に在るものと在るものの新しい組み合わせから生まれます。それが、どのように小さなものであっても、それを大きく育てることができれば、発明や発見になり、大きな価値を生み出すことができます。

地域連携の取り組みは、大学として、今や私立大学であっても、必須の事業として位置づけられてきています。さらに、教員だけの取り組みではなく、学生の授業・教育の一環として関わっていくことが求められています。センターはこうした課題にも、学内の連携を図って取り組んでいきたいと思っています。

なお、本学のホームページ（<http://www.tokyo-kasei.ac.jp/>）には、所属するほとんどすべての教員の教育・研究業績が、リストの形で公開されています。個々の先生についての詳細な情報はそこから得ることができます。ぜひ調べてみてください。

最後に、ご回答にご協力いただいた先生方に改めてお礼を申し上げますとともに、この冊子が活用されることを心より願っています。

2019年3月

東京家政大学地域連携推進センター 所長
東京家政大学・東京家政大学短期大学部 学長
山本 和人

目 次

地域連携推進センター所長 一より一層の産学官連携と地域課題の解決を目指して一
本冊子の利用法について

研究者名	99
学部・学科・科別	102
キーワード	104

本冊子の利用法について

本冊子は、平成30年10月に地域連携推進センターが実施した、第3回目となる、「本学教員の『人材情報』についての調査」の結果としてまとめたものです。本学専任教員243名に配布し、168名から回答が掲載されています。

冊子の構成は、目次にある通り、大学・短大それぞれについて学部・学科・科別に分け、各学科・科の中では教員名の五十音順に掲載されています。ここには、各教員がどのような研究課題、研究テーマ、問題関心、研究成果等を有しているか、コンパクト（半ページ）にまとめてもらったものが示されています。

各教員の紹介ページには、下記のような内容が記入されていますが、教員によっては記載されていない項目もあります。

現在の研究テーマ

研究にかかわるキーワード

所属学部学科・氏名・研究室名

電話番号

E-mail：

URL：

研究の説明

図表・写真・説明等

また、本書を利用するあたり、下記の事項について理解してください。

- ①掲載は、学部・学科単位で、教員が五十音順に掲載されていますので、どこの学科・科に誰が所属するかがわかります。
- ②巻末の研究者名索引には、回答いただいた教員氏名が、所属する学科・科を越えて五十音順に並べられており、所属と掲載ページが分かるようになっています。
- ③さらに巻末には、それぞれの教員が掲げたキーワードを、五十音順にした索引がついていますので、キーワードを手掛かりに、関連する研究をしている教員が分かると同時に、掲載ページが分かるようになっています。

何かご質問がございましたら、地域連携推進センターまでお問い合わせください。

電話：04-2955-6959 FAX：04-2955-6929

家政学部



児	童	学	科		
児	童	教	育	学	科
栄	養	学	科		
服	飾	美	術	学	科
環	境	教	育	学	科
造	形	表	現	学	科

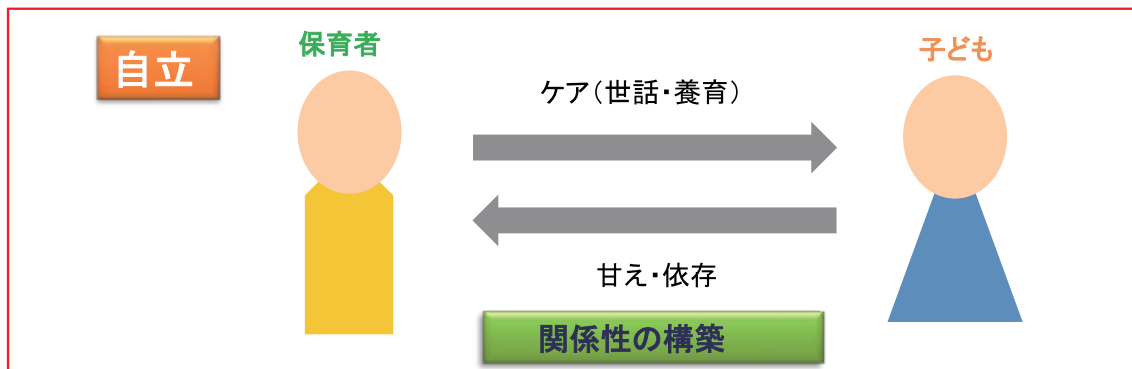
①保育者のライフヒストリー ②社会的養護を受けた子どもの自立

キーワード：女性 職業 生活 児童養護施設 おとなとの関係

家政学部児童学科 岩崎 美智子（いわさき みちこ） 福祉社会学研究室
TEL：03-3961-5245 e-mail：iwasaki@tokyo-kasei.ac.jp

研究

- ①職業によって人はどのように変化するのか。時代と地域の特徴を考えながら検討する。
- ②児童養護施設で暮らす子どもの生活と、保育者との関係性を考察し、子どもの成長過程におけるおとなの役割について考える。



①伝統文化の継承と子どもの育ち、地域活性化について ②日常動作と体力、身体機能の向上について

キーワード：舞踊 からだ作り 自己表現 社会性

家政学部児童学科 梅谷 千代子（うめたに ちよこ） 体育研究室
TEL：03-3961-4241 e-mail：umetanic@tokyo-kasei.ac.jp

研究

富山県南砺市五箇山地域、幼児、小中高校生は日常的に地元の郷土芸能を教わり踊る。この活動を通しての子どもたちの育ちと地域の活性化を研究中。

- 1 民謡の宝庫と呼ばれる富山県五箇山地方。地元行事、学校行事、また個人の活動においても民謡が関わる。子どもたちは民謡を通して地元や地元の人々を見、民謡を歌い踊ることで郷土を深く知り、郷土愛を強めている。さらに子どもたちは県外にとどまらず国外でも、民謡を媒介に交流を広げ自己のアイデンティティを築きグローバルな視野を習得している。
- 2 フレイル、サルコペニア、ロコモティブシンドロームを予防するための運動課題として日常動作を利用。強度や頻度、運動の種類について検証中。

保育における対話

キーワード：子ども 保育者 関わり 身体 対話 相互性 体験 在り方
他者理解 生成

家政学部児童学科 榎沢 良彦（えのさわ よしひこ） 幼児理解研究室
TEL：03-3961-5759 e-mail：enosawa-y@tokyo-kasei.ac.jp

研究

保育（幼児養育）の世界において、子どもと保育者がどのように生きているのかを「対話」の概念に基づいて明らかにする。

<子どもと保育者の相互性>

- ・相互的な存在承認
- ・相互的な存在規定
- ・相互的な主体性
- ・相互的な存在支持

<保育における対話の要件>

- ・話題の共有
- ・まなざし合い
- ・保育者の期待

- ①音楽教育学（幼児児童の音楽的発達研究、及び表現研究、音楽療法、リトミック、即興演奏法、編曲・作曲法研究）
- ②演奏研究（ラテン、ジャズのリズム研究）

キーワード：音楽教育 リトミック 音楽療法 即興 編曲 作曲

家政学部児童学科 笹井 邦彦（ささい くにひこ） 音楽教育研究室
TEL：03-3961-4792 e-mail：sasai@tokyo-kasei.ac.jp

研究

音楽教育全般に渡って研究しているが、とりわけ子どもたちの音楽的な発達を踏まえた音楽教育、または音楽活動・表現活動の在り方について探求している。

また、ハンデを持っている子どもについても音楽療法の観点からその具体的な指導法について研究している。

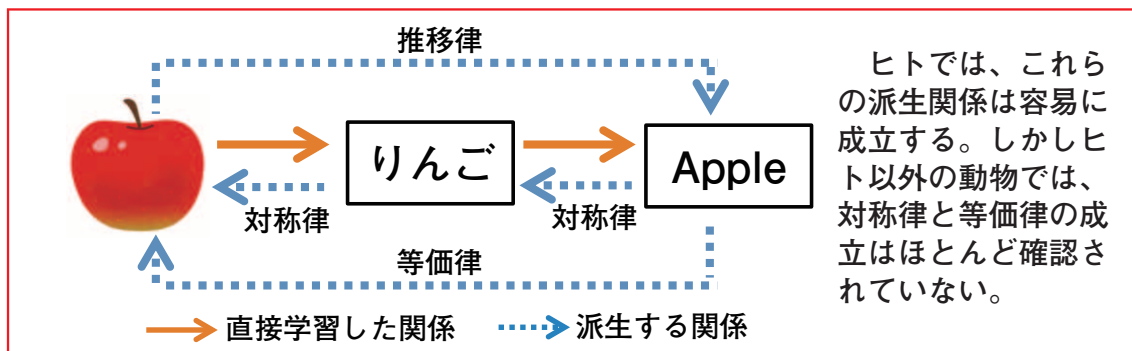
さらには、表現活動においては指導者の奏でる音楽そのものが非常に大切でありその影響は大きいと、自身のピアノによる即興演奏技術、さらには作曲についても探求している。

- ①思考や概念に関する実験行動分析学的研究
- ②保育・教育における行動分析学の応用
- ③教育・保育者養成に関連する調査研究

キーワード：行動分析学 見本合わせ 刺激等価性
 大学院人間生活学総合研究科 教育福祉学専攻 家政学部児童学科
 佐藤 隆弘（さとう たかひろ） 心理学研究室
 TEL：03-3961-4709 e-mail：satot@tokyo-kasei.ac.jp

研究

人間は、「AならばB」と「BならばC」の関係を学習しただけで、「BならばA」や「CならばA」という関係も派生的に示すことができる。このような関係の成立に関わる要因や人間の言語行動との関連性について実験的に分析するとともに、教育への応用可能性を検討する。



カニムシ類の分類と生態、子どもと自然

キーワード：カニムシ 子ども 植物遊び 動物あそび
 家政学部児童学科 佐藤 英文（さとう ひでふみ） 保育内容環境研究室
 TEL：03-3961-5775 e-mail：sato-h@tokyo-kasei.ac.jp

研究

- A カニムシはクモ形綱に属する小型節足動物である。その分類や生態の研究はまだ途上である。そこで、日本産カニムシ類の全般的研究に取り組んでいる。
- B 子どもにとって自然とのかかわりは重要である。近年、子どもたちの自然離れが極端に進んでいるようにみうけられる。そこで、草花遊びや小動物との触れ合いを通じてその重要性を伝える研究を実践している。

日本のカニムシ類



草花あそびの意義

教育的価値の再認識

- 身近な自然と関わる(ふれあう)楽しさを知る
- 植物の名前や特徴を知ることの意義
- 手先が器用になる
- 発見や発明につながる
- 伝統的なあそびを伝える(伝承)
- 形・音・香・色などの特徴や仕組みを知る
- 身近な植物に意味が生まれる(価値が生まれる)
- 科学性や芸術性のもとになる原体験
- その他



保育者による子育て支援の実践研究

キーワード：子育て支援：保育者の専門性に基づく子育て支援の実践
 保育者の専門性：子どもに対する保育と保護者に対する支援の専門性
 保護者との連携：保育への参画を促す保育および子育て支援の実践

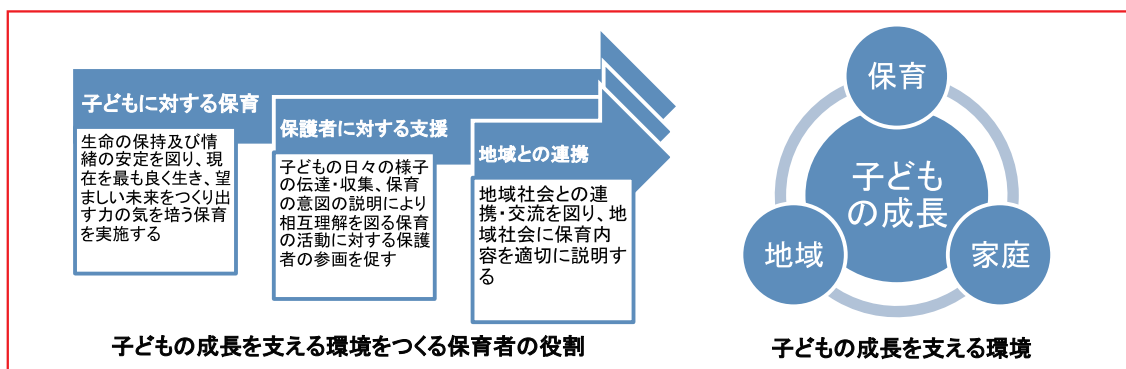
家政学部児童学科 鈴木 彬子（すずき あきこ） 家族支援研究室

TEL：03-3961-5542

e-mail：suzuki-ak@tokyo-kasei.ac.jp

研究

子どもに対する保育の実践、そして保育の中で培われてきた保育者の専門性に基づく子育て支援の在り方について研究しています。保育者と保護者が子どもの成長を相互に理解・共有し、“共に子どもを育てる”対等で能動的な関係を築く保育・子育て支援の実践について探求しています。



①染色体異常のある子どもの保育 ―心疾患の影響― ②稀少染色体異常の臨床研究と遺伝学的研究

キーワード：染色体異常 ダウン症候群 先天性心疾患

家政学部児童学科 高野 貴子（たかの たかこ） 小児保健学研究室

TEL：03-3961-5339

e-mail：takano@tokyo-kasei.ac.jp

研究

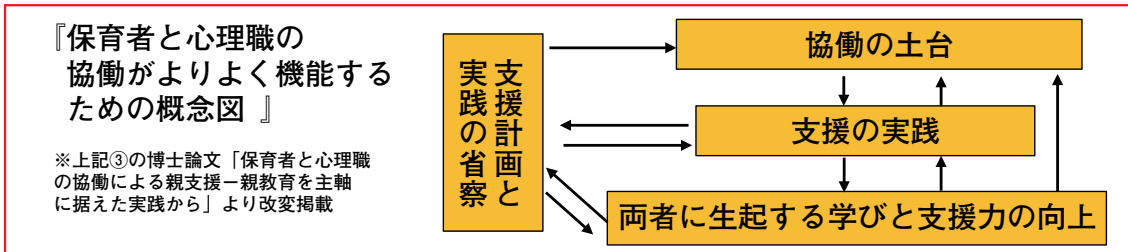
- ①染色体異常児、特にダウン症候群児の予後に影響を及ぼす先天性心疾患の調査研究を大学病院等と連携して行っている。
- ②報告の稀な染色体異常症の臨床症状とその経過、染色体構造異常の解析と遺伝子解析などの遺伝学的研究を行なっている。

保育者と心理職の協働による子育て支援

キーワード：子育て支援 親教育 困難ケースへの対応 支援者同士の育ちあい
大学院人間生活総合研究科 児童学児童教育学専攻 家政学部児童学科
武田 洋子（たけだ ようこ） 次世代育成研究室
TEL：03-3961-5296 e-mail：takeda-y@tokyo-kasei.ac.jp

研 究

保育者による保護者支援の重要性が叫ばれて久しいが、保育現場の忙しさ、保育者に求められる業務の多さ、困難ケースの増加、保護者支援と子どもの保育を担う際の役割葛藤などにより、保育者のバーンアウトの問題が指摘されている。子どもの発達や心理にも保護者相談にも通じる心理職が、子どもの保育を専門とする保育者と、「子どものウェルビーイングのために保護者、家庭を支える」という共通認識をもって協働できれば、保育の場で親子双方のより豊かな育ちのための支援を展開しうると考える。この考えのもと、親準備性が低い近年の保護者への学習機会の提供や、困難ケースの対応について、両者（保育者と心理職）の有効な協働のあり方を検討している。



保育実習における評価ルーブリックの開発プロセス

キーワード：保育実習 保育実習指導 実習評価 保育士養成

家政学部児童学科 中村 教子（なかむら のりこ） 保育実習第2研究室
TEL：03-3961-5739 e-mail：nakamura-n@tokyo-kasei.ac.jp

研 究

保育実習の評価が標準化していないことをきっかけとし、保育所現場と協働しながら保育実習評価ルーブリックの開発をおこなう。開発過程に学生が参加することで学生の視点を考慮した評価指標づくりをおこなう。学生が実習で体験してほしい実習目標となる内容と成長プロセスを実感できる評価ルーブリックの開発を目指す。

- 尾崎司・中村教子（2016）、「現場連携による実習評価ルーブリックの開発（Ⅰ）～保育所実習のルーブリック作成に関する予備的考察」、東京家政大学研究紀要、第57集（1）、pp.31-41

大学生への読書教育

キーワード：大学生 読書 読書量 読書動機 読書時間帯

家政学部児童学科 平山 祐一郎（ひらやま ゆういちろう） 教育心理学研究室
TEL：03-3961-4917 e-mail：hirayama@tokyo-kasei.ac.jp

研究

大学生の読書量や読書動機、読書時間帯を調査している。

『大学生の読書の変化 -2006年調査と2012年調査の比較より-』

※「読書科学」第56巻第2号（平成27年1月31日発行）

2006年調査（5大学・1短大,1184名）と2012年調査（11大学,2169名）から以下のことが明らかになった。

- ①読書量が減っていること（大学生の4割が不読者であること）。
- ②テレビ視聴も減っていること。
- ③携帯電話（スマートフォンを含む）の使用が増えていること。
- ④大学生の読書動機には、
「娯楽休養」「錬磨形成」「言語技能」「影響触発」の4因子が安定的に見出せること。
- ⑤大学生の読書時間帯には、「ゆとり時間読書」「すき間時間読書」の2因子が安定的に見出せること。

①幼児の音楽表現のありかた

②幼児のどなり声について

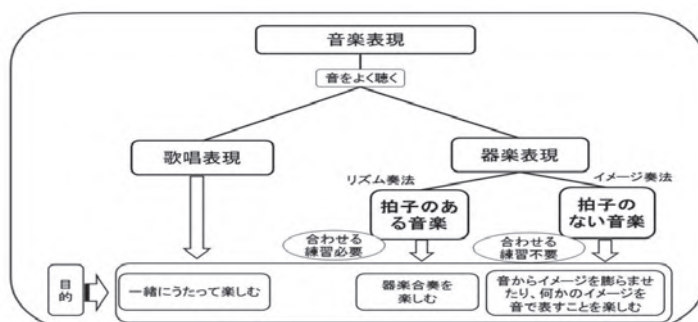
キーワード：幼児の表現 唱歌 童謡 わらべうた 器楽合奏
家政学部児童学科 細田 淳子（ほそだ じゅんこ） 音楽表現研究室
TEL：03-3961-6637 e-mail：hosoda@tokyo-kasei.ac.jp

研究

- ①幼児教育の現場において音楽表現活動が本来の子ども達のためのものにならず、保護者に見せるためのものになっている場合がある。その対応策をC.オルフのエレメンタルという概念を使った指導法を構築することで考えている。
- ②幼児がどなり声でうたう事の原因が、明治時代の唱歌や軍歌を大声でうたわせれていたことと関係するのではないか、という仮説をたて検証している。

<音楽表現体系図

……考案：細田淳子>



乳児期の育ちを支える保育環境

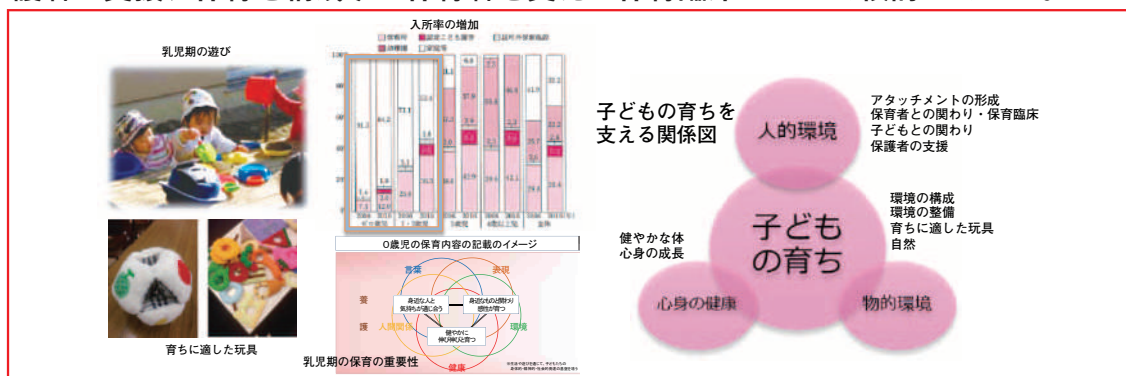
キーワード：保育学 乳児保育 乳幼児期の発達 乳児の遊び 乳児期の象徴機能
アタッチメント 親子支援 保育臨床 保育計画・記録 乳児期の権利
大学院人間生活学総合研究科 児童学児童教育学専攻 家政学部児童学科
堀 科（ほり しな） 乳児保育研究室

TEL：03-3961-5297

e-mail：hori-s@tokyo-kasei.ac.jp

研 究

我が国の乳児・幼児期前期からの保育施設入所率が乳幼児期全体の半数に近づいている現在、保育の更なる質的向上については急務である。乳児期の育ちに必要な人的環境ならびに物的環境について考えるとともに、子どもの育ちの背景にある保護者の支援、保育を構成する保育者を支える保育臨床について検討している。



子どもの遊びと保育者の援助 保育実践

キーワード：遊び（特にごっこ遊び） 遊びの展開 保育者の援助 保育実践

家政学部児童学科 前田 和代（まえだ かずよ） 保育実践研究室 1

TEL：03-3961-4613

e-mail：maeda-k@tokyo-kasei.ac.jp

研 究

幼稚園・保育園・子ども園など保育現場における子どもの遊びのフィールドワークを行い、遊びの展開やそこでの保育者の援助を考察していく。

具体的な保育実践における現象から、保育実践における環境構成や具体的な保育者の援助を分析考察していく。

①社会的養護におけるファミリーホームに関する研究 ②スリランカの保育と子育て

キーワード：①社会的養護 家庭養護 ファミリーホーム 里親
②スリランカ 開発途上国 子育て

家政学部児童学科 松本 なるみ（まつもと なるみ） 児童福祉研究室
TEL：03-3961-5709 e-mail：matsumoto-n@tokyo-kasei.ac.jp

研究

- ①日本における社会的養護は、施設養護が主流であり里親やファミリーホームなどの家庭養護は1割と少ない。厚生労働省は、2030年までに家庭養護を3割以上に引き上げるという政策目標を示している。家庭生活を奪われた子どもが「あたりまえの家庭の暮らし」を取り戻すために、家庭養護の果たす役割は大きい。しかし、ファミリーホームは、制度化されてからまだ日が浅いことから、その制度や養育に関する議論は十分とはいえない。ファミリーホームが子どもの最善の利益を保障するものとなるために必要なことは何か検討する。
- ②内戦が終結し経済成長が著しいスリランカにおいて社会の変容が子育てや子育て観にどのような影響を与えているのだろうか。現地調査によって明らかにする。また、子育てや地域社会のあり方について、日本がスリランカから学ぶことがあるのではないかという問題意識からも検討を試みる。



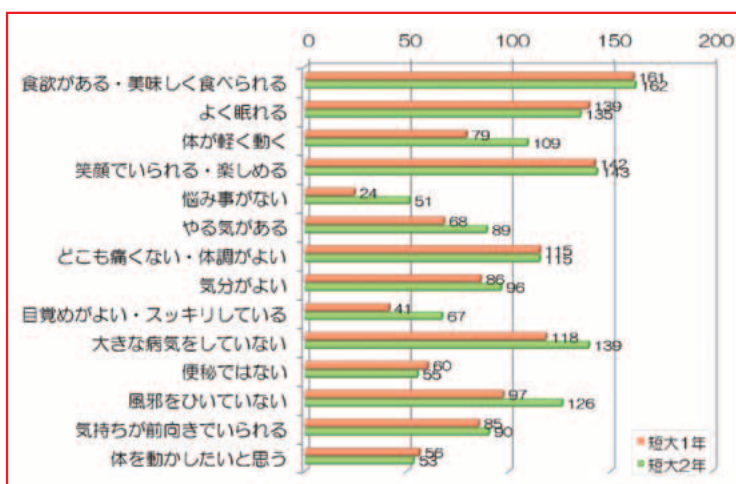
健康習慣・運動習慣を育てる

キーワード：睡眠 食事 運動 健康 習慣 体力 子ども 保育者養成
基本動作 心とからだ

家政学部児童学科 梁川 悦美（やながわ えつみ） 幼児体育研究室
TEL：03-3961-5349 e-mail：yanagawa@tokyo-kasei.ac.jp

研究

便利な生活になった今、子どもも大人も身体を積極的に動かす時間や機会の減少が問題となっている。生涯にわたり、健康で幸せな生活を営む上でかせない「基本的な生活習慣・運動習慣」が、定着していない現状を生み出している。そこで、学生が自分自身を見つめ、そして将来、保育者として、子どもを育てる立場として、健康・運動習慣をどのように捉えているのか。それを生涯にわたって定着させていくには、どのようなアプローチが必要なのかを検討課題としている。右記の図は、「健康であること」の指標である。（H. 23 調査結果の1例 短大1・2年data）



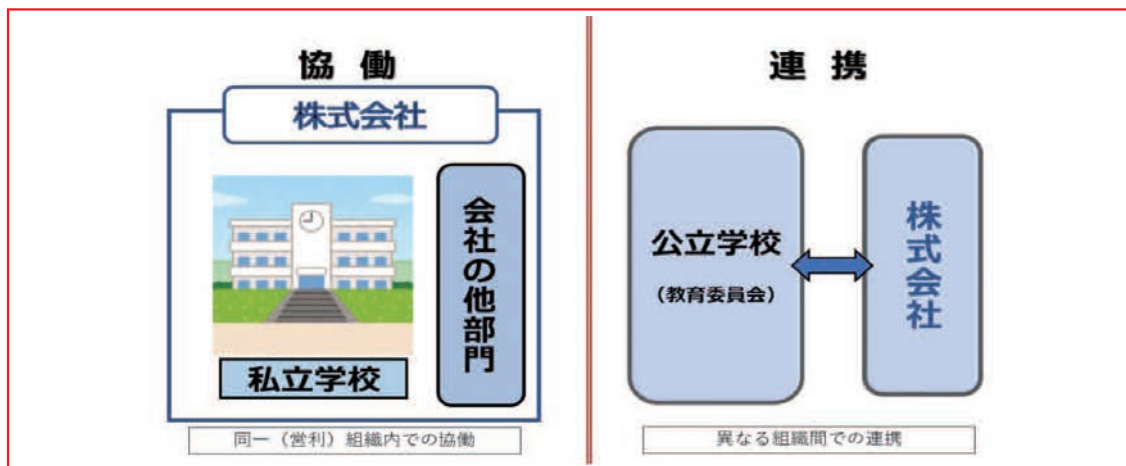
営利組織と学校の協働・連携に関する研究

キーワード：営利組織 学校 協働・連携

家政学部児童学科 渡部 晃正（わたなべ てるまさ） 教育社会学研究室
TEL：03-3961-5481

研 究

営利組織と学校・園の関係を“協働”と“連携”という観点から捉え、学校教育の市場化の現状と課題を明らかにする。



国語科教育の授業研究

キーワード：国語教育 教材研究 授業リフレクション

大学院人間生活総合研究科 児童学児童教育学専攻 家政学部児童教育学科

阿部 藤子（あべ ふじこ） 初等教育第1研究室

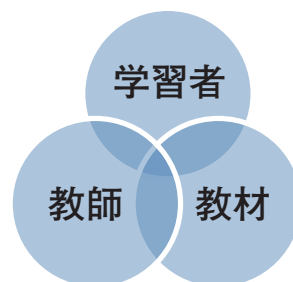
TEL：03-3961-6286

e-mail：abe-f@tokyo-kasei.ac.jp

研 究

学習者の言葉と思考力を育成するための国語科の授業のあり方を研究している。中でも教材研究、授業デザイン、省察、改善のサイクルを経て授業研究によって教師が授業の力量を形成するプロセスを研究している。

授業を構成するものには「学習者」「教師」「教材」があり、この3者の相互作用によって授業は展開される。まず学習者の発達段階の理解や実態の捉えが重要である。国語科を中心とした教材そのものの研究も授業者に必須の条件となる。また教師自身の実践知が授業の展開においては大きく作用する。この3点から授業の設計、分析、省察を実践現場の教員と共に取り組んでいる。



情報教育、メディア・コミュニケーションの社会心理学的分析

キーワード：情報教育 メディア・コミュニケーション 情報行動 社会心理学
広告・広報の効果

家政学部児童教育学科 天野 美穂子（あまの みほこ） ICT教育研究室
TEL：03-3961-3868 e-mail：amano-m@tokyo-kasei.ac.jp

研 究

- 情報化社会で生きていくためには、情報活用のスキルを身につけるだけでなく、情報メディアのコミュニケーション特性や情報を扱う（情報と関わる）人間の心理・行動についても理解する必要があります。
- こうした考えに基づき、メディア・コミュニケーション（ネットを介したコミュニケーション、広告コミュニケーションなど）や情報行動について、社会心理学的視点から、実証的調査研究（質問紙調査、インタビュー調査）を行っています。
- また、こうした研究の知見を、小学校の情報教育（情報モラル）において活かす方向での研究も行っています。

思考力・表現力を高める算数科の指導

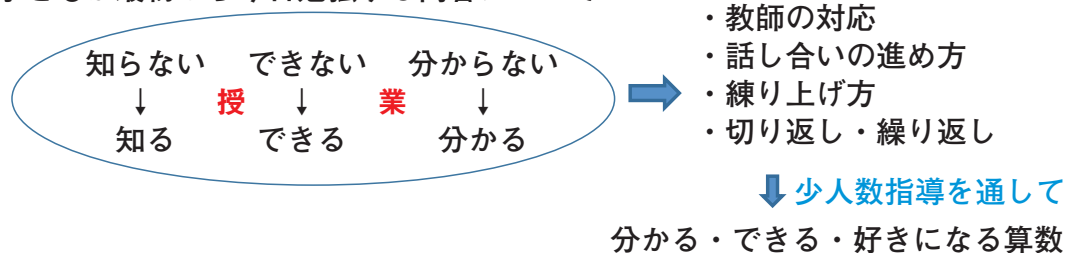
キーワード：算数 少人数指導 練り上げ 話し合い活動 問題解決型授業

家政学部児童教育学科 家田 晴行（いへだ はるゆき） 初等教育第2研究室
TEL：03-3961-6289 e-mail：ieda@tokyo-kasei.ac.jp

研 究

小学校の教育現場では、算数科の授業の改善を図るため問題解決型の授業を進めているが、後半の集団解決における指導は十分なものとは言えない。本研究は、集団解決時における話し合い活動の進め方、内容や方法をより良いものに練り上げていくための方策を探るものである。

子どもが最初から今日勉強する内容について



体づくり運動に関する研究 野外教育に関する研究

キーワード：体づくり運動 野外教育 レクリエーション

家政学部児童教育学科 木村 博人（きむら ひろと） 体育学第1研究室
TEL：03-3961-5267 e-mail：kimura@tokyo-kasei.ac.jp

研究

体づくり運動の現状とギムナスティックとの関連を明らかにしながら、学校現場での展開を考察する。

野外教育の効果および学校現場（体育、特別活動、総合学習の時間）での展開について考察する。

歴史学（日本古代史、地域研究）・歴史教育（教育実践、地域学習）

キーワード：日本史 史学一般 教科教育学 地域研究

家政学部児童教育学科 中尾 浩康（なかお ひろやす） 歴史学研究室
TEL：03-3961-4809 e-mail：nakao-h@tokyo-kasei.ac.jp

研究

歴史学では、武士の発生に至る道程を古代の軍制構造等から考察しています。また地域史・地方史についても関心があります。歴史教育では、地域の史資料を活用した教材開発・授業実践や、地域学習への発展・深化等に取り組んでいます。

【連携・協働の重要性】

歴史学

日本史・世界史・地域研究

歴史教育

小学校・中学校・高等学校・
大学・地域学習

社会教育・生涯学習

博物館等、社会教育施設
(博学連携・学社連携等)

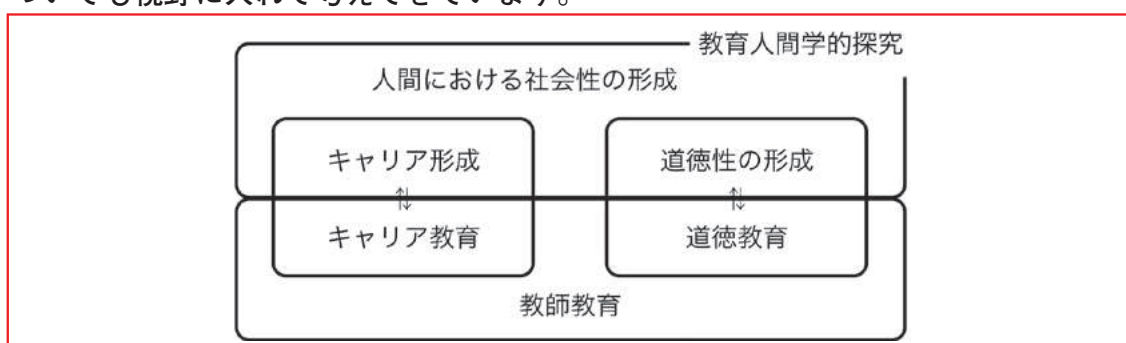


社会性（キャリア・道徳性）の形成についての研究

キーワード：ディルタイ 精神科学的教育学 社会性 キャリア形成 道徳教育
教師教育 学校教育
家政学部児童教育学科 走井 洋一（はしりい よういち） 教育学研究室
TEL：03-3961-4053 e-mail：hashirii@tokyo-kasei.ac.jp

研 究

人間が人間となっていくプロセスにおいて社会性がいかに形成されるのか、特に、キャリアの形成（とりわけ、社会的排除の状態のある人たちのキャリア形成）と道徳性の形成について教育人間学的見地から研究を続けてきました。また、それぞれについていかに教育すればよいのかについても並行して考えています。教育を考える際には、教員養成の立場から教師がどのような力を持たなければならないのかについても視野に入れて考えてきています。



選手の主体性やライフスキルを高めるコーチの資質及びスキルの検討

キーワード：メンタルトレーニング チームビルディング コーチング ライフスキル

家政学部児童教育学科 長谷川 望（はせがわ のぞむ） 体育学第2研究室
TEL：03-3961-5360 e-mail：hasegawa-n@tokyo-kasei.ac.jp

研 究

チームワークやチームの雰囲気及び個々の選手のライフスキル等に指導者のコーチング哲学や、リーダーシップスタイル、そしてコーチングスキルが影響を及ぼすことが知られている。そこで、現場のコーチの効果的なコーチングスキル及びスポーツ心理学の専門家による効果的な介入方法について検討をしている。

チームスポーツの指導者が、グループの集団凝集性や集合的効力感を高める野外教育手法であるASEを用いた。結果、選手は課題に対して主体的に取り組む。モチベーションが高まるとともにコーチングに対する評価が高まった。その結果、効果的なコーチングとしてのASEの可能性を示した。

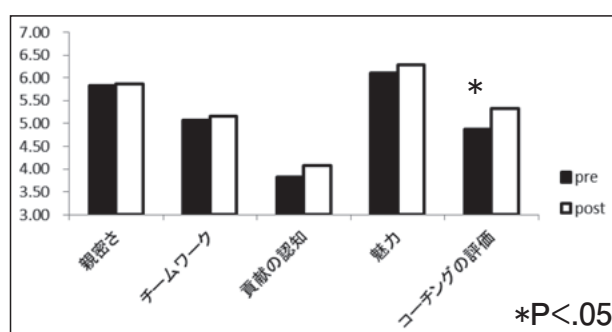


図1 ASE実施前後のコーチング評価

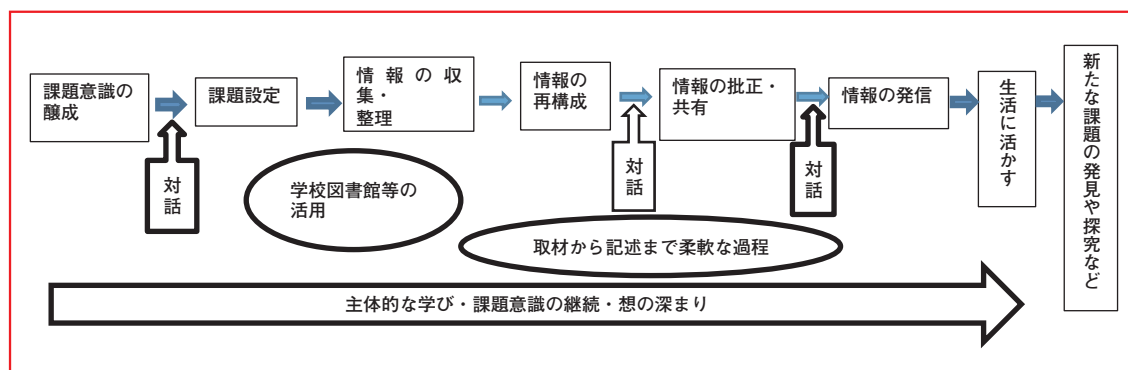
アクティブ・ラーニングの視点を取り入れた作文指導

キーワード：情報活用能力 柔軟な作文の指導過程 想の深まり 論理的思考
対話と共有

家政学部児童教育学科 林 嘉瑞子（はやし かずこ） 初等教育第4研究室
TEL：03-3961-6294 e-mail：hayashi-k@tokyo-kasei.ac.jp

研 究

「書くこと」は考えることである。児童が課題意識をもって主体的に学び、書く力を獲得するために、情報活用と作文の学習過程を対応させ、柔軟な学習過程により思考力を育成する。その際、想の展開に着目し、対話を通じた学びの共有により、児童の作文力を向上させる指導法を研究する。

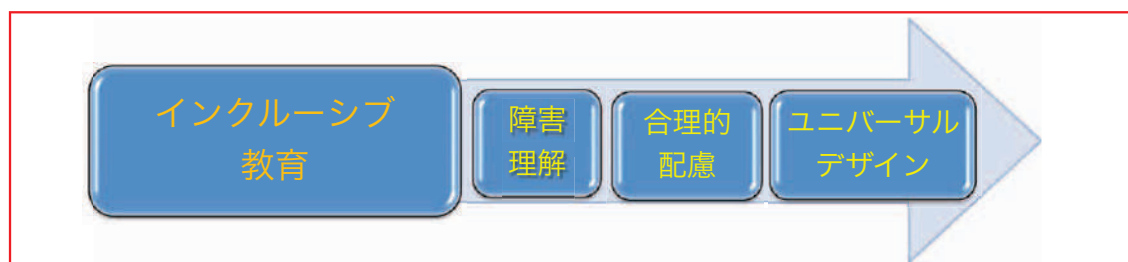


特別支援教育の推進

キーワード：インクルーシブ教育 合理的配慮 障害理解 ユニバーサルデザイン
大学院人間生活学総合研究科 児童学児童教育学専攻 家政学部児童教育学科
半澤 嘉博（はんざわ よしひろ） 初等教育第5研究室
TEL：03-3961-6093 e-mail：hanzawa@tokyo-kasei.ac.jp
URL：http://hanzawayoshihiro.com/

研 究

障害者の権利条約が日本でも批准され、また、障害者差別解消法も施行され、共生社会の実現を目指し、教育分野でも、障害のある児童生徒を一般教育体系から排除しないインクルーシブ教育の展開が進められるようになってきた。しかし、障害のある児童生徒が通常の学級で学ぶためには障害理解や合理的配慮としての障害への個別対応、すべての児童生徒が分かりやすい授業を行うための学びのユニバーサルデザインの推進が重要であり、その対応が喫緊の課題であり、その諸課題に関わる研究を進めている。



小学校教員養成大学における教育実習の現状と課題

キーワード：教員養成 小学校教員 教育実習指導 教員へのキャリア支援
就職対策

家政学部児童教育学科 福田 啓子（ふくだ けいこ） 初等教育第3研究室
TEL：03-3961-6342 e-mail：fukuda@tokyo-kasei.ac.jp

研究

小学校教諭一免許状取得履修には、小学校での教育実習が必要とされる。教育実習は、大学での知識や技術を総合的に実施体験できる重要な役割があるが、その指導においては、教員としてのモチベーションアップ、他の職業への変更などの対策等様々な要素がある。本研究は、長期にわたって職業決定の要素と時期との関連を明確にし、指導の在り方を検討するものである。

小学校音楽科教育における教員の音楽的資質に関する研究

キーワード：教師教育 音楽的資質 資質能力 小学校音楽科教育

家政学部児童教育学科 宮 祐子（みや ゆうこ） 児童音楽教育研究室
TEL：03-3961-5230 e-mail：miya-y@tokyo-kasei.ac.jp

研究

小学校教育は一般的に全科担任制である。しかしながら音楽科は専門的技能が高度と見られ、音楽を得意としない教員にとっては敬遠されがちである。児童教育学科は音楽経験の少ない学生も在籍している。そのような学生たちが小学校等の教員を目指すにあたり、どのような音楽的資質を身に付けていたら良いのかなど、教員の資質形成について研究している。

①社会と関わる芸術活動（学校教育、社会教育、生涯教育）の理論と実践 ②ICTを活用した鑑賞活動の実践研究 ③フレネ教育研究

キーワード：学習 協同 関係性 可視化 コミュニティ

家政学部児童教育学科 結城 孝雄（ゆうき たかお） 初等教育第7研究室

TEL：03-3961-5594

e-mail：takaoyuki@tokyo-kasei.ac.jp

研究

今日的学习観に基づく能動的な活動を表現、創造、協同、可視化の観点からその質を高めるための理論と実践を行う。

国際美術教育学会（InSEA）欧州会議2018

6月19日 ヘルシンキ アアルト大学

研究発表会 結城孝雄

「ソーシャルエンゲイジド アート
による教育の分析と実践」から

A Study on Practice and Analysis of
Education for "Socially Engaged Art"

社会と関わる芸術活動と従来の
美術教育の関係性を図式化し、
汎用的な学習概念との
共通性を示す

Takao YUKI Tokyo-Kasei University

InSEA CONGRESS 2018 Finland
19 Jun 2018, Aalto University
13:00-09:15 Parallel sessions



食物アレルギー低減化に向けた調理法の検討 食生活における省エネ行動に関する研究

キーワード：穀類 食物アレルギー 加熱調理 省エネルギー教育 エコクッキング
大学院人間生活学総合研究科 健康栄養学専攻 家政学部栄養学科

赤石 記子（あかいし のりこ） 調理科学第2研究室

TEL：03-3961-6819

e-mail：akaishi-n@tokyo-kasei.ac.jp

研究

近年、食物アレルギー患者は多く、代替食品に苦慮している。調理加工による低アレルギー化についてはまだまだ未解明な部分が多く、調理条件による抗原の変化を明らかにし、アレルギー患者のQOL向上を目指している。

地球温暖化など地球環境の問題が心配され、持続可能な社会を目指して、私たちは地球環境に配慮した生活が求められています。特に食生活の中の買い物、調理、食事、片付けに関する省エネ行動を促進することはCO₂削減に寄与すると言える。小・中・高等学校の中で省エネ教育を行い、電気、ガス、水、ごみ量がどの程度削減でき、行動が変化したのかを追跡している。

①咀嚼の定量評価 ②食商品の栄養量の検討

キーワード：加速度計 咀嚼 中食 カロリーアンサー 栄養量

家政学部栄養学科 色川 木綿子（いろかわ ゆうこ） 栄養指導第2研究室
TEL：03-3961-5281 e-mail：irokawa@tokyo-kasei.ac.jp

研究

生活習慣病対策・予防の面から食教育を進めることが必要であり、噛むことに着目し、加速度計を用いて咀嚼の定量評価ができるか検討している。また、中食の市場規模が拡大し、利用が多い食商品の栄養量などを栄養価計算だけでなく、機器も使用し、その栄養量の検討を行っている。



my Beat (心拍・加速度計)



カロリーアンサー

伝え継ぐ日本の家庭料理

キーワード：伝統食 郷土食 行事食 儀礼食 家庭料理

家政学部栄養学科 宇和川 小百合（うわがわ さゆり） 栄養指導第1研究室
TEL：03-3961-5929 e-mail：uwagawa@tokyo-kasei.ac.jp

研究

一般社団法人日本調理科学会 創立50周年記念出版委員会の研究会において、日本の家庭料理について調査し、食材ごとにまとめたものを順次出版している。担当している地域は『東京都』で、23区、都下、島しょに区分して調査を行っている。

主菜の特徴 ―23区と都下、島しょの主菜の特徴― (H30年度学会発表)

【結果】 肉料理は、23区で多く出現し、中でもすき焼き、とんかつ、ロールキャベツ、餃子などが挙げられた。その他、ステーキやメンチカツ、カレー、ハンバーグなどの洋風料理がみられた。魚料理は、23区では鮭の塩焼き、あじの干物、身欠きにしんの他、種々の魚介を刺身や焼き魚、煮魚、ムニエルにして食していた。都下では、多摩川や浅川などが近いので、川魚のやまめやあゆの料理がみられた。島しょでは、くさやが食されており、伝統的な魚料理の伝承がみられた。その他にもあおむろ、とびうお、ぶだいなど他地域ではみられない魚を使った料理が挙げられた。卵料理は、卵焼き、目玉焼きなどが挙げられ、23区ではオムレツもみられた。納豆や豆腐が23区の日常食に多くみられた。その他の料理として、天ぷらが多くの地域でみられた。23区の東部と北部と比較して、西部と南部に洋風料理が多くみられた。これらの地域では高度経済成長期の中で、食生活が変化していく様子が推察できる。一方、都下や島しょでは、地域の食材に根差した伝統的な食生活がみえた。

食品に含まれる生体調節機能物質の探索

キーワード：日本型食生活 食品成分 分析 おいしさ 生体調節機能物質

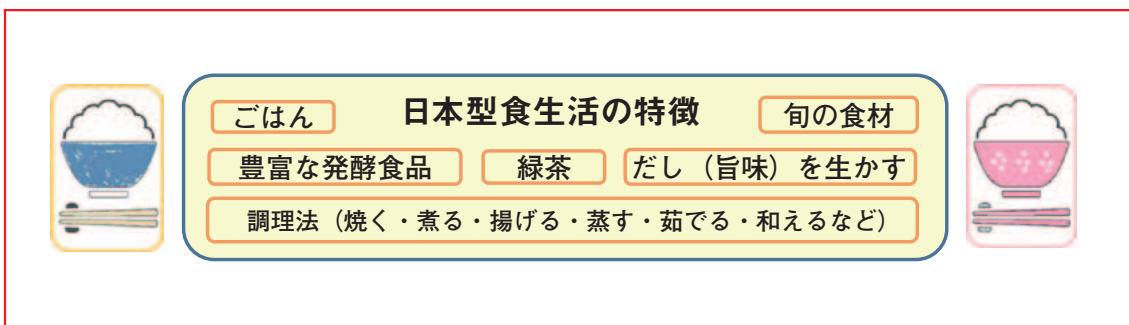
家政学部栄養学科 海老塚 広子（えびづか ひろこ） 食品学研究室

TEL：03-3961-7655

e-mail：hkawana@tokyo-kasei.ac.jp

研究

『日本型食生活』とは、ごはんを中心に、魚や肉などの主菜、野菜、海藻、豆類などの副菜と汁物、乳製品、果物などの多様な食材を組み合わせる昭和50年代の食生活を指し、国際的に高い評価を得ている。食材が持つおいしさや、だしのうま味を生かして、過剰な塩分摂取を抑えることもできる。和食文化の中にみられる加工や調理上での工夫やその意義を明らかにし、食品に含まれる生体調節機能物質を探索する。



各種疾病における脳・内分泌・免疫連関についての研究

キーワード：がん悪液質 感染症 サルコペニア 摂食抑制

大学院人間生活学総合研究科 健康栄養学専攻

大学院人間生活学総合研究科 人間生活学専攻 家政学部栄養学科

太田 一樹（おおた かずき） 生理学研究室

TEL：03-3961-7974

ota-k@tokyo-kasei.ac.jp

研究

感染症やがんのとき、どうして摂食抑制や体温上昇などがおこるのか、また、がん悪液質の病態下で観察されるエネルギー消費量の減少やサルコペニア発生について、脳・内分泌・免疫連関の変化を中心に機序の解明を行っている。

脳は身体を調節し、身体は脳を調節している。生体の維持・調節には中枢神経系・内分泌系・免疫系の相互連関が必須である。様々な病態において、相互連関に変化がみられることから、その機序を解明することは、栄養療法を含めた疾患に対するアプローチに不可欠であると考え、研究をすすめている。



笑いや瞑想が健康に及ぼす作用をアロスタシスという視点から検証する

キーワード：アロスタシス 共感性 マインドフルネス 瞑想 ヨーガ 笑い
 社会遺伝学 末梢血単球細胞 マイクロアレイ メタボローム
 家政学部栄養学科 大西 淳之（おおにし じゅんじ） 生化学研究室
 TEL：03-3961-7563 e-mail：johnishi@tokyo-kasei.ac.jp

研究

瞑想やヨガなど宗教的身体技法が健康に及ぼす有益性について、免疫反応に着目しながら分子レベルで実証することを目的としている。これまでの研究から、僧侶を対象に慈悲の心に通ずる共感性と関連する抗ウイルス性遺伝子と血中代謝物マーカーを見いだした。このことは継続的な身体技法実践が、共感性の喚起とともに神経-免疫-内分泌系を介して健康に有益な心身変容（アロスタティック適応）をもたらしていると仮説を立てている。現在、一般人がヨガ瞑想やマインドフルネス瞑想などの宗教的身体技法を継続的に実践したとき、どのように心身の健康増進に寄与するのか検証している。

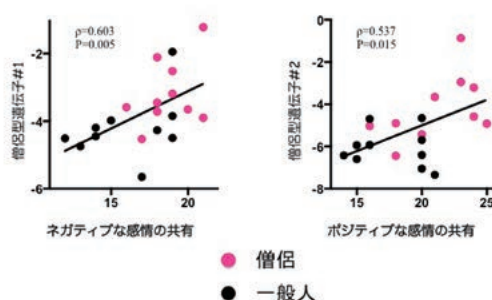
図 同定された僧侶に特有なマーカー遺伝子と共感性の下位尺度との相関の例。

左：「ネガティブな感情の共有」との相関（ $\rho=0.603$ $P=0.005$ ）。

右：「ポジティブな感情の共有」との相関（ $\rho=0.537$ $P=0.015$ ）。

Ref. Human Genomics 11 (1), 2017

Distinct transcriptional and metabolic profiles associated with empathy in Buddhist priests: A pilot study.



次世代に伝え継ぐ日本の家庭料理についての調査研究

キーワード：食の文化 郷土料理 行事食 儀礼食
 家政学部栄養学科 加藤 和子（かとう かずこ） 調理学研究室
 TEL：03-3961-5953 e-mail：katok@tokyo-kasei.ac.jp

研究

日本各地に受け継がれてきた伝統的な郷土料理・行事食・儀礼食などについて、次世代へと伝え継ぎたいと考え研究を行っている。

日本調理科学会平成24、25年度特別研究「次世代に伝え継ぐ日本の家庭料理」に基づき、1960～1970（昭和35～45）年頃に食べられていた東京都・埼玉県における家庭料理について聞き書き調査を実施し、各地域において食べ続けられている家庭料理の特徴について検討を行っている。

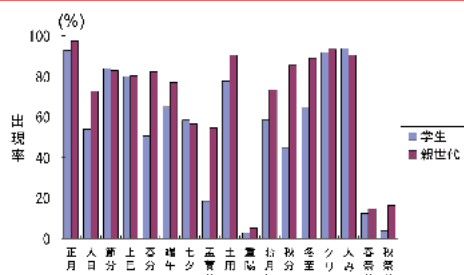


図 年中行事での行事食の喫食経験 学 生：n=200
親世代：n=120

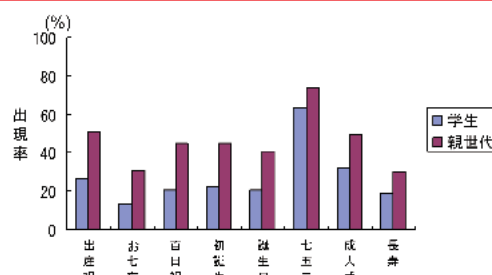


図 通過儀礼における赤飯の喫食状況 学 生：n=200
親世代：n=120

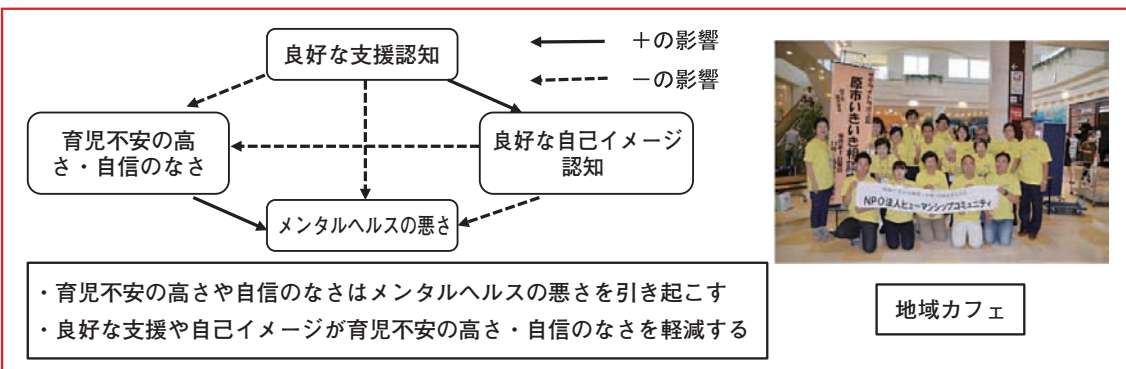
食環境の向上、学習習得向上への支援

キーワード：学習意欲 楽しさ 自己効力感 気質 母親 メンタルヘルス

家政学部栄養学科 加藤 由美子（かとう ゆみこ） 給食経営管理第1研究室
TEL：03-3961-8093 e-mail：kato-y@tokyo-kasei.ac.jp

研究

- 国家試験のある管理栄養士は、調理実技が弱いといわれる。卒後、活用・運営指導ができる大量調理の技術等を獲得させるための学習意欲向上や食環境（楽しい給食）向上への働きかけ方法についての検討。
- 学生・幼児をもつ母親の気質とメンタルヘルスの関係（食環境の向上を介して）・高齢者の社会的参加としての地域カフェ支援。



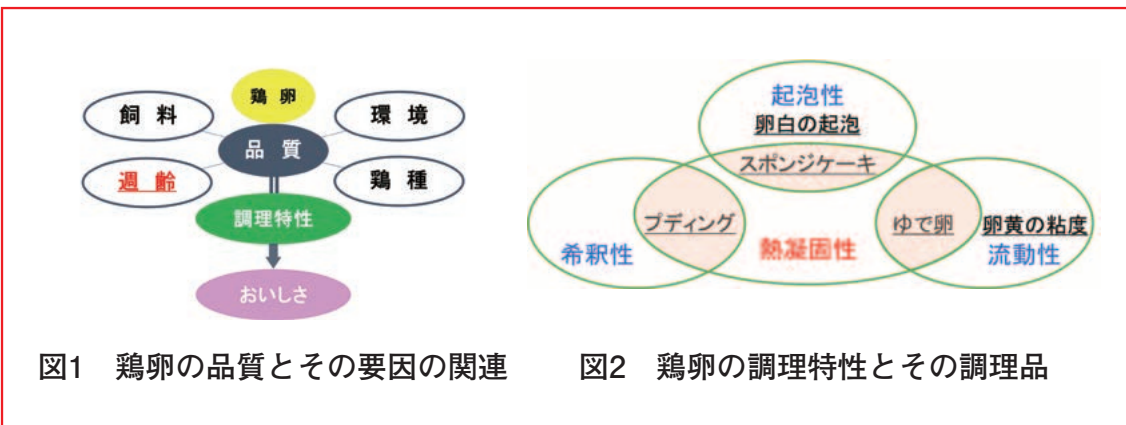
鶏卵における調理特性の解明とそのおいしさ

キーワード：鶏卵 飼料 週齢 調理特性 物理的特性 味 におい おいしさ

家政学部栄養学科 小泉 昌子（こいずみ あきこ） 応用調理学研究室
TEL：03-3961-5428 e-mail：koizumi-a@tokyo-kasei.ac.jp

研究

鶏卵は凝固性や起泡性など、様々な調理特性を持つ。そして鶏卵の品質に影響を与える要因として、飼料・鶏の週齢・鶏種・鶏を取り巻く環境がある。本研究では、これらの要因が鶏卵の調理特性に与える影響を検討している。



飲料水の生物浄水法

キーワード：緩速ろ過 生物浄化 藻類 硬度 硝酸態窒素

家政学部栄養学科 小関 正道（こせき まさみち） 食品分析学研究室
TEL：03-3961-7476 e-mail：kosekim@tokyo-kasei.ac.jp

研究

水道水は浄水場で浄化され給水されている。浄化する原水の硬度や硝酸態窒素の濃度が高い場合、通常の浄水法でこれらを除去低減化することは困難であるが、除去するために高額な化学的物理的処理法も実施されている。しかし多くの施設では費用面で実施できない。この問題を解決するために下のような生物浄化法を検討している。

○硬度低減化

現在実施されている化学処理法



検討中の生物処理法



水中で少なくなったCO₂の平衡を保つために硬度が低下する



○硝酸性窒素低減化



上記の硝化脱窒反応が藻類によるNPK塩の吸収を想定

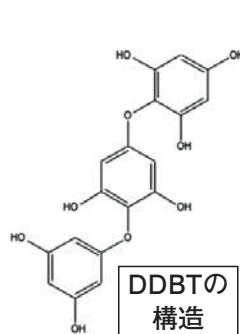
酵素とその利用に関する研究

キーワード：酵素の構造と機能 酵素反応の利用 酵素阻害物質
食品中の低分子化合物の網羅的分析 海藻に含まれる機能性成分

家政学部栄養学科 小西 康子（こにし やすこ） 栄養生化学研究室
TEL：03-3961-7447 e-mail：konishi-y@tokyo-kasei.ac.jp

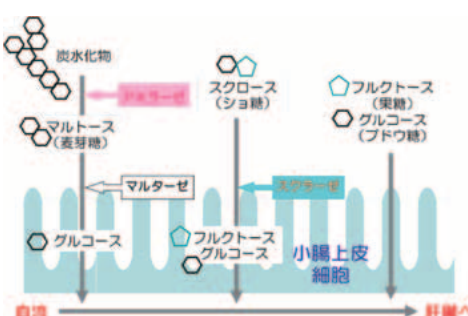
研究

酵素はタンパク質の生体触媒で、さまざまな種類がある。その中でも特に、酸化酵素・タンパク質重合化酵素・タンパク質分解酵素・糖質分解酵素を対象として、性質と反応・利用・阻害剤について検討している。



食事として摂取される糖質は、アミラーゼやマルターゼ、スクラーゼなどの糖質分解酵素により分解されてから小腸で吸収され、血液中に入っていきます。

褐藻であるヤツマタモクから、糖質分解酵素に対して強い阻害作用をもつ新規ポリフェノールであるDDBTを分離精製しました。



国内産雑穀粉の基礎特性およびその加工・利用方法の検討

キーワード：雑穀の有効利用 食物繊維（ β -グルカン）による生活習慣病予防
第六次産業の支援

大学院人間生活学総合研究科 健康栄養学専攻 家政学部栄養学科

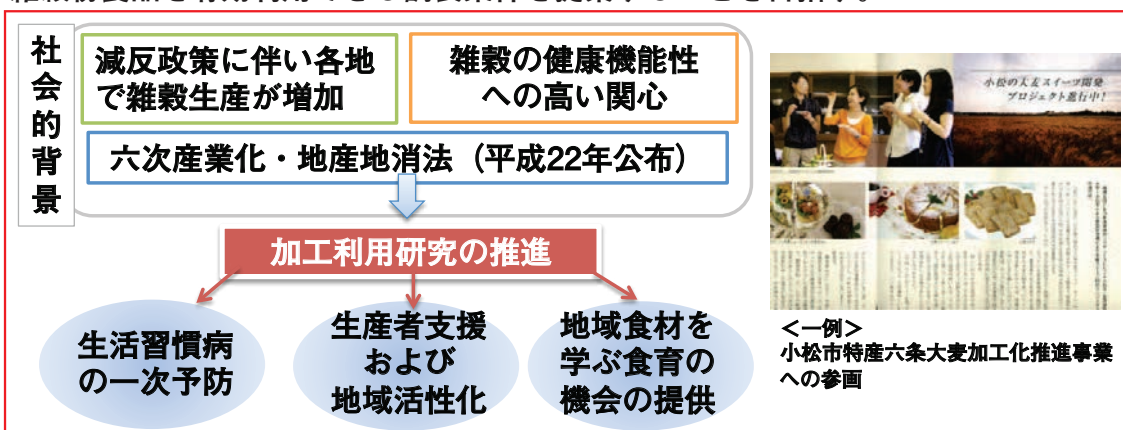
小林 理恵（こばやし りえ） 調理科学第1研究室

TEL：03-3961-7248

e-mail：kobayashi-r@tokyo-kasei.ac.jp

研究

日常の食物繊維摂取量の向上、及び嗜好性、機能性に優れた食品の創製へと展開する基盤的な研究として、各種雑穀粉生地調製における材料設計（加水量、副材料、混合条件など）と、その調理品の品質評価および嗜好性評価との相関性から、雑穀粉食品を有効利用できる調製条件を提案することを目指す。



①輸入冷凍エビの汚染実態及び分離菌の薬剤感受性について ②食肉の汚染実態調査

キーワード：冷凍エビ 食肉 耐性菌 細菌汚染

家政学部栄養学科 古茂田 恵美子（こもだ えみこ） 微生物学研究室

TEL：03-3961-8214

e-mail：komoda@tokyo-kasei.ac.jp

研究

我が国でも、ニューデリー・メタロ- β -ラクタマゼー（NDM-1）産生多剤耐性菌は院内感染などで問題となっており、アジア諸外国から輸入されている冷凍エビの細菌汚染実態を明らかにするとともに薬剤耐性試験により、NDM-1産生多剤耐性菌についても調査している。

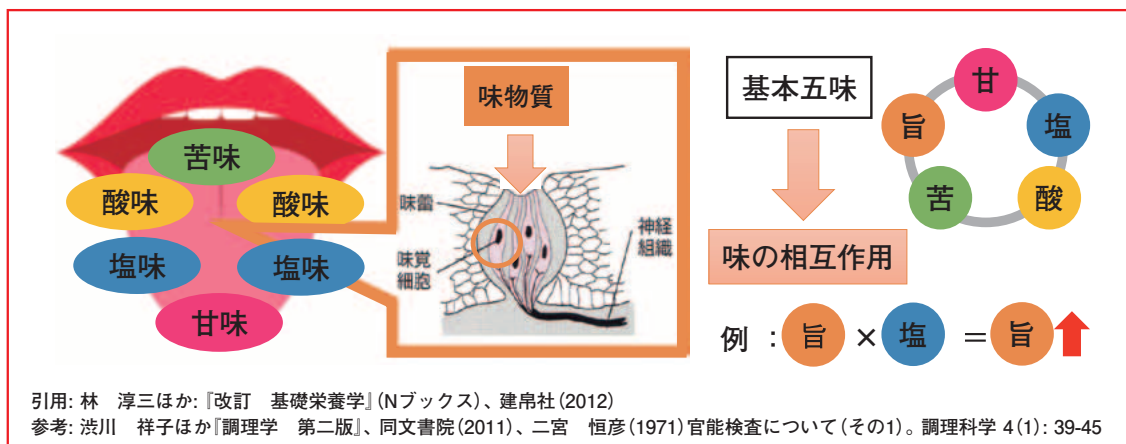
我が国で流通している食品の生物学的危害を把握し、的確な予防措置の実施を目的として、市販流通している肉類を中心に食中毒原因物質（サルモネラ属菌、カンピロバクター、腸管出血性大腸菌等）の汚染・保菌調査を実施する。

分析型官能評価における味の相互作用の検討

キーワード：分析型官能評価 味の相互作用 うま味 甘味 苦味
家政学部栄養学科 齊藤 美佳（さいとう みか） 調理科学第1研究室
TEL：03-3961-0086 e-mail：saito-mi@tokyo-kasei.ac.jp

研究

味覚は、ヒトにおいて食物摂取時の「おいしさ」を認知するために、重要な感覚である。基本味として甘味、塩味、酸味、苦味、うま味の五種類が分類されており、これらの味の組み合わせにより、味の相互作用が起こる。本研究は、うま味、甘味、苦味に着目した味の相互作用を分析型官能評価により明らかにする。

骨密度および身長に影響を及ぼす骨代謝関連
遺伝子多型と生活習慣（運動と栄養）の関連

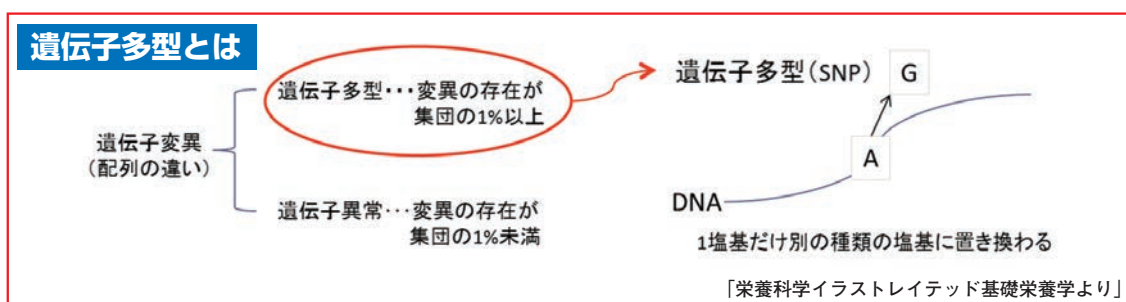
キーワード：遺伝子多型 運動 栄養 骨代謝関連遺伝子 骨密度 身長
生活習慣

家政学部栄養学科 坂本 友里（さかもと ゆり） 栄養生理学研究室
TEL：03-3961-7463 e-mail：sakamoto-y@tokyo-kasei.ac.jp

研究

近年、遺伝子検査によって様々な体質や疾患に対するリスクが簡単に判定できるようになった。しかし、現時点では遺伝子検査の正確性に関して十分でない項目もあり、より正確性を高めるには多くの遺伝子多型の情報を集積する必要がある。

よって、本研究では複数の骨代謝関連遺伝子多型と生活習慣（運動と栄養）がどのように骨密度および身長に反映されているかを明らかにし、骨粗鬆症予防や身長を含む体型のコントロールに対する栄養教育や運動指導に向けて重要な基礎データを提供することを目的とする。



食品のかおりに関する分析化学的研究

キーワード：食品 かおり におい フレーバー オフフレーバー GC-MS装置
官能評価

大学院人間生活総合研究科 健康栄養学専攻 家政学部栄養学科

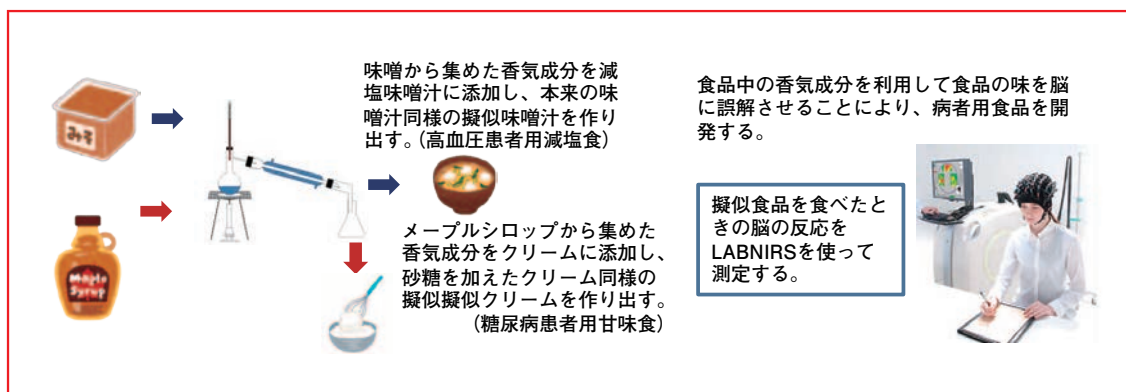
佐藤 吉朗（さとう よしお） 食品衛生学研究室

TEL：03-3961-7767

e-mail：satouy@tokyo-kasei.ac.jp

研究

食品のにおいを食品の味に利用する。即ち、塩味食品の香気成分を他の食品に添加し、塩味を感じる食品を開発する。同様に甘味食品を開発する。



小学生に対する医学教育の意義（子ども向け医学教室）

キーワード：医学教育 健康教育 がん教育 ヘルスリテラシー 科学的思考力

家政学部栄養学科 澤田 めぐみ（さわだ めぐみ） 臨床栄養情報研究室

TEL：03-3961-8092

e-mail：sawada-m@tokyo-kasei.ac.jp

研究

小学生（さらに中学生や幼児）に対する医学教育の意義について研究中。子ども向け医学教育用教材の開発なども行い、それを用いた授業プログラムの提案・出前授業などを実施している。



生活習慣病と性差

キーワード：肥満 脂質異常症 高血圧 男女差

家政学部栄養学科 関目 綾子（せきめ あやこ） 栄養情報研究室
TEL：03-3961-8233 e-mail：sekime@tokyo-kasei.ac.jp

研究

生活習慣病は栄養バランスや運動、休養などの生活習慣が良くない状態が積み重なって発症しますが、要因は必ずしもそれだけではありません。

例えば男性の方が肥満の割合が高いなど、性別によって生活習慣病のかかりやすさが異なります。このメカニズムを調べ、それぞれの性別に合った生活習慣病の予防方法を模索していきたいと思います。

栄養バランスの異なる飼料や特定の食材を多く含む飼料を実験動物に投与し、肥満、脂質異常症、高血圧などの発症の性差を確認しています。

在宅医療における食環境支援

キーワード：食事選択 食習慣 低栄養 栄養バランス 水分補給

家政学部栄養学科 田中 寛（たなか ひろし） 病態栄養学研究室
TEL：03-3961-0266 e-mail：tanaka-h@tokyo-kasei.ac.jp

研究

我が国の平均寿命は、国民皆保険の考え方に基づき高水準の医療・介護制度に支えられ、今後益々延伸すると考えられています。一方、75歳以上の高齢者数は、2055年には全人口に占める割合が25%を超えたとの試算もあり、在宅での介護、生活支援等の需要が益々高まることが予想されております。

在宅患者の食事に関する課題：

- ・生活習慣の乱れによる、欠食や間食等不規則な食事
 - ・菓子パン等嗜好品に依存した栄養素の偏り
 - ・味覚等の変化に伴う満足感の激減 など
- これらの課題について、可能な限り寄り添って改善するための活動です。



高齢者向けエスプーマ食の開発

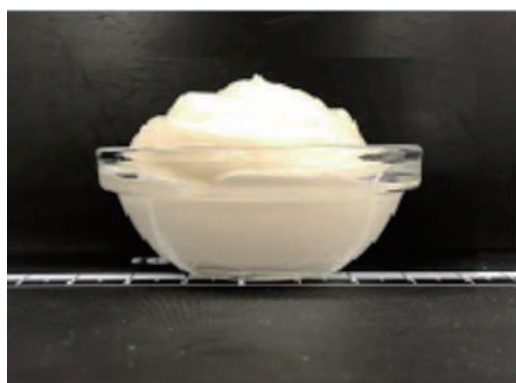
キーワード：エスプーマ Espuma 嚥下 高齢者

家政学部栄養学科 肥田(駒込) 乃莉子(ひだ(こまごめ) のりこ) 調理学研究室
TEL：03-3961-5310 e-mail：komagome-n@tokyo-kasei.ac.jp

研究

嚥下困難な高齢者向けの食事として、エスプーマ調理した泡状食の開発について検討している。おいしく、飲み込み易い、泡状食の開発を行っている。

泡状米粥



エスプーマ調理の特徴

- 少量で高エネルギーが摂取できる
例) 米粥 40 g / 100 kcal
- 咀嚼の必要がなく、飲み込み易い
- 食べている間に離水がしにくい

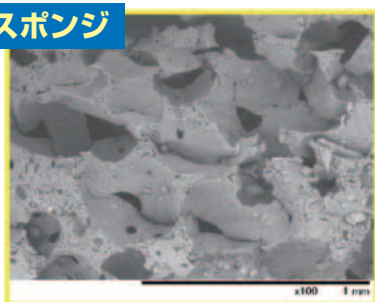
鶏卵およびその加工品の利用に関する品質特性

キーワード：鶏卵 卵殻粉 調理・加工 テクスチャー 官能評価 組織構造
家政学部栄養学科 峯木 眞知子(みねき まちこ) 応用調理学研究室
TEL：03-3961-7046 e-mail：minekim@tokyo-kasei.ac.jp

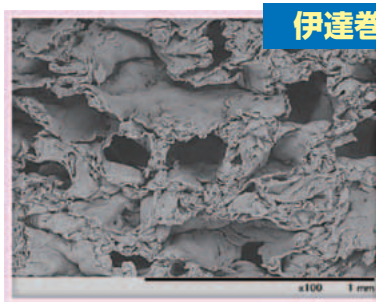
研究

鶏卵は優れた栄養をもち、消化吸收もよい動物性食品で、安価で扱いやすくおいしい食材である。しかし、コレステロール含量が多いことから、避ける方も多く、飼料効率も良い食品ながら、消費量は低下している。卵殻の利用も可能で、カルシウム補給に用いられる。これらの調理に伴う栄養やテクスチャーの変化、食味については、未明の点が多い。しかも、近年は飼料が異なり、飼育の仕方も変わってきている。そこで、消費者に鶏卵の正しい知識とおいしさを伝えられるように、テクスチャーや組織構造の面より解明する。

スポンジ



伊達巻



構造が類似していると食感や味も類似している。

日本を含むアジア諸国の食品衛生状況調査

キーワード：HACCP 食品衛生 食肉衛生 動物由来感染症 サルモネラ
カンピロバクター ノロウイルス 狂犬病 と畜場 食鳥処理場
フィリピン タイ ラオス ミャンマー ジビエ

家政学部栄養学科 森田 幸雄（もりた ゆきお） 食品衛生学第2研究室
TEL：03-3961-8214 e-mail：moritay@tokyo-kasei.ac.jp

研究

日本、アジア諸国の食品由来感染症や動物由来感染症調査を実施。また、我が国の農場・食肉処理場・食品製造業のHACCP導入効果等の研究を実施。

2018年はスターゼン(株)、JA飛騨ミートとの共同研究により次の論文や報告等を公表

- ・三浦ら、ガス置換包装された食肉の保存性、日本食品微生物学雑誌（印刷中）
- ・森田、ジビエの食肉への利活用と衛生管理、日本食品微生物学雑誌、35(3)、105-111。
- ・Katoら、Prevalence of Bacterial Contamination in Samples of Uncooked Rice from Markets and Homes in Asian Countries、日本家政学雑誌、69(7)、496-502。
- ・森田、腸管出血性大腸菌による食中毒の発生要因と発生予防のための検査、月刊HACCP、24(12)、29-35。
- ・森田、食鳥処理場・食肉加工工場におけるカンピロバクター対策、月刊食品工場長、259、22-26。
- ・森田ら、HACCP総論 一食肉・食鳥肉のゼロトレランスによる微生物制御一、感染制御と予防衛生、2(1)、28-33。
- ・森田、ジビエの衛生管理とジビエ処理施設に要求されるもの、獣医畜産新報、71(2)、99-103。

高齢者の食生活・栄養改善

キーワード：高齢者 介護予防 健康寿命 食生活 低栄養

家政学部栄養学科 和田 涼子（わだ りょうこ） 栄養教育研究室
TEL：03-3961-7495 e-mail：rwada@tokyo-kasei.ac.jp

研究

食生活の見直しや低栄養状態の改善によって高齢者の自立した生活を長期に可能とできれば介護予防と健康寿命の延伸に寄与できると考える。

栄養改善の支援と実態調査等から支援方法等を検討する。

実践例

- 1) 食生活改善のための情報提供と調査および栄養相談
- 2) 北区介護予防フェアにて食生活に関する情報提供
- 3) 食事サービスおよび料理教室開催等



衣服の着用快適感に関する研究

キーワード：圧迫 快適感 衣服内温湿度 着心地 健康 湿潤感 肌触り

大学院人間生活学専攻 造形学専攻 家政学部服飾美術学科

潮田 ひとみ（うしおだ ひとみ） 被服衛生学研究室

TEL：03-3961-8568

e-mail：ushioda-h@tokyo-kasei.ac.jp

研究

機能性ファンデーションの開発：ファンデーションは補正のために着用されてきたが、近年では、補正だけでなく、筋量のアップにも役立つことがわかってきている。圧迫と筋肉の動き方について明らかにし、適切な姿勢矯正ファンデーション・スポーツウェアの開発を目指したい。

かゆみ低減衣服の開発：まだ準備段階の研究であるため、かゆみを低減させるような洗剤、石けんの開発の目途がたった段階である。同様の加工によってかゆみ低減衣服素材の開発も視野に入れていきたい。

身体・衣服素材の濡れが体温調節反応と運動機能性に及ぼす影響：寒冷環境での衣服素材の湿潤が体温調節反応に及ぼす影響、特に、体温低下を起こしにくい衣服素材の選択方法や着用方法、運動機能性を低下させないような衣服の着用方法について明らかにしていきたい。

服飾工芸（手芸）の文化研究と作品制作

キーワード：服飾工芸 服飾文化 手芸 編物 刺繍 伝統手芸 古布・古着の再利用

大学院人間生活学総合研究科 造形学専攻 家政学部服飾美術学科

大塚 有里（おおつか ゆり） 手芸研究室

TEL：03-3961-8394

e-mail：otsuka@tokyo-kasei.ac.jp

研究

研究：服飾工芸（手芸）文化における様々な諸相を各種媒体から検討

制作：手芸技法を用いてその時々的情勢や心情などを表現



ミニ講演（板橋区）

作品紹介 左から（国際服飾学会）

24th International Costume Congress (Art to Wear)、Korea 2010「深まり行く秋」（フェルトワーク）

25th International Costume Congress (Art to Wear)、Taiwan2012「つなぐ～東日本大震災を想う～」(パッチワーク)

26th International Costume Congress (Art to Wear)、Japan 2014「日本文化からのイメージ発想～畳縁と掛軸～」

28th International Costume Congress (Art to Wear)、Taiwan2018「円形から展開したドレス～瑠璃色の地球～」

和服構成におけるICTの活用

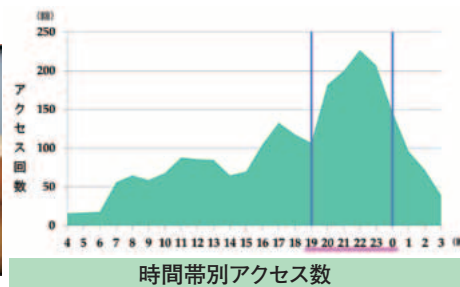
キーワード：和服構成 和裁 基礎技術 動画教材 伝統技術の継承
 家政学部服飾美術学科 金子 真希（かねこ まき） 服飾造形第6研究室
 TEL：03-3961-5969 e-mail：kaneko-m@tokyo-kasei.ac.jp

研究

学校教育において、大学進学前の家庭科は、広範囲の内容であるのに授業数が少なく、特に和服に関する内容は、十分な時間が当てられていないと思われる。このような現状の中で大学に入学し、和裁経験のない学生が限られた時間の中で正しい技法を習得するためには、繰り返し確認ができる教材が必要不可欠であると考えた。動画はスマートフォンやタブレット端末でも見られ、時間や場所を気にせずに予習復習に活用できると考えられるため、動画教材の作成を行い、e-Learningシステムでの活用を試みた。

学生の利用状況を調査し、より良い教材開発と動画教材の効果的な活用法の研究を行っている。また、伝統技術の継承にも繋げていきたい。

作成した動画教材



平成29年度の利用調査では調査対象者201名中、約75%の学生が動画教材を利用していた。利用時間も7:00p.m.～1:00a.m.のアクセスが多く、時間外学習に利用されていることが確認できた。

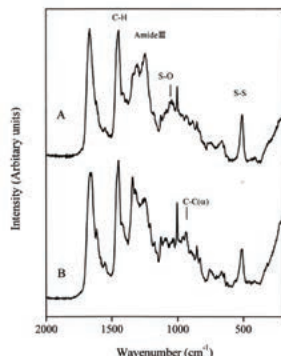
ラマン分光法によるケラチン繊維の構造解析

キーワード：ラマン分光法 ケラチン繊維 化学修飾 パーマネントセット 漂白
 家政学部服飾美術学科 葛原 亜起夫（くずはら あきお） 被服整理学研究室
 TEL：03-3961-5692 e-mail：kuzuhara-a@tokyo-kasei.ac.jp

研究

ジスルフィド（-SS-）結合は、羊毛や毛髪などのケラチン繊維中で3次元的な架橋を形成しており、その物理的および機械的性質、さらに構造安定性に大きく寄与している。そこで、われわれは、タンパク質の変性、あるいは分解をとまわずに、直接的に-SS-結合に関する情報が得られるラマン分光法を用いて、ケラチン繊維の内部構造におよぼす化学修飾処理の影響について調査を行っている。

20代日本人女性の黒髪のキューティクル細胞とコルテックス細胞のラマンスペクトル



- ・毛髪試料をエポキシ樹脂で包埋し、マイクロームを用いて1.5μmの厚さに切断、ラマンスペクトルを測定。
- ・S-S：ジスルフィド（-SS-）結合由来のS-S伸縮バンド。
- ・C-C（α）：α-ヘリックス由来のC-C骨格伸縮バンドがコルテックス領域に観測。

(A) キューティクル領域（毛髪表面から1μmの部位）

(B) コルテックス領域（毛髪表面から5μmの部位）



ケラチン繊維に対するパーマメントセット、漂白などの化学修飾処理の影響調査

西洋歴史服の構造と技術に関する研究—レプリカ制作を通して—

キーワード：西洋服飾史実物資料 レプリカ 制作 構造

家政学部服飾美術学科 倉 みゆき（くら みゆき） 服飾造形第5研究室
TEL：03-3961-5473 e-mail：kuram@tokyo-kasei.ac.jp

研究

本学博物館所蔵の衣服のうち西洋歴史服の、そのデザイン、素材、縫製など構造を明らかにし、時代、ファッション、社会背景、技術を研究する。

例えば

このドレスのカッティングは後ろ身頃に特徴があり腰より下が後方に突き出た形になっている。これは布を左右から襷を深く取り、下方から数か所たくし上げることによりできている。ファッションプレートと合わせてみると、1880年代よくみられ、バスルスタイルと思われる。など



近世の小袖服飾、江戸時代前期の染織品の受容と変遷

キーワード：近世 日本服飾・染織 外来染織品 実態研究 文書 価格 文学
大学院人間生活総合研究科 造形学専攻 家政学部服飾美術学科
沢尾 絵（さわお かい） 服装史研究室
TEL：03-3961-8273 e-mail：sawao-k@tokyo-kasei.ac.jp

研究

近世の小袖服飾・染織については、現存する資料や絵画などを中心として多様な研究がなされている。しかし例えば江戸時代前期、寛永期頃の人々の服飾について捉えようとすると、服飾や染織品に関する実物資料は空白期と言われるほど些少で、その実態をすぐに知ることは非常に難しい。また近世における現存資料の多くは、身分の高い人々を対象としたものであり、実は我々が知ることができる服飾および生活全般における染織文化は、社会全体のごく一部に過ぎないのである。

そこで近世の染織文化の実態に少しでも近づくために、実物以外の周辺資料の詳細を検討することが必要となる。たとえば、当時を描く文学作品、呉服屋に伝えられた注文台帳や取引記録、私的な覚書などの記録文書、絵画資料などの調査・検討により、その全体像が少しずつ見えてくるのである。

⑥『井原西鶴』作品に見る染織品の名称と用途（概ね価格順、拙稿より部分抜粋）

- (1) 花氈（敷物）、毛類（役者の着るもの）、白羅紗（羽織）、猩々緋の敷物
- (2) 茶縹子の幅広（帯）、黒の縹子地きどく頭巾、黒縹子の大振袖
- (3) 白紬の着るもの、白紬の足袋
- (4) 縹子の二つ割（帯）、緋縹子の褌、緋縹子の巻物
- (5) 竜門の二つ割（帯）
- (6) 朝鮮紗綾の腰巻、緋紗綾の下帯、飛紗綾の內衣
- (7) 緋縮緬の下帯、白縮緬の投頭巾、紫縮緬のひっかえし（小袖）、花色縮緬の長羽織

セルロースナノファイバーによるセルロース系天然繊維の改質

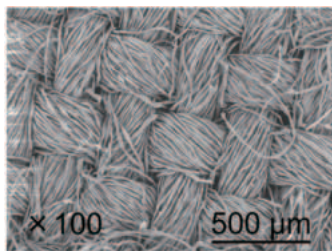
キーワード：セルロース 繊維 塗工 ナノファイバー 被服材料

家政学部服飾美術学科 白井 菜月（しらい なつき） 被服材料研究室
TEL：03-3961-8625 e-mail：shirai-n@tokyo-kasei.ac.jp

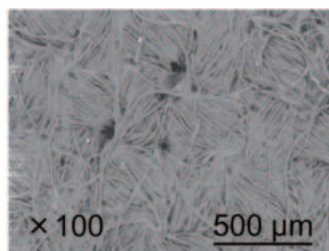
研究

近年、セルロースナノファイバーは世界的に注目されており、フィルター、包装材料、ゲルといった様々な分野で応用研究が進んでいる。

本研究では、セルロースナノファイバーの衣料分野への活用の可能性を見出すとともに、循環型社会へ繋がる新規衣料用材料の創製を目的として、セルロースナノファイバーを綿織物に塗工し、その効果を評価した。



綿白布



セルロースナノファイバー塗工綿布



吸水性試験

ユニバーサルファッション

キーワード：ユニバーサルファッション 不満調査 着心地の評価 高齢者
障がい者 子供 デザイン パターン 縫製 ファッションショー

家政学部服飾美術学科 杉野 公子（すぎの きみこ） 服飾造形第3研究室
TEL：03-3967-8328 e-mail：sugino-k@tokyo-kasei.ac.jp

研究

高齢社会の日本において、健康かつお洒落なファッション環境を実現することに貢献したいと考えている。そのため、年齢・障がい等に関わらず誰もがファッションを楽しめる社会を目指す「ユニバーサルファッション」を研究テーマとしている。近年の主な研究は、高齢者のファッションに対する不満調査や着心地の評価、着用実験等に基づく作品企画等である。また、ユニバーサルファッションをテーマとした作品制作を行ない、学生と共に、子供から高齢女性、障がい者にモデルを依頼したユニバーサルファッションショーを開催することも多い。

高齢女性のためのスーツ



レプリカ制作を通してみる19世紀ヨーロッパのこども服ーコットン地ドレスー

キーワード：こども服 レプリカ テキスタイル技術 ミシン刺繍

家政学部服飾美術学科 鈴木 由子（すずき ゆうこ） 服飾造形第7研究室
TEL：03-3961-5659 e-mail：ysuzuki@tokyo-kasei.ac.jp

研究

1880年代のイギリスで製作された幼い少女用の木綿地ドレスのレプリカを制作することにより、当時のイギリス綿織物の生産技術の一端を知り、パターンや縫製手法から制作者の意図するところを読み取る事を目的とした。用いられた生地は現在の市販のものに比べて極めて密度の高い織物であることが分かったが、国内有数の綿織物産地の協力、コンピューターミシンによる刺繍などにより、オリジナルの材料に近づくことが出来た。またこのドレスは、ウエストを締め付けることなく、自然なこどもの体型にあわせた1880年代少女服の典型的シルエットを生み出すように裁断されていることが分かった。

着やすく縫いやすいパターンと制作技術の研究
西洋服飾の復元的研究キーワード：服飾制作技術 素材の特性を生かした服飾デザイン
歴史に見る服飾制作技術の変遷 時代衣装制作家政学部服飾美術学科 高水 伸子（たかみず のぶこ） 服飾造形第4研究室
TEL：03-3961-5576 e-mail：takamizu@tokyo-kasei.ac.jp

研究

個人体型に合わせた一点制作を前提とし、初心者から中・上級者までを対象に、力量と着用目的に合ったデザインと制作技術を研究している。一見複雑そうに見える衣服制作も、基本操作の積み重ねである。デザインやシルエットによっては、過去の歴史を紐解き、時代とともに埋もれてしまった技術を掘り起こし、現代の材料と道具に置き換えて制作している。アイテムは、普段着からフォーマルウェア、ウェディングドレスまで、使用素材は綿・麻・絹・毛・合繊・ニットまで、それぞれの持ち味にマッチしたパターンと制作方法を模索し、魂を込めた服づくりを目指す。

制作を担当したWebサイト

大日本印刷株式会社

『紙で再現されたマリーアントワネットのドレス』

https://www.youtube.com/watch?v=wlfHOMZ_j7c

©Maison des Musées de France

LMSを活用した被服教育方法に関する研究

キーワード：学習支援システム（LMS） 被服構成学 動画

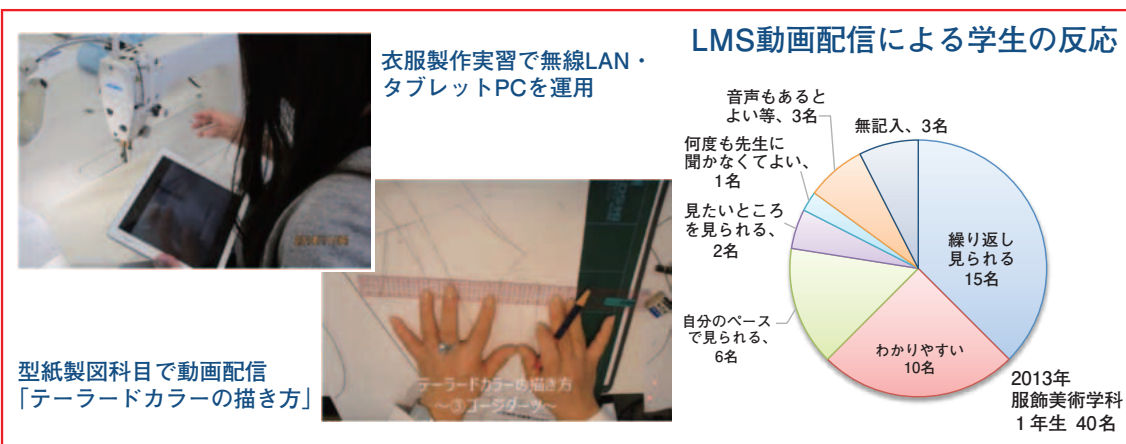
家政学部服飾美術学科 田中 早苗（たなか さなえ） 被服構成システム研究室

TEL：03-3961-9002

e-mail：stanaka@tokyo-kasei.ac.jp

研究

高等教育における衣服の設計・製図・縫製などの実習科目に動画教材と学習支援システム（LMS：Learning Management System）を導入し、授業実践から教育的効果を検証している。被服教育のLMS運用の課題に向き合い、ICT教材普及のための啓蒙活動を研究目的とする。



和服構成の試み ダーツ分量を考慮したゆかた製作

キーワード：和服構成 ゆかた ダーツ分量 LLサイズ以上の体型 お端折り

家政学部服飾美術学科 寺田 恭子（てらだ きょうこ） 服飾造形第1研究室

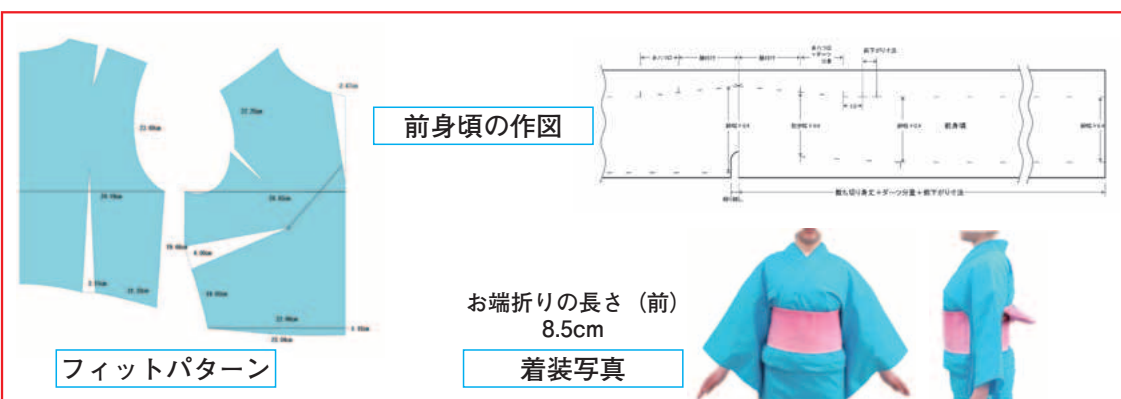
TEL：03-3961-8310

e-mail：teradak@tokyo-kasei.ac.jp

研究

LLサイズ以上の体型に配慮したきものの製作を目的として、上衣のフィットパターンのダーツ分量に着目し、ゆかたの製作を行っている。

胸脇ダーツ分量のあるゆかたに良い結果が得られたので、さらに追求し、どのような体型の人にも着やすいゆかたの構成を目指す。



伝統的素材を用いた立体造形の研究と空間表現の実践

キーワード：立体造形 彫刻 空間演出 色彩計画 透視図 表現方法

家政学部服飾美術学科 富谷 智（とみや さとる） 基礎デザイン研究室
TEL：03-3961-4497 e-mail：tomiya-s@tokyo-kasei.ac.jp

研究

美術・造形の分野で歴史的に用いられてきた伝統的造形素材である木・金属・布・紙等を複合的に用いた立体造形の抽象的表現とその加工方法の可能性を探求する。その活動を空間との関係性からデザインの的に可視化する方法で検証し、社会的に現実空間へ組み入れることを検討している。

機能性を有した快適な被服材料の開発

キーワード：衣料品 紙おむつ 機能性 テキスタイル ナノファイバー 風合い
大学院人間生活総合研究科 造形学専攻 家政学部服飾美術学科
濱田 仁美（はまだ ひとみ） 被服材料研究室
TEL：03-3961-8625 e-mail：hamada-h@tokyo-kasei.ac.jp

研究

1. 極細天然繊維であるセルロースナノファイバーを利用して、環境に優しく独特な風合いと機能性を有する新規被服材料の創製を目指している。
2. 高齢化社会の到来と共に需要が増加している、大人用紙おむつや吸水ケアナプキンなどの、使い捨て衣料品の快適性向上を目指している。

1. セルロースナノファイバー塗布テキスタイル

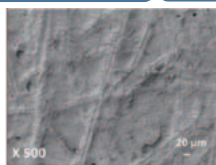


セルロースナノファイバー
(10万倍)

気液体バリア性

独特な風合い

保温性

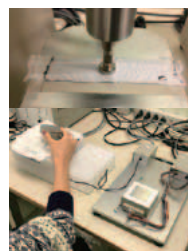


セルロースナノファイバー塗工不織布
(500倍、塗工量：3 g/m²)

2. 紙おむつの物性と風合い



紙おむつの風合い調査
at 東京家政大学森のサロン



紙おむつの圧縮特性・熱物性評価

①洋画による静物画の写実的表現 ②ファッションイラストレーションによる感性表現

キーワード：①洋画 静物画 写實的

②ファッションイラストレーション 挿絵 風俗画

家政学部服飾美術学科 桃木 美恵（ももき よしえ） モード美学研究室

TEL：03-3961-9207 e-mail：momoki@tokyo-kasei.ac.jp

研究

- ①一水会展（公募展） 主催 一水会 1990年 第40回記念 埼玉県美術展覧会 特選 埼玉県教育委員会賞
 埼玉一水会の人々展 主催 埼玉一水会 2006年 第68回 一水会展 佳作賞
 大宮美術家協会展 主催 大宮美術家協会
 さいたま市美術展覧会 主催 さいたま市美術展覧会実行委員会
- ②ファッションイラストレーション個展



エコカラー染色

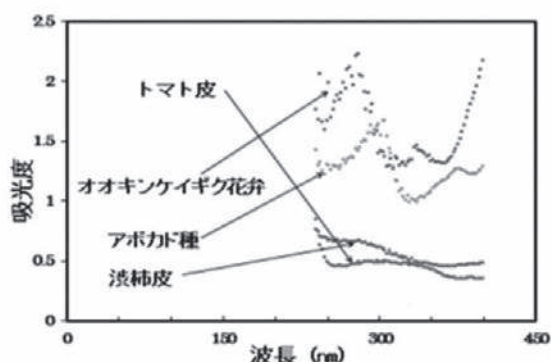
キーワード：草木染 健康衣生活 安全性 省エネルギー 抗酸化性 紫外線遮蔽

家政学部服飾美術学科 森 俊夫（もり としお） 染色加工研究室

TEL：03-3961-5603 e-mail：mori-to@tokyo-kasei.ac.jp

研究

植物色素は抗酸化力や紫外線遮蔽効果を持ち、自然な色合いを表現する。植物色素で染色した布の色彩情報を測定し、色彩情報をヒストグラム化することによって、視覚的に評価できる方法を検討するとともに、耐洗濯性、紫外線遮蔽効果について調べる。



各種色素で染められた
各種布の紫外線吸収の比較

自然感、健康観、美感、
環境意識の向上

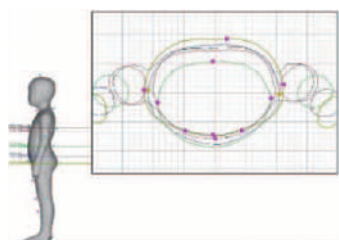
安全性に配慮した子供服のデザインの研究・提案

キーワード：子供服 機能性 安心 安全 反射材 視認性 日本工業規格

家政学部服飾美術学科 山田 民子（やまだ たみこ） 服飾造形第2研究室
TEL：03-3961-9304 e-mail：yamada@tokyo-kasei.ac.jp

研究

現在の子供服は、ファッション性に富み多様化されているが、子供服のデザインに起因する事故が起こっている。事故の特徴と事故防止の課題を明らかにし、子供の健全な成長に寄与する安全で、安心できる衣服を研究し提案する。



子供の体型、サイズを理解し、子供のサイズに合った衣服を着用させることが必要である。サイズに合わない衣服は、事故につながる。



再帰性の反射材をスカートの裾に用いている。夜のドライバーから身を守ることができる。

廃貝殻の有効利用

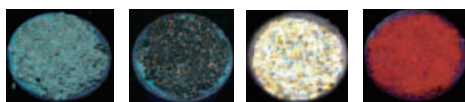
キーワード：リサイクル 食品廃棄物 水質浄化 脱リン 無機蛍光物質

家政学部環境教育学科 井上 宮雄（いのうえ みやお） 環境化学研究室
TEL：03-3961-6757 e-mail：inouem@tokyo-kasei.ac.jp

研究

ホタテ、カキ、アサリ、シジミで年間およそ45万トンの廃貝殻が生じているが、その多くが有効利用されずに埋立処分され、悪臭を放つなどで大きな問題となっている。これらの廃貝殻のリサイクル資源としての利用価値を高めることを目的とした研究を行っている。貝殻の主成分は炭酸カルシウムであるので、脱リン剤としての水質浄化材や無機蛍光体としての特性について調べている。

カキ貝殻焼成物の蛍光特性



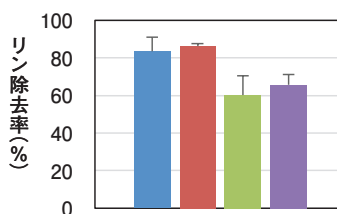
300℃ 500℃ 700℃ 900℃

各温度で1時間焼成した直後の試料に、254nmの紫外線を照射した時の蛍光

900℃焼成物は1週間後には消光

貝殻による水中からの脱リン作用

■カキ ■ホタテ ■アサリ ■シジミ



50mLの40mg- PO_4/L 溶液に対して貝殻1gを混ぜ、30分攪拌後の溶液からのリン除去率

カキ、ホタテ（カルサイト型 CaCO_3 ）とアサリ、シジミ（アラゴナイト型 CaCO_3 ）で差が見られた。

利他行動の進化（スズメバチ、アシナガバチのワーカーはなぜ働くのか？）

キーワード：社会性昆虫 ダーウィンの進化論 行動生態学

家政学部環境教育学科 片田 真一（かただ しんいち） 生物多様性研究室
TEL：03-3961-4719 e-mail：katada@tokyo-kasei.ac.jp

研 究

スズメバチの巣の中には「働き蜂」と呼ばれるものがあり、自分では産卵せずに主に労働に従事している。このような「利他行動」はどのようにして進化しうるのだろうか、説明する学説はあるか？ 学説を支持する実証研究はあるか？



写真は沖縄県八重山諸島に生息するツマグロスズメバチの巣とその調査の様子。行動観察に遺伝学的解析による家族構成の調査を組み合わせ、ハチたちの家族構成を明らかにし、複雑な社会が進化した要因を探る。

環境教育、情報教育、物理学、放射線科学、原子核物理

キーワード：持続可能な開発のための教育ESD 元素分析 物質循環
放射線教育 プログラミング教育

家政学部環境教育学科 新関 隆（にいぜき たかし） 情報教育研究室
TEL：03-3961-4790 e-mail：niizeki@tokyo-kasei.ac.jp

研 究

身近な物質の元素分析を基にした物質循環の調査を環境教育に応用する。放射線について学び原発事故を考える、子ども向けプログラミング教育等。

食および人の暮らしの安心・安全のための生物間相互作用に関する研究

キーワード：微生物二次代謝物 菌類ウイルス 天然物化学 生理活性物質
化合物スクリーニング

大学院人間生活総合研究科 健康栄養学専攻 家政学部環境教育学科

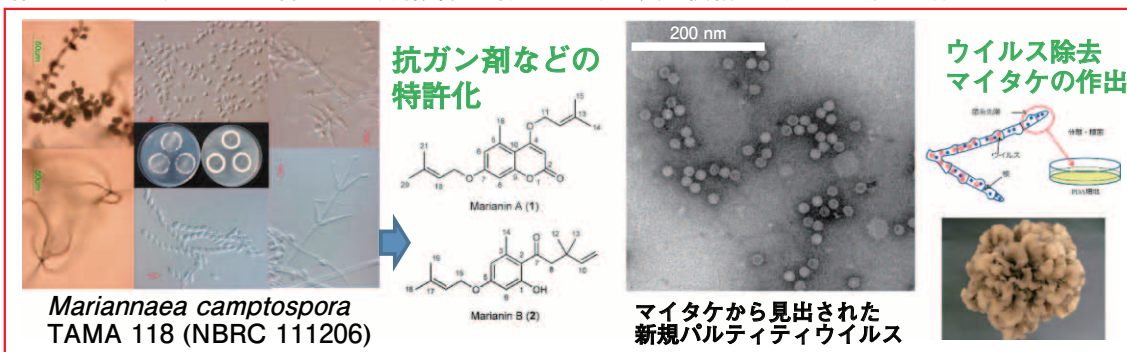
藤森 文啓（ふじもり ふみひろ） 生物学研究室

TEL：03-3961-0024

e-mail：fujimori@tokyo-kasei.ac.jp

研 究

当研究室では、カビ・キノコなどの微生物が生産する二次代謝物（化学物質）の中から、人や動物・昆虫などに有益な薬や忌避剤などの発見を目指して研究を行っている。また、食品に利用される微生物（発酵食品）やキノコなどの安定供給・安心・安全を目的に菌類の代謝物解析を行っている。さらにこれらの菌類に感染するウイルス（菌類ウイルス）が、食品生産に対して負の作用をもたらすのか、正の作用をもたらすのかを解析し、一般消費者が利用しやすい食品供給を目指して研究を行っている。



学校（主として小学校・中学校）の教育実践に関する研究

キーワード：安全教育 学校の危機管理 社会科教育 生徒指導 特別活動

家政学部環境教育学科 二川 正浩（ふたがわ まさひろ） 教育実践学研究室

TEL：03-3961-3844

e-mail：futagawam@tokyo-kasei.ac.jp

研 究

教育実践学は、学校教育における学習指導や生徒指導などに関する教育内容や方法に関する提案を行う学問です。その提案にあたっては、その有効性を検証するために、児童生徒の意識調査や授業観察など、学校現場との連携や地域調査などを重視しています。

主な研究成果（書籍や論文等）

(1) 社会科教育に関する研究

- ①「切実性を持たせるための教科書プランの作成（平和教育）」
- ②『中学校社会科教科書（地理・公民・歴史）』
- ③『中学校公民的分野指導書「学習の確認・活用とアクティビティの使用方法」』

(2) 安全教育（学校の危機管理）に関する研究

- ①「いじめ問題を題材とした社会科における人権教育へのアプローチ」
- ②「防災教育における思考判断力を育成するための一試案」

環境教育プログラム開発、クリティカルシンキング授業開発 および効果測定法開発

キーワード：環境教育 クリティカルシンキング プログラム開発 効果測定法開発
家政学部環境教育学科 宮本 康司（みやもと こうじ） 生態応用研究室
TEL：03-3961-4696 e-mail：miyamotok@tokyo-kasei.ac.jp
URL：http://www.tokyo-kasei.ac.jp/kankyo/tabid/1332/index.php

研 究

学校教育や幼児・児童を持つ家族向けの環境教育プログラム・カリキュラムを構築している。併せて、それらがもたらす効果の測定法を開発している。

また、小学生・中学生・高校生・大学生の思考獲得プロセスに関して、クリティカルシンキング・モラルシンキングを題材として研究している。



環境学習効果実証講座



クリティカルシンキング教材

教育効果測定法開発、土壌調査及び土壌教育

キーワード：学士力 社会人基礎力 教育効果測定法開発 質問紙調査
土壌調査 土壌教育
家政学部環境教育学科 茂木 もも子（もぎ ももこ） 情報教育研究室
TEL：03-3961-5744 e-mail：mogi-m@tokyo-kasei.ac.jp

研 究

- ①教育効果測定法開発：大学生を対象とし、「学士力」・「社会人基礎力」を高める授業の構築とともに、それらの能力習得程度や授業効果を把握する測定方法の開発を行っている。
- ②土壌調査及び土壌教育：土壌断面調査手法や土壌学分野の専門性を活かし、小中学生を対象とした土壌観察会や簡易土壌モノリス作成などを含む土壌学実験の実施が可能である。

—大学生に求められる能力—
学士力・社会人基礎力

PBL (Project-Based Learning) 授業の実施

質問紙調査

大学生を対象とした教育効果測定



土壌断面観察会の様子

グラフィックデザインにおけるインタラクティブの可能性

キーワード：グラフィックデザイン デジタルデザイン Webサイト コンテンツデザイン

家政学部造形表現学科 有馬 十三郎（ありま とみお） デジタルデザイン研究室
TEL：03-3961-9082 e-mail：arimat@tokyo-kasei.ac.jp

研究

グラフィックデザイン、Webサイトの進化は早く、技術の進歩が早い。どんなデザインやシステムが求められるのか、そのありかたを研究している。

デザイン制作を担当したグラフィックデザインとWebサイトの実績
特定非営利活動法人日本メディカルハーブ協会 公式サイト
<http://www.medicalherb.or.jp/>
有機栽培の白川茶園 公式サイト
<http://www5c.biglobe.ne.jp/~sirakawa/>
一般社団法人先端加速器科学技術推進協議会 公式サイト
<http://www.aaa-sentan.org/index.html>

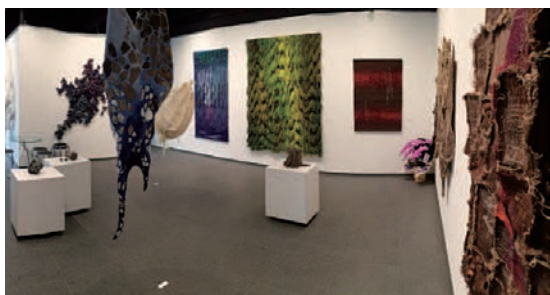
織物・フェルトによる造形、空間構成

キーワード：織物 フェルト テキスタイルアート 空間

家政学部造形表現学科 大木 敦子（おおき あつこ） 織物研究室
TEL：03-3961-9005 e-mail：ohki@tokyo-kasei.ac.jp

研究

時間とともに変化してゆく物質の表情をテーマに制作を続けている。
素材と表現方法、織物の技法や理論に加え、歴史的背景と現代社会の中でのテキスタイルの可能性について考察、研究中。



2017個展 ギャラリー・イン・ザ・ブルー



Title:重ねた刻



Title:光の集め方

自然環境を活用した造形ワークショップの実践研究 幼児教育としての意義の考察

キーワード：幼児教育 繊維造形教育 ワークショップ 野外活動

家政学部造形表現学科 岡本 恵（おかもと めぐみ） 住環境造形研究室（生活科学研究所）

TEL：03-3964-1535/03-3691-9040

e-mail：mokamoto@tokyo-kasei.ac.jp

研究

自然環境を活用した造形ワークショップの幼児教育への意義について、特に屋外で行う際の特徴をふまえながら、企画、実践、検討のサイクルによって考察するものである。幼児教育における表現活動では、現在の非認知的能力への着目からも、自然物を素材として用いたり、自然環境のなかで表現をおこなうような活動への期待が益々高まっている。こうして実践自体が着目される一方、表現活動と自然環境の関連をふまえつつ、その効果や意義を客観的に分析するような実践研究も必要であろう。申請者ら自身も、2015年より長野県東御市での野外アートプロジェクトなどで自然環境を活用した造形ワークショップを継続するなかで、屋内でおこなう実践とは異なる教育上の意義を実感しつつ、明確な分析に至っていない。本研究では屋外でおこなう際の特徴や留意すべき点などをふまえて考察を試みたい。

構成員 岡本恵（造形表現学科 助教）

田中千賀子（元造形表現学科 期限付助教、武蔵野美術大学非常勤講師）

自然物（樹木、草花、羊毛等）を用いて表現活動をおこなう造形ワークショップを、1 屋内、2 屋外それぞれを1回以上実施し、比較をふまえて教育上の意義や改善点など考察していく。考察の対象とするのは、企画、実践、振り返りそれぞれの段階での企画スタッフの感想等、実践前後の参加者の感想や撮影映像である。

1 屋内：東京家政大学 森のサロン

・日程：2018年6月～10月の間に1回実施・染色やフェルトアートをおこない、制作物で室内を装飾する。

2 屋外：長野県東御市「スケッチ大会&アートチャレンジ」会場・日程：2018年8月（準備片付け含め2泊3日）・絵画館の屋外に広がる芝生空間を用いて、染色またはフェルトアートをおこない、制作物などで空間を装飾する。

造形芸術における工芸教育の可能性を探る

キーワード：工芸 教育 ワークショップ 自然 素材 感性

家政学部造形表現学科 押元 信幸（おしもと のぶゆき） 金工・ジュエリー研究室

TEL：03-3961-5852

e-mail：oshimoton@tokyo-kasei.ac.jp

研究

今日の工芸は、身近な美術として私たちの生活に浸透し、現代の生活に根ざして、その表現や解釈について多様な展開が見られる。造形教育において、全身で体験できる工芸制作には多くの可能性が考えられており、工芸教育を学ぶ意義と今日的な役割についての研究とアウトリーチを行っている。



工芸教育の研究とアウトリーチ



絵画表現の多様性の研究と平面作品の展開

キーワード：絵画 ミクストメディア 平面表現

家政学部造形表現学科 小野寺 光（おのでら ひかり） 絵画研究室
TEL：03-3961-5345 e-mail：onodera-h@tokyo-kasei.ac.jp

研究

絵画を構成する要素をテーマ、支持体、素材技法、構成にわけ、研究、制作、発表を行う。

今年度の発表

ACT小品展（ギャラリー企画展） 作品2点出品
第92回国展入選・絵画部奨励賞 受賞
個展「はちがつの休符」 作品25点出品
グループ展「middle union」 作品4点出品
第92回国展受賞作家展 作品1点出品
個展「誰も知らない景色」

社会と美術

キーワード：美術史 アートマネジメント 現代美術 美術による地域振興 地域芸術祭 社会と美術
社会福祉と美術の連携 コミュニティ・アート・プログラム 美術を通じた個人の成長
美術とレジリエンス 芸術療法 ソーシャリー・エンゲージド・アート

家政学部造形表現学科 曾根 博美（そね ひろみ） 芸術学研究室
TEL：03-3961-8330 e-mail：sone-h@tokyo-kasei.ac.jp

研究

現代における美術は様々な広がりを見せ、近年では日本でも各地で地域の住民との連携による芸術祭が行われるなど、コミュニティでメディウムとしての役割を果たす場面が多く見られる。美術史からみた現代美術の発展としてのこうした社会と美術について、実践のなかから美術とレジリエンス、コミュニティとアート、社会福祉と美術の連携などからその意義と位置づけを行う。

2015年からメキシコで進行中のアート・プロジェクト「ミチョアカン・レポート」より



色糊とステッチによる作品制作

キーワード：染色

家政学部造形表現学科 早瀬 郁恵（はやせ いくえ） 染色造形研究室
TEL：03-3961-8344 e-mail：hayasei@tokyo-kasei.ac.jp

研究

着抜糊を用いた染色技法とステッチ（フリー・ミシン）による作品を制作し、公募展等に出品している。



[展覧会]

日展 日本現代工芸美術展 グループ展等

[入 賞]

日展：特選

日本現代工芸美術展：現代工芸賞 東京都知事賞

写真を中心とした展示空間による抽象概念の可視化

キーワード：写真 表現 映像

家政学部造形表現学科 淵之上 明日香（ふちのうえ あすか） 映像・メディア研究室
TEL：03-3961-5621 e-mail：fuchinoue-a@tokyo-kasei.ac.jp

研究

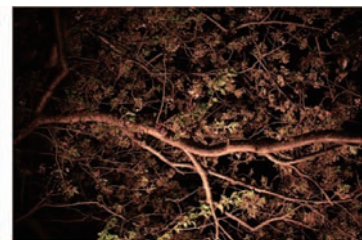
「抽象概念の可視化」をテーマとし、作品制作、展覧会等での発表を行う。

年度ごとに映像表現等による加工、複数メディアを用いたコラージュなど表現方法を変えていき、それにより生まれた写真作品で鑑賞者が持つ抽象概念を引き出す。

淵之上明日香展 「ハートビート」

- ・2018.3.27（火）～4.1（日）
- ・Gallery 美の舎（東京・谷中）
- ・展示数20点。

コラージュ＆ドローイング作品5点、
写真（木製パネル加工）11点、
アクリル板・写真（和紙にインク
ジェット印刷）1組（4点）。



意識はしなくとも当たり前に存在している「感情」を根底においた作品を制作し展示。脈を打ち続ける

心臓の鼓動をコンセプトテーマとした。また、「後悔や悲しみ、葛藤といった感情も表現し自分の外部に放出することで整理・客観視することができ、成長の糧となる」という仮説の証明を目標に掲げた。

Artを通じたコミュニティの形成と多世代交流空間の構築

キーワード：Art アート 絵画 芸術 子ども 子育て世代 多世代 ワークショップ
 家政学部造形表現学科 山藤 仁（やまふじ ひとし） 絵画研究室
 TEL：03-3961-5345 e-mail：yamafuji-h@tokyo-kasei.ac.jp

研 究

これまで4年間、一般財団法人 川崎新都心街づくり財団において、街の賑いづくり、子ども、子育て世代を中心とする多世代交流を目的として、大規模催事「しんゆりマルシェ」でアートワークショップを開催してきた。今年度から「地域一体化商業連携センター」として、「しんゆり交流空間リリオス」が完成し、この施設においてアートを通し、子どもを中心とした地域多世代交流型アートワークショップを行っている。

しんゆりマルシェ及び多世代交流空間リリオスでのアートワークショップ



人文学部



英語コミュニケーション学科

心理カウンセリング学科

教 育 福 祉 学 科

イギリス初期近代の演劇、比較文学、映画とシェイクスピア、ジェンダー論

キーワード：シェイクスピア 比較文学 舞台表象 映画 ジェンダー

人文学部英語コミュニケーション学科

石塚 倫子（いしづか のりこ） 第1英文学研究室

TEL：03-3961-5423

e-mail：ishizuka@tokyo-kasei.ac.jp

研究

イギリス・ルネッサンス期の演劇文化を背景に、シェイクスピアを中心とした分析を、ジェンダーの視点から研究。さらに、日本近代文学とシェイクスピア作品の比較、映画を中心としたシェイクスピア作品のアダプテーション研究を行う。

英語教育での小中連携、教員研修、

キーワード：授業づくり 言語習得 teacher development

人文学部英語コミュニケーション学科

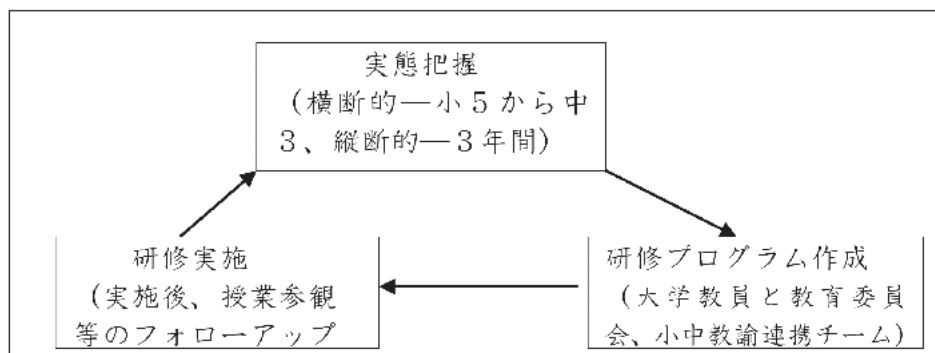
太田 洋（おおた ひろし） 第2英語教育研究室

TEL：03-3961-5417

e-mail：oota-h@tokyo-kasei.ac.jp

研究

小中の英語教育の効果検証を基にした、望ましい連携を実現するための授業づくり・改善のための研修プログラムづくりを研究している。また、現職教員の授業づくりに関する研修を行っている。



ネットワーク型ロボティクスに関するアーキテクチャの研究

キーワード：情報ネットワーク IoT 間欠通信 ロボティクスコミュニケーション
 オーバーレイネットワーク Information Centric Network Cog Network
 人文学部英語コミュニケーション学科

小池 新（こいけ あらた） 知能情報コミュニケーション研究室
 TEL：03-3961-5431 e-mail：koike-ar@tokyo-kasei.ac.jp

研究

様々な産業や生活の場で多様な機能を持った機器が活用され始めている。Internet of Things (IoT) ではこれらの機器を連携させ、業務や人の生活の効率化や今までにないサービスの創造を狙っている。今まではインフラに適応する形で、IoTアプリケーションが作成されてきたが、いかにしてサービスから得られる情報を利用して、インフラの資源を適切に制御し、社会システム全体の効率化を図れるかを旨とした検討を行なっている。

特徴

- ・IoTの置かれたネットワーク環境に適した情報伝達システムの実現
- ・サービスに適したコミュニケーション実現のため、インターネット内に配置したCOG機能によるオーバーレイネットワークの構築
- ・サービスから得られるデータを用いて様々な都市インフラストラクチャの制御へフィードバック



第二言語習得研究

キーワード：第二言語習得 英語教育：英語授業の進め方 学習者個人への対応
 大学院人間生活総合研究科 英語・英語教育研究専攻
 人文学部英語コミュニケーション学科 田頭 憲二（たがしら けんじ） 第4英語教育学研究室
 e-mail：tagashira-k@tokyo-kasei.ac.jp

研究

第二言語習得研究では、学習者が母語以外の第二言語をどのように習得していくのか（普遍性）と、学習者による違い（個別性）について研究を行います。第二言語学習者は、母語に限らず、何らかの共通の過程（普遍性）が存在すると考えられている。また、同じ教室で同じ時間、同じ教師から英語を学んでいるのに、個人により習得の速さと到達度が異なります（個別性）。このように、第二言語習得は、みなさんの英語学習に関して持つ素朴な疑問に答えてくれる研究分野です。

学習者は、教師からの訂正フィードバックを認識するのか？

(例) Picture difference task

学習者： Two boys playing soccer? ←error

教員： Are there two boys playing soccer? ←corrective feedback/recast

No. There is no soccer boys. Good Job! What else?

学習者： Is there a shark? ←uptake

Feedback in EFL Writing Courses

キーワード：Error correction feedback motivation EFL

Faculty of Humanities, Department of English Communication,
Tom Edwards (トム エドワーズ) 第5英文学研究室
TEL：03-3961-5406 e-mail：tom-edwards@tokyo-kasei.ac.jp

研究

I am interested in how different types of feedback—peer review, rubrics, explicit feedback—affect student ability to notice and correct errors in their texts.

I am currently studying how different types of feedback in student journals affect error correction in other pieces of writing.

母語獲得過程における経済性の原理 極小主義的母語習得理論

キーワード：経済性の原理 疑問詞移動 語順 ミニマリストプログラム

人文学部英語コミュニケーション学科
根本 貴行 (ねもと たかゆき) 第1英語学研究室
TEL：03-3961-5399 e-mail：nemotot@tokyo-kasei.ac.jp

研究

文派生における経済性の原理は、母語の獲得段階における文法操作獲得の過程を説明するという可能性を検証しています。

語彙の融合や顕在的移動、非顕在的移動などにおける操作上のコストの差に応じて、より経済的な操作ほど、より初期に利用可能になるという予測をしています。一連の検証が経済性の原理にとって経験的な証拠となりえると考えています。

カルチュラル・スタディーズ (Cultural Studies)、アメリカ研究 (American Studies)

キーワード：映画 演劇 ジェンダー・セクシュアリティ 人種 パフォーマンス
表象文化

大学院人間生活学総合研究科 英語・英語教育研究専攻

人文学部英語コミュニケーション学科 原 恵理子（はら えりこ） 表象文化研究室

TEL：03-3961-4670

e-mail：erikoh@tokyo-kasei.ac.jp

研究

カルチュラル・スタディーズは世界観や人間観といった「見えない文化」を対象にして、世界と人間、人間同士の関係性における政治学を探究する学問です。とくにアメリカ演劇、パフォーマンスなどの芸術表象の観点から、個の可能性をいかに見出し、より良い未来と持続可能な社会を構築することについての文化学を研究しています。

最近の著作

『アメリカ文学における幸福の追求とその行方』（共著、金星堂、2018年）

Women Writing Across Cultures: Present, Past, Future

(joint authorship, Routledge, 2018)

『憑依する過去ーアジア系アメリカ文学におけるトラウマ・記憶・再生』

(編著、金星堂、2014年)

『アジア系アメリカ文学を学ぶ人のために』（共著、世界思想社、2011年）

イギリス小説研究

キーワード：ジョージ・ヘンリー・ルイス研究

人文学部英語コミュニケーション学科

谷田 恵司（やた けいじ） 第2英文学研究室

TEL：03-3961-5444

e-mail：kyata@tokyo-kasei.ac.jp

研究

イギリス19世紀の作家ジョージ・ヘンリー・ルイスの、文学と科学の両面にまたがる活動の様相を確認する。彼の多彩な著作活動が、この時代のどのような知的特質と関連していたのか、また彼とその「妻」ジョージ・エリオットが互いにどのような影響を与えあったのかを検討し、イギリス小説史の一端を解明したい。



Native-speakerism in Japanese higher education

キーワード：Native-speakerism native speaker non-native speaker
ethnography Critical applied linguistics

Faculty of Humanities, Department of English Communication,

Robert J. Lowe (ロバート・ジェームズ・ロウ) 英語コミュニケーション研究室
TEL：03-3961-5422 e-mail：robert-l@tokyo-kasei.ac.jp

研究

Native-speakerism is an ideology in English language teaching in which so-called ‘native speakers’ of English are considered to be the ideal speakers, and therefore the ideal teachers of English. My research aims to uncover, through ethnographic investigation, how native-speakerist discourses operate in Japanese higher education.

心理学で医療に貢献する

キーワード：【医療心理学】身体疾患の心理的ケア コンサルテーション・リエゾンサービス
【認知行動療法】社交不安障害 反復的思考 認知処理
大学院人間生活総合研究科 臨床心理学専攻 人文学部心理カウンセリング学科
五十嵐 友里 (いがらし ゆり) 医療心理学研究室
TEL：03-3961-5512 e-mail：igarashi-y@tokyo-kasei.ac.jp

研究

医療心理学研究室では、医療を受ける患者さんやご家族、医療で働く医療者の方々に、心理学で何らかの貢献ができるよう、臨床実践と研究に取り組んでいます。具体的には、精神疾患に対する認知行動療法の実践を行いながら、近年はがん領域を中心とした身体疾患患者さんとそのご家族におけるメンタルヘルスの臨床および研究に携わっています。身体疾患の心理支援に認知行動的アセスメントや行動科学的支援法を活かす視点を重要視した展開を行っています。

がん患者さん家族
×
心理教育

肥満・糖尿病
×
認知行動療法

社交不安障害
×
認知処理バイアス

子どもの自殺予防教育の開発

キーワード：自殺予防 自殺予防教育 命を守る授業 生命尊重の授業

大学院人間生活学臨床心理学専攻 人文学部心理カウンセリング学科

相馬 誠一（そうま せいいち） カウンセリング研究室

TEL：03-3961-5312

e-mail：somas@tokyo-kasei.ac.jp

研究

児童生徒の自殺者は357名（小学生11名、中学生108名、高校生238名）であった。（警察庁、2018）児童生徒の自殺の背景として、児童生徒の死生観と抑うつ感の高さ、自殺予防プログラムが皆無であることが考えられる。文科省報告（2007）でも、教師が「生徒向け自殺予防プログラム」の必要性を83%望んでいるが、いまだ包括的な自殺予防プログラムが開発されていない。そこで、本研究は児童生徒の死生観、抑うつ感、自尊感情等の大規模調査を実施し、さらに、国内外の自殺予防プログラムを分析し、縦軸として児童生徒への「命を守り、生命尊重の授業」、横軸として地域・家庭・学校での役割を明らかにし、包括的な自殺予防プログラムを開発するものである。研究成果については、全国各地の教育機関等に発信し、普及をめざすものである。

全国の各地の小中高等学校と連携し、縦軸としての児童生徒への「命を守る授業」「生命尊重の授業」をスクールカウンセラー・養護教諭等と連携し、横軸として地域・家庭でできる実践を検証し、地域・家庭・学校での包括的な自殺予防プログラムを開発研究するものである。

養護教諭教職課程の大学生の一次救命処置に関する意識調査

キーワード：一次救命処置 CPR AED 養護教諭教職課程

人文学部心理カウンセリング学科

中込 由美（なかごめ ゆみ） 臨床看護研究室

TEL：03-3961-5244

e-mail：nakagome@tokyo-kasei.ac.jp

研究

養護教諭教職課程の大学生を対象に一次救命処置の手技に関する意識を調査し、今後の課題を明確にすることで確実な一次救命処置の修得に寄与する。

<結果1；一次救命処置の授業前の大学生の状況（n=154）>

一次救命処置のCPRおよびAEDの手技29項目で【できない・たぶんできない】と自信のない回答で最も多かったのは「10秒以内で呼吸の確認」と「胸骨圧迫の深さ」が各々76名（49.7%）、次に「胸骨圧迫のテンポ」68名（44.2%）、「AED充電中、傷病者から離れる」59名（38.3%）、「胸骨圧迫30回」と「吹き込んだ息を自然に出させる」が各々58名（37.9%）、「手掌基部で胸骨圧迫」57名（37.3%）、「胸骨圧迫の部位」55名（35.7%）の順であった。

養護実践への支援

キーワード：養護教諭 子どもの健康課題 保健室 専門的な知識・スキル 実践力

人文学部心理カウンセリング学科

中村 直美（なかむら なおみ） 養護実践研究室

TEL：03-3961-8713

e-mail：nakamura-na@tokyo-kasei.ac.jp

研究

子どもが生涯にわたって健康な生活を送るために必要な力を育成するため、養護教諭には、幅広く柔軟な知性と着実な実践力や、教職員や家庭・地域・専門家と連携する力等が求められています。

養護教諭の実践力向上に向けた学びの質や在り方を検討しています。

求められている養護教諭の役割【中教審答申（H20 1月）及び学校保健安全法等より】

学校内及び医療機関等との連携を推進する上でのコーディネーターの役割

養護教諭を中心として関係教職員等と連携した組織的な健康相談、健康観察、保健指導の実施

いじめや児童虐待など心身の健康問題の早期発見、早期対応に果たす役割

学級（ホームルーム）活動における保健指導をはじめ。チーム・ティーチングや兼職発令による体育科、保健体育科の保健学習への参画など保健教育に果たす役割

学校保健活動のセンター的役割を果たしている保健室経営の充実

健康・安全に関わる危機管理への対応（救急処置・心のケア・アレルギー疾患・感染症 等）

養護教諭の資質能力の向上（現職研修のプログラム開発）

キーワード：養護教諭 育成指標 研修

人文学部心理カウンセリング学科

平川 俊功（ひらかわ としこう） 養護教諭研究室

TEL：03-3961-5538

e-mail：hirakawa@tokyo-kasei.ac.jp

研究

養護教諭は、教育職員として他の教諭等と同じように育つべき部分もありますが、養護教諭に特化した養護教諭独自の研修プログラムを検討する必要があると考えております。そこで、現在は、養護教諭の「育成指標」とそれに基づく現職研修プログラムモデルの開発に取り組んでいます。

2015年12月に中央教育審議会答申において「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上」について、養成段階・採用段階・1～数年目・中堅段階・ベテラン段階における具体的な方策のポイントが示されました。2016年11月28日公布された教育公務員特例法等の一部を改正する法律では、新たな時代に対応した質の高い教員の確保と資質の向上を目指して、教員育成指標の策定、教員研修計画の作成、10年経験者研修の見直し（中堅教諭等資質向上研修）等について定めています。それを受けて各自治体では、教員の育成指標の作成が進んでおり、今後はその育成指標に基づく現職養護教諭の研修を計画・実施していきます。

本研究では、現職養護教諭が日々の職務を遂行しながら学び続けていくために、学校あるいは個人のおかれた状況や個々の学びのニーズを考慮した研修プログラムを検討しています。

レジリエンスの多様性理解と臨床心理学的サポート

キーワード：レジリエンス 傷つきやすさ 自己理解 心理支援プログラム 多様性
大学院人間生活総合研究科 臨床心理学専攻人文学部心理カウンセリング学科

平野 真理 (ひらの まり) 人格発達心理研究室

TEL : 03-3961-5286

e-mail : hirano-m@tokyo-kasei.ac.jp

研究

レジリエンス（ストレス下での心理的適応・回復力）には個人差があり、傷つきからどのように立ち直るかは個人によってさまざまである。レジリエンスの個人差を豊かに理解する方法（質問紙、投影法等）を探求するとともに、レジリエンスがどのような体験・他者とのかわりの中で身につけられていくのか、また、人々が自分なりのレジリエンスを発揮していくためにはどのような臨床心理学的サポートが有効であるかを検討している。



職種（教師、看護師、SE、管理職）を特化したメンタルヘルスの維持・向上のための認知行動療法の応用

キーワード：認知行動療法 認知療法 論理情動療法 メンタルヘルス研修
カウンセリング

大学院人間生活学総合研究科 臨床心理学専攻 人文学部心理カウンセリング学科
福井 至 (ふくい いたる) 臨床心理研究室

TEL : 03-3961-5265

e-mail : fukui@tokyo-kasei.ac.jp

研究

教師、看護師、SE、管理職といった職種ごとに、それぞれ特有な考え方がストレスを増加させることがわかっている。そのため、職種ごとにそれぞれ特有な、ストレスを低減できる考え方の、メンタルヘルス研修やカウンセリングに用いることのできる教材を開発している。



心理的ストレスの軽減要因およびポジティブ感情の促進要因の検討

キーワード：心理的ストレス 認知行動療法 ポジティブ心理学 メンタルヘルス
大学院人間生活総合研究科 臨床心理学専攻 人文学部心理カウンセリング学科
三浦 正江（みうら まさえ） 健康心理研究室
TEL：03-3961-5254 e-mail：miura@tokyo-kasei.ac.jp

研究

これまで心理学の研究領域では、個人のメンタルヘルスの保持・増進を目的として、心理的ストレスの軽減を目指した研究が数多く行われてきた。しかし近年、個人のポジティブな側面に注目し、ポジティブ感情を促進することが幸福感等の促進に寄与することが明らかにされつつある。このようなポジティブ心理学における研究の多くは海外で行われており、我が国ではまだ数少ない。今後、数多くの検討を行うことが期待されている。

＜中学生が学校で経験するポジティブイベントの具体例（三浦・大角、2016）＞

【学業・授業】
わからなかった問題が解けた、
授業の内容が理解できた等

【友人との余暇のかかわり】
クラスの人とおしゃべりをした、
休み時間や登下校時に、友達と
おしゃべりをした等

【恋愛】
学校で好きな異性に会った、好
きな異性とおしゃべりをした等

【教師とのかかわり】
先生から頼りにされた、先生か
ら認められた等

【友人からの援助的にかかわり】
友達が相談に乗ってくれた。
友達がなぐさめたり、励まして
くれた等

【部活動】
部活動に頑張って取り組んだ、
部活動でできなかったことがで
きた等

障害者の地域生活支援（結婚・子育てを含む）

キーワード：障害者の自立生活 障害者の結婚 子育て支援

人文学部教育福祉学科 田中 恵美子（たなか えみこ） 第2社会福祉研究室
TEL：03-3961-5331 e-mail：etanaka@tokyo-kasei.ac.jp

研究

障害の有無にかかわらず、どこで誰と暮らすかを選択する権利はすべての市民に与えられた権利である。しかしながら、障害者は長らくその権利をはく奪されてきた。障害者が親元を離れ、施設から出て暮らす生活形態を自立生活というが、そうした暮らし方に対してようやく理解が進んできたところである。しかし未だに障害者の結婚や子どもを産み育てることに限っては、理解が得られない場合がある。婚姻を結び家族を形成することは市民としての当然の権利であり、障害者が障害のない者を同等の権利を有するのであれば、その状態を作り出すために必要な支援を提供することが本来求められていることなのではないだろうか。筆者の研究の目的は、そのような社会状況を作り出すためにどのような支援が必要なのかを明らかにするとともにそうした機運を作りだしていくことにある。

日本図書館協会の組織運営および図書館の専門的職員に関する研究

キーワード：公共図書館 司書 図書館法 職能団体 日本図書館協会

人文学部教育福祉学科 春田 和男（はるた かずお） 図書館学研究室

TEL：03-3961-5391 e-mail：haruta@tokyo-kasei.ac.jp

URL：http://tk-kenkyugyoseki.tokyo-kasei.ac.jp/tkuhp/KgApp?kyoinId=ymdggkysgy

研究

日本の代表的な図書館関係団体である日本図書館協会の事業と組織に関する研究を行い、これまで、主に下記の論文を発表してきました。今後は、研究領域を拡大し、図書館の専門的職員や図書館法に関する研究も進めていきたいと思っております。

【主要論文の一覧】

- 1) 「日本図書館協会の会員と役員の構成に関する考察」『日本図書館情報学会誌』52(3),2006.9,p.152-172.
- 2) 「日本図書館協会の会員の種類と権利に関する考察：社会教育関係団体との比較から」『日本生涯教育学会論集』28,2007.7,p.51-60.
- 3) 「日本図書館協会における個人会員と施設会員の選挙権・被選挙権等に関する考察」『日本図書館情報学会誌』53(4),2007.12,p.216-235.
- 4) 「日本図書館協会の会員の種類と権利に関する考察：米英の図書館協会との比較から」『日本生涯教育学会論集』29,2008.9,p.63-72.
- 5) 「日本図書館協会と館種別図書館関係団体の会員の種類と権利モデルの比較」『日本生涯教育学会論集』30,2009.9,p.13-22.
- 6) 「日本図書館協会における館種間の関係のあり方に関する議論：1946年から1975年まで」『日本生涯教育学会論集』33,2012.9,p.23-32.
- 7) 「日本図書館協会における館種間の関係のあり方に関する1976年から2012年までの議論の経過とその意味に関する考察」『日本生涯教育学会論集』34,2013.9,p.23-32.
- 8) 「日本図書館協会の組織運営の検討報告書（2001年）に見られる提言とその後の経営に関する考察」『日本生涯教育学会論集』35,2014.9,p.23-32.
- 9) 「戦後日本における米英の図書館専門職論の導入に関する考察」『日本生涯教育学会論集』36,2015.9,p.33-42.
- 10) 【共著】『図書館法改正（2008）の検討過程における議論に関する考察」『日本生涯教育学会論集』37,2016.9,p.33-42.

児童の自立支援に関する研究

キーワード：社会的養護 児童自立支援施設 非行 児童虐待 児童相談所
権利擁護 発達障害

大学院人間生活学総合研究科 教育福祉学専攻 人文学部教育福祉学科

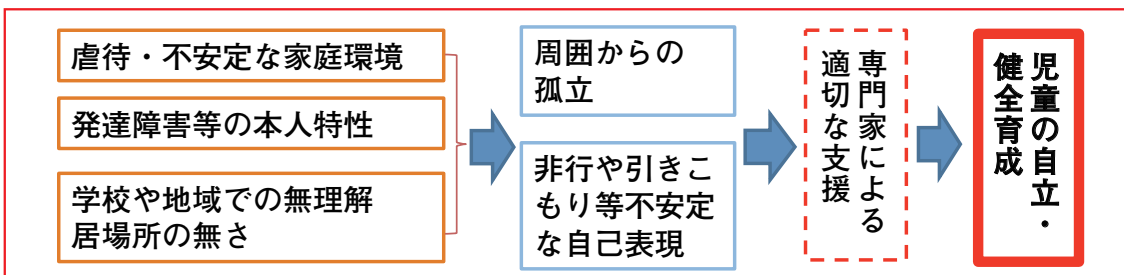
平戸 ルリ子（ひらと るりこ） 第1社会福祉研究室

TEL：03-3961-5347

e-mail：hirato@tokyo-kasei.ac.jp

研究

児童福祉をめぐる課題の中で、親元で生活するのが困難な者を支援する「社会的養護」は、以前の親の居ない子の支援から、近年、児童虐待を受けた子のトラウマケア、不安定な家庭環境で育った生育歴を有する非行少年、発達障害をベースとしたコミュニケーション困難など、様変わりしてきている。これら児童のニーズの変化に対し、専門家である児童相談所の職員や、児童福祉施設（特に児童自立支援施設職員）は、どのようなことに配慮して自立支援を実施していけば良いかを研究し、現場でのスーパーバイズを行っている。



精神保健福祉実践における先駆性の研究

キーワード：精神保健福祉士 地域精神保健福祉実践史 ソーシャルワーク

人文学部教育福祉学科 福富 律（ふくとみ りつ） 精神保健福祉研究室
TEL：03-3961-5471 e-mail：fukutomi-r@tokyo-kasei.ac.jp

研究

戦後日本における地域精神医療の実践とソーシャルワーカー（精神保健福祉士）の果たしてきた役割を明らかにすることにより、多様化した現代における精神保健福祉士の意義と可能性を研究している。国際的にも独自の課題を抱えた日本の精神保健福祉において、ソーシャルワークの視点や方法がいかに貢献できるのか、養成教育や現任者教育、スーパービジョンのあり方を視野に入れた研究を進めている。

日本と世界におけるエイジング・イン・プレイス（地域居住）

キーワード：デンマーク 日本の高齢者福祉

人文学部教育福祉学科 松岡 洋子（まつおか ようこ） 第3社会福祉研究室
TEL：03-3961-5318 e-mail：matsuoka@tokyo-kasei.ac.jp

研究

「住み慣れた地域でその人らしく暮らし続ける」には住宅政策・ケア政策・地域福祉の充実が必要である。デンマークをはじめ、オランダ・イギリス・日本における高齢者の住まい・ケアについて比較研究をしている。

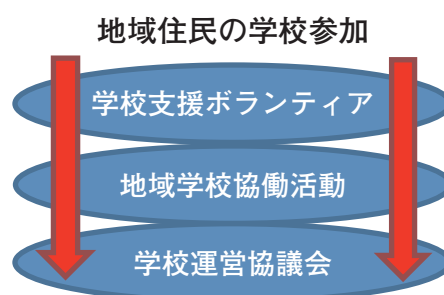
世界共通の特徴として「住まいとケアの分離」があげられる。ヨーロッパでは「住まい」を社会住宅として提供している国が多く、すべての国民が居住について高齢期まで保障されている。また、ケアについては、それぞれに課題があるとはいえ整えられている。日本でもエイジング・イン・プレイスの文脈に沿って、「サービス付き高齢者向け住宅」や「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」の制度が整って地域包括ケアが進められている。

学校と地域社会の連携による生涯学習の振興

キーワード：学社連携・融合 学習成果の活用 学校支援ボランティア
生涯学習振興 地域学校協働活動 ソーシャル・キャピタル
知の循環型社会 まちづくり
人文学部教育福祉学科 宮地 孝宜（みやち たかよし） 生涯学習研究室
TEL：03-3961-5390 e-mail：miyachi-t@tokyo-kasei.ac.jp

研究

学校は子どものための教育機関であるが、学校支援を通じた地域住民の学習成果の活用など、地域社会における大人の生涯学習の場としても期待されている。そして、学校を核とした地域住民の交流は、地域の絆づくりに繋がる可能性を秘めている。連携の成果や効果の分析、連携を円滑に遂行するための仕組みや方法を検討している。

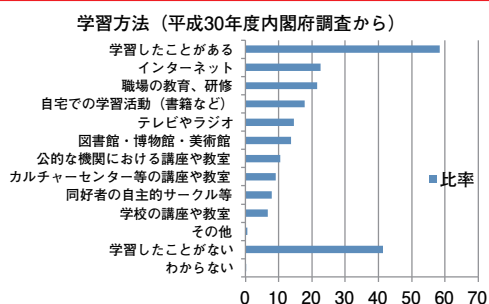


日本における生涯学習支援

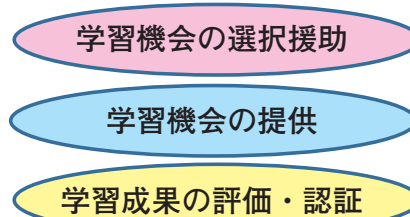
キーワード：生涯学習支援システム 成人の学習要求 社会教育指導者の養成・研修
学習プログラム 中小企業の事業者・従業員の生涯学習
学校・家庭・地域の連携協力 地域づくり
大学院人間生活学総合研究科 教育福祉学専攻 人文学部教育福祉学科
山本 和人（やまもと かずひと） 社会教育研究室
TEL：03-3961-5389 e-mail：kazuhito@tokyo-kasei.ac.jp

研究

日本はすでに生涯学習社会に入っている。また、次々に新しい職業が生まれるような変動社会である。義務教育としての学校教育を修了した人々が長い人生を生きるとき、職業生活やボランティア活動などの社会的活動を継続する中で、生涯学習の機会を利用して学んだ成果が適切に評価され・生かされる社会を作り上げるために、どのような支援と仕組みが求められるか、そのありようを検討する。



日本における生涯学習支援の3つのサブシステム



健康科学部



看護学科

リハビリテーション学科

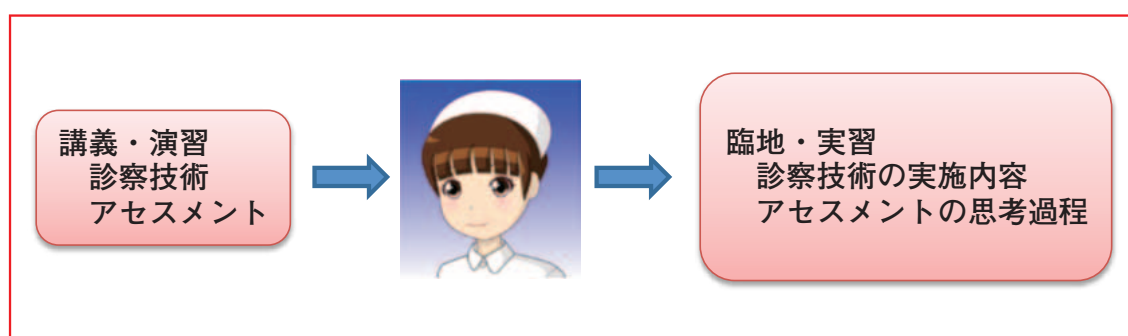
看護学生のフィジカルアセスメントの実践

キーワード：フィジカルアセスメント 思考過程 臨地実習 臨床判断 基礎教育

健康科学部看護学科 安達 祐子（あだち ゆうこ） 看護学科研究室6
TEL：04-2955-6913 e-mail：adachi-y@tokyo-kasei.ac.jp

研究

看護師の適切な臨床判断能力は看護の質を高める必須の要素である。アメリカでは1970年代から、日本では1996年から、看護の大学・大学院でフィジカルアセスメントの教育が開始されている。看護の基礎教育では、講義・演習を通してフィジカルアセスメントの基本を学び、臨地実習で実際に診察技術を行い得られたデータを分析しながらケアを実施している。看護学生の臨地実習におけるフィジカルアセスメントの実施状況と思考過程を分析する。



周手術期看護における視点動きの分析結果より 患者観察のための教授方法の構築

キーワード：アイトラッキング 術後観察 周手術期

健康科学部看護学科 有澤 舞（ありさわ まい） 看護学科研究室35
TEL：04-2955-6925 e-mail：arisawa-m@tokyo-kasei.ac.jp

研究

手術後の患者の観察において、看護師と学生の視線を比較し、それぞれの視線運動の特徴を明らかにし、学生に対する演習プログラムを構築する。

大学を拠点とした広汎性発達障害児をもつ母親のサポートシステム

キーワード：広汎性発達障害児 子育て支援サポートシステムづくり ストレス

精神的・身体的健康度 地域包括ケアシステム 母親

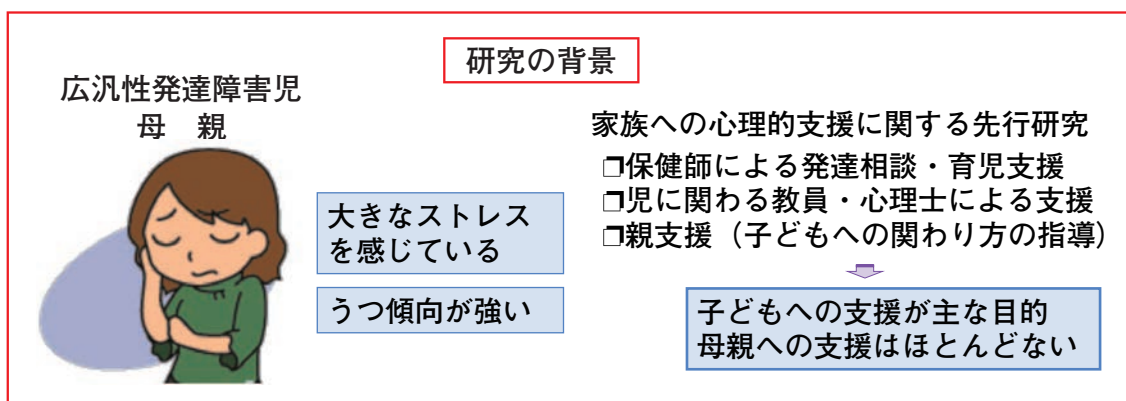
健康科学部看護学科 基礎看護学 今留 忍（いまとめしのぶ）看護学科研究室7

TEL：04-2952-6419

e-mail：imatome-s@tokyo-kasei.ac.jp

研究

発達障害児（PDD）をもつ母親のストレスは高く、精神健康状態にも影響を及ぼしているが、母親をサポートする機関や地域支援体制が整っているとはいえない。PDD児の母親が心理的に安定した状態で子育てができるように支援するサポートシステムの構築と大学を拠点とした地域包括ケアシステムに果たす役割を証する。



看護教育における看護学生の自発性を支援する教授法の検討

キーワード：看護学生 教授法 自発性

健康科学部看護学科 小児看護学領域 岩田 みどり（いわた みどり）看護学科研究室2

TEL：04-2955-6909

e-mail：iwata-mi@tokyo-kasei.ac.jp

研究

看護教育において、学生が自ら学修を行う能力を形成する教授法は重要と考える。看護教育の自発性を取り入れた教授法には、戦後から看護カリキュラム改定に伴った経時的な変遷や、看護学生の状況にあわせて工夫した経緯があるのではないだろうか。本研究の目的は、看護学生の自発性を支援する教授法が、どのように研究され実施されてきたのかを、看護の文献を検討することにより明らかにする。その後は、本研究をベースに現代の看護学生の自発性を支援する教授法を提案し、実施および成果へとつなげていきたい。

①保健師のコミュニティグループ支援に関する研究 ②保健師の災害研修に関する研究

キーワード：コミュニティグループ 住民組織 自主グループ 災害 研修 保健師

健康科学部看護学科 公衆衛生看護学領域 植村 直子（うえむら なおこ）看護学科研究室18
TEL：04-2955-6916 e-mail：uemura-n@tokyo-kasei.ac.jp

研 究

- ①孤立した育児や介護等の社会的な健康課題の解決に向け、地域住民が様々なグループ活動を展開し、住民同士のつながりを育んでいる。こうしたコミュニティグループへの保健師の支援の実践能力向上について検討している。
- ②国内外で多くの災害が発生している。保健師には災害発生時の地域住民への迅速な支援や、長期的な視点によるコミュニティの再構築への支援が求められる。現在、保健師を対象とした災害研修に関する研究に取り組んでいる。

過去に在日ブラジル人妊産婦の日常生活と医療保健ニーズを調査し、ニーズを踏まえて妊産婦のコミュニティグループ支援、日本の食材を用いたブラジルの離乳食レシピ等を作成した。今後も機会があれば日本在住の外国人支援に関する研究に取り組みたいと考えている。

発達障がい児の母親の子育てについて —母親を取り巻くネットワークに焦点を当てて—

キーワード：発達障害 母親 育児 ネットワーク

健康科学部看護学科 大久保 麻矢（おおくぼ あや）看護学科研究室14
TEL：04-2955-6921 e-mail：ookubo-a@tokyo-kasei.ac.jp

研 究

生まれてきた子どもに障がいがある、もしくは子どもが障がいを負った場合、母親を取り巻くネットワークはより複雑なものとなりやすい。具体的には障がい児の母親は、子育てにかかわるフォーマル・インフォーマルの多様な主体（医療・福祉・教育の専門職療育、親の会のメンバー、子どもに関係した友人（ママ友）など）とかわりをもつ必要に迫られ、それゆえ彼女たちはその関係調整能力をより求められると推測される。

この研究は、発達障がい児の母親の語りより、母親の子育てサポートネットワークの全体像を捉えていくことを目的としている。

本研究において子どもの障がいを発達障がいに限定するのは、発達障がいは先天性の障がいであるが、障がいの内容がコミュニケーションに関係するため、正式な診断がつくのが遅く、診断後も子どもの外見だけでは判断しにくい。さらに、子どもの成長とともにその症状も変化していく。このため、周囲の障がいに対する理解を得にくく、母親の不安や苦悩もいっそう大きなものと推測されるためである。

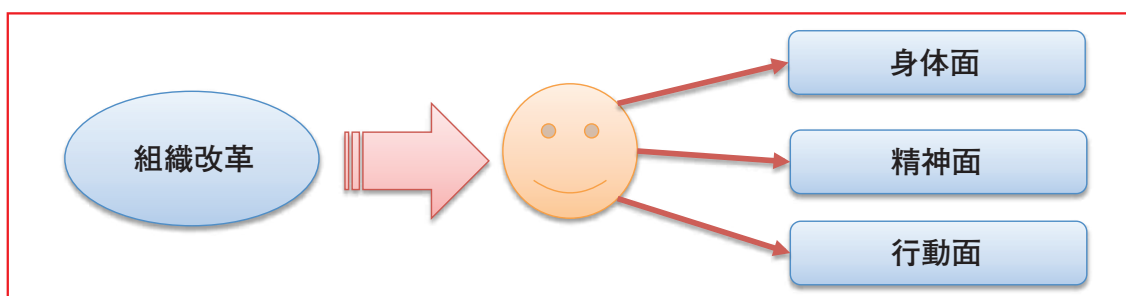
組織改革が従業員の心身に与える影響に関する研究

キーワード：組織改編 組織改革 吸収合併 人員整理 健康関連行動
横断的調査 職業性ストレス簡易調査 職業関連ストレス 健康リスク

健康科学部看護学科 大澤 亜貴子（おおさわ あきこ） 看護学科研究室9
TEL：04-2955-6927 e-mail：oosawa-a@tokyo-kasei.ac.jp

研究

経済のグローバル化、技術革新、高度情報化、そして競争激化を受け、世界レベルで企業が生き残りを目指し、組織変革の潮流が起きている。業績向上と組織改革による効率化・経費削減の双方による収益力の増強がその目標となっているが、一方で労働者の心身への影響が懸念されている。そこで本研究では、組織改革が従業員に対してどのような影響をもたらすのか、関連する因子や起こりうる健康問題への対策を含めて検討する。



看護の教育的かかわりモデルの開発・適用

キーワード：慢性疾患看護 患者教育

健康科学部看護学科 太田 美帆（おおた みほ） 看護学科研究室16
TEL：04-2952-1621 e-mail：oota-m@tokyo-kasei.ac.jp

研究

患者教育研究会では、慢性疾患をもつ患者様への教育的かかわりを説明するためのモデルを開発し、臨床の看護師の患者教育実践能力向上にどのように有効か、検討している。

女性のアルコール依存症の予防と対策に関する研究

キーワード：アルコール依存症 アルコール関連問題 習慣飲酒 女性の飲酒 適正飲酒
健康科学部看護学科 大野 順子（おおの じゅんこ）看護学科研究室20
TEL：04-2955-6918 e-mail：ono-j@tokyo-kasei.ac.jp

研究

習慣飲酒者（週3日以上飲酒者）は、平成元年から平成26年までの推移をみると、男性は減少し、女性は増加してきている。誰でもが長期に多量に飲酒すればアルコール依存症になると言われているが、女性は男性より短期、少量で依存症になる。女性の飲酒の実態を把握し、アルコール依存症予防を目的とした適正飲酒を啓発するための効果的な方法を検討する。

問題提起

- ・女性の社会進出
- ・メディアによる女性向けのアルコール
- 飲酒を促すイメージづくり
- ・飲酒に対する抵抗の低下
- ・若年女子の飲酒経験者の増加
- ・女性の習慣飲酒の増加

従来の女性の飲酒の特徴！

- ・少量の飲酒によるアルコール性肝障害の重症化！
- ・肝硬変への進行が早い！

妊娠中女性の飲酒による胎児への影響
女性乳がんのリスク増大

女性の飲酒教育の必要性

男女共同参画で行う地域防災・減災 ～東京家政大学狭山キャンパスの役割の検討～

キーワード：男女共同参画 地域防災・減災 大学防災

健康科学部看護学科 齋藤 正子（さいとう まさこ）看護学科研究室13
TEL：04-2955-6920 e-mail：saito-ma@tokyo-kasei.ac.jp

研究

近年、首都直下型地震や土砂災害などの自然災害が予測されており、当地域も被害想定がされています。そこで、本大学における地域連携の一環として、男女共同参画の視点から地域防災・減災活動を推進することとしました。当地域における防災・減災活動について防災担当者へ面接調査を行い、当キャンパスが担える役割について検討しております。

狭山市・入間市の防災担当者（自治体・自主防災組織）への現状調査

全国で地域防災を推進してる防災担当者（大学・自治体・自主防災組織）への調査

男女共同参画の視点で防災・減災を考え、狭山キャンパスの役割を検討し、実践する。

地域との連携：
狭山市や武蔵野市の
総合防災訓練参加



<http://matome.naver.jp/odai/>

東日本大震災における複合災害救援者の心理社会的状況に関する研究

キーワード：東日本大震災 原子力災害 複合災害 被災した看護師 健康不安
肯定的変化 相互ケア 自責感情 心身疲労 ストレス
役割遂行上の選択

健康科学部看護学科 里 英子（さと ひでこ） 看護学科研究室19
TEL：04-2955-6957 e-mail：sato-hi@tokyo-kasei.ac.jp

研 究

2011年3月に発生した東日本大震災は、自然災害と原子力災害という特異な複合災害であった。2012年に著者が実施した調査において、被災地で働く看護師は、職業や家庭役割遂行上の決断がもたらした自責感情、継続・反復的ストレス、累積する心身疲労、職務ストレス、子どもの将来に対する健康不安等を抱えていたことが明らかとなった。その一方で、震災体験により肯定的な変化もみられ、他者との関係性の強化などが心理的回復を支えていた可能性が示唆された。東日本大震災から6年が経過した現在の心理社会的状況、職場や家庭・生活環境を含めた安全対策、人材確保やサポート体制についてその現状と課題について明らかにする予定である。

「出産・助産の史的変遷における助産の意義と助産師の役割」

キーワード：出産 助産 共生 ウイメンズヘルス

健康科学部看護学科 杉田 理恵子（すぎた りえこ） 母性看護・助産学研究室
TEL：04-2952-1621（代表） e-mail：sugita-r@tokyo-kasei.ac.jp

研 究

人間の共生における出産と助産の意義について史的変遷をもとに存在論的に探究し、人口減少化社会に向かう中で助産師の在り方と担うべき役割について明らかにすべく研究に取り組んでいる。また、長期にわたる少子化社会の産科医療体制の検討やWLB（ワークライフバランス）やライフコースなどに焦点を当て、女性の「生」やウイメンズヘルスに関する問題も研究テーマとしている。

例えば…

助産師の呼称の変遷には時代ごとに
出産や助産が人間の
共生にどのような
意義があったの
かが示されている
かが分かる。

時代	呼称	語彙
安土桃山 (1600年代)	トリアゲ	子を取り上げる・親に抱かせる・仲間に入れる
江戸～昭和初期 (1800年代～ 1945年)	トリアゲ・コズエ・産婆	主に都市部で呼び名、明治期に入り公式な呼称となる
昭和23年	助産婦	戦後の新たな医療制度の出産を専門的に扱う者として
平成14年	助産師	自律した高度な医療専門家として 出産を取り扱う者として

産後クライシス予防に向けて父親のコンピテンシー強化に 着目した育児支援システム構築

キーワード：育児性 親役割のコンピテンシー 産後クライシス 夫婦関係 育児支援

健康科学部看護学科 鈴木 幹子（すずき みきこ） 看護学科研究室19

TEL：04-2955-6917

e-mail：suzuki-mi@tokyo-kasei.ac.jp

研究

科研費の採択を受け、父親役割に関するコンピテンシーについて、また産後クライシスについての研究を行っている。

本研究は、産後クライシスを乗り越えるための育児支援システムを構築し、出生前から乳幼時期にかけての育児支援事業を企画・運営し、その効果を検証することである。夫婦2人の関係から子どもを持つ家族へと変化するプロセスで、育児の方針や親役割に関する互いの価値観の相違が浮上し、それらが受け入れられないことや、尊重されないことに葛藤が生じ、ストレスとなって、夫婦間に亀裂が生じていた。出生前は、産後クライシスが予測されておらず、その心の準備がなされていなかった。また、産後クライシスに直面した際の対処方法がわからず、混沌とした中で育児をしていた。母親は子どもとの関係を密にするが、それが父親から育児を遠ざけることになり、父親は、育児を母親に任せ、仕事に邁進することで家庭での父親の位置を保とうとしていた。母親と子どもの濃密な関係が父親のコンピテンシーの発達を阻害していることが考えられる。しかし、育児の中で子どもの肯定的な反応に親としての喜びを経験した父親は、父親としてのコンピテンシーを発展させていることが予測された。また、夫婦間のコミュニケーションが夫婦関係を修復し、産後クライシスから脱却していく可能性も考えられた。

出生前からの夫婦でのコミュニケーションの大切さや産後クライシスに関する予期的指導についてさらに研究を進めていく予定である。

看護教育における看護実践能力の育成

キーワード：看護技術の教育 看護ケア 健康支援活動 災害看護 減災への備え

健康科学部看護学科 谷岸 悦子（たにぎし えつこ） 看護学科研究室8

TEL：04-2955-6915

e-mail：tanigishi-et@tokyo-kasei.ac.jp

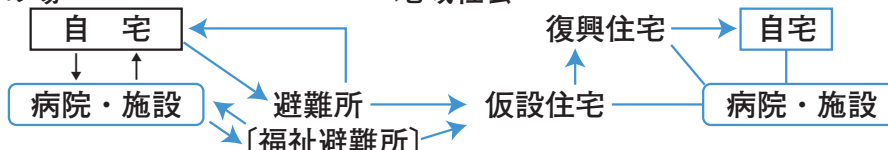
研究

生活する人々の健康レベルに合わせてその人がその人らしく生活するために、疾病の予防、健康回復、健康の維持・増進できるように援助するのが看護です。看護は、人々が生活する場（地域、家庭そして病院等）で、あらゆる年齢の人への看護援助を行います。日常や非常（災害）時に、看護職に必要とされる実践力を、いかに育てるかを検討しています。

看護活動の場と場面

生活の場

地域社会



時間 平穏時（備え）⇒ 災害発生時 ⇒ 復興期 ⇒ 平穏時

☆看護は人々が生活する場において、健康に自立した生活ができるよう支援する。

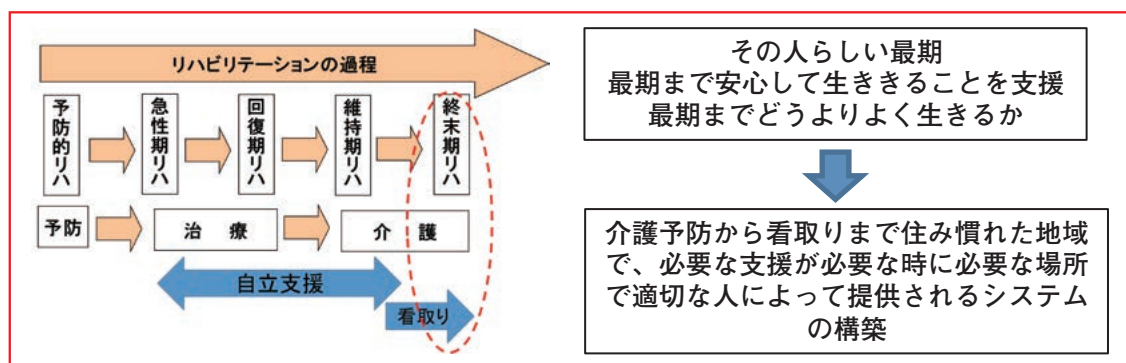
地域ケアシステムにおける看取り支援

キーワード：在宅看護 地域リハビリテーション 介護予防 高齢者の自立支援

健康科学部看護学科 田原 美香（たはら みか） 看護学科研究室14
TEL：04-2955-6931 tahara-m@tokyo-kasei.ac.jp

研究

超高齢社会となり、本格的な多死社会に突入した日本において、看取りの場の確保と整備は喫緊の課題である。住み慣れた地域で最期まで安心して生きることができるよう支援することを目指す地域包括ケアシステムの実現には、在宅での看取り支援の拡充が不可欠である。地域で最期まで安心して生きること、その人らしい最期を支援するための方策を検討している。



認知症ケアと介護予防

キーワード：認知症介護 男性介護者 介護準備態勢 介護予防プロジェクト シニアリーダー

健康科学部看護学科 根岸 貴子（ねぎし たかこ） 老年看護学研究室
TEL：04-2952-6908 e-mail：negishi-t@tokyo-kasei.ac.jp

研究

1. 人口の高齢化とともに男性介護者も増加している。男性介護は家事に不慣れだけでなく、介護の心身的負担などにより、介護虐待などの問題が発生している。男性高齢者は認知症介護をどのように克服し継続できているのか、介護継続のプロセスを調査している。また、介護以前の準備態勢について、介護準備態勢の評価尺度の作成を検討している。
2. A地区の介護予防教室に通う地域住民の身体・認知機能を介護予防プロジェクトにて調査し検討している。

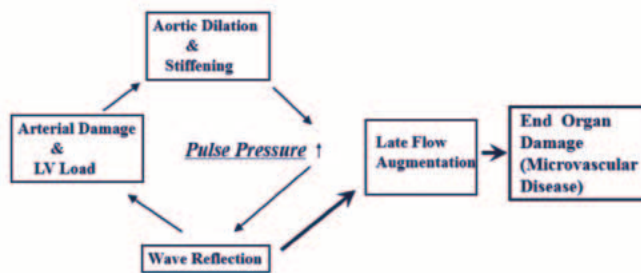
動脈硬化 細動脈硬化

キーワード：高血圧 動脈硬化 中心血圧 反射波 pulse wave velocity

健康科学部看護学科 平田 浩三（ひらた こうぞう）看護学科研究室12
TEL：04-2955-6009 e-mail：hirata-k@tokyo-kasei.ac.jp

研究

動脈硬化・細動脈硬化と高血圧の生理学的関連 中心血圧とpulse wave velocityの寄与。



高血圧の臓器障害の一つであるmicrovascular disease（細動脈硬化）の発生機序の一つに、反射波の細動脈侵入による血管障害が想定されている。反射波やpulse wave velocityの増加が、脳血管や腎血管にどのような影響を与えるのか、現在研究中である。

放課後等デイサービスの看護師役割の研究

キーワード：放課後等デイサービス 看護 医療的ケア 発達障害

健康科学部看護学科 藤田 藍津子（ふじた あつこ）看護学科研究室10
TEL：04-2955-6569 e-mail：fujita-a@tokyo-kasei.ac.jp

研究

子どもが育つ地域において、学齢期の障がいのある子どもへケアを行う看護師に着目する。放課後は、子どもにとって、仲間関係や人格を形成する重要な時間であることから、放課後に適切なケアを受けることは、重要であると考え、放課後等デイサービスの看護師役割について明らかにする。

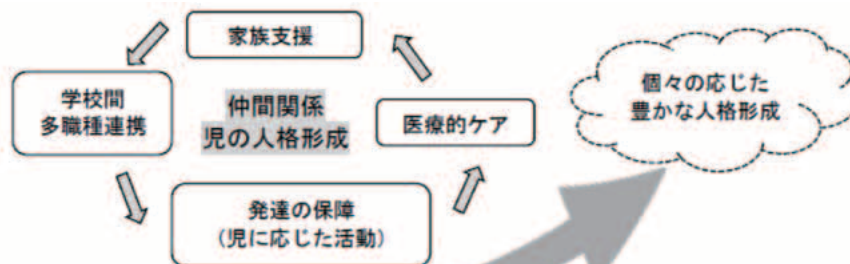


図1：学齢障がい児の人格形成

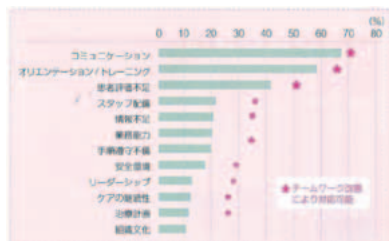
看護基礎教育における医療者間コミュニケーション能力の 獲得に向けた教育プログラム開発

キーワード：看護基礎教育 看護学生 医療者間コミュニケーション 教育開発
健康科学部看護学科 松江 なるえ（まつえ なるえ）看護学科研究室31
TEL：04-2955-6048 e-mail：matsue-n@tokyo-kasei.ac.jp

研 究

看護師は、健康上に問題を抱え日常生活に支障をきたした患者に対して、チーム医療の一員として他職種とコミュニケーションを図り、最適な医療、適切なケアの提供が求められる。しかし、現在、看護師を目指す若者のコミュニケーション能力不足や医療事故の原因の7割がコミュニケーションエラーであることから、看護基礎教育において、コミュニケーション能力の向上に関する教育強化が求められている。そこで、本研究は、看護基礎教育における医療者間コミュニケーション能力の獲得に向けた教育プログラム開発を検討している。

*JCAHO（米国医療施設評価合同委員会）
による警鐘事例3,548件の原因解析（%）



*米国科学アカデミーと米国医療研究品
質局が開発したTeam STEPPSから

<効果的なコミュニケーションの条件>

- 関連した全ての情報を伝える
- 誤解が生じない理解しやすい形で
情報を伝える
- 簡潔である
- 適切な時間に情報を提供・要請する

①障害をもつ方の歯科医療 ②働く人の健康、職業関連疾患

キーワード：①口腔 歯科 障害者 ②健康 職業性疾病 労働衛生

健康科学部リハビリテーション学科

久篠 奈苗（くしの ななえ）リハビリテーション学科研究室5

TEL：04-2955-6026 e-mail：kushino-n@tokyo-kasei.ac.jp

研 究

- ①病気・障害をもつ方は、歯科を受診するにあたり、さまざまな困難に直面する。歯科医院においては、治療用イスへの移乗、治療用器具の音や鋭利な器具による恐怖感など、特殊な治療環境を有している。障害をもつ方の歯科受診状況、受診に関する困難、歯科における対応を調査し、障害をもつ方がより受診しやすい歯科の環境・対応について検討する
- ②労働者はさまざまな健康問題を抱えている。また、業務によっては、起こりやすい職業関連疾患がある。それらの現状を調査し、労働者がより安全で健康に働くことができるよう、対策を講じ、支援する。

地域在住者への運動介入に関する研究 各種計測機器（3次元動作解析装置、小型加速度計、筋電図）を用いた動作分析に関する研究

キーワード：運動介入 ロコモティブシンドローム 介護予防 健康増進
予防理学療法 動作の円滑性 小型加速度計 動作分析

健康科学部リハビリテーション学科 理学療法学専攻
後藤 寛司（ごとう ひろし） リハビリテーション学科研究室15
TEL：04-2955-6062 e-mail：goto-h@tokyo-kasei.ac.jp

研究

我が国では、高齢化の進展により、医療のみでなく、介護に係る負担が今後一層増すと予測されている。要支援・要介護状態になる要因のうち、運動器の障害は全体の約25%と最も高く（平成25年厚生労働省 国民生活基礎調査）、これらを予防することは、国民の健康づくりだけでなく、健康寿命の延伸に寄与する。そこで、運動器障害により歩行能力が低下した状態であるロコモティブシンドロームの予防を目的に、地域在住の中年者と高齢者を対象に、ロコモーショントレーニング（日本整形外科学会推奨）を中心とした運動介入を行い、中期間（12週間）の介入効果を検証する。また、縦断的調査として、追跡調査（介入開始後6か月後、12か月後）を実施し、12週間の介入がその後の運動継続効果などに及ぼす影響を検証する。

神経・筋・筋膜・関節に起因する機能障害の予防と治療

キーワード：理学療法 疼痛マネジメント 障害予防 運動療法 健康増進 治療

健康科学部リハビリテーション学科 理学療法学専攻
齋藤 昭彦（さいとう あきひこ） リハビリテーション学科研究室12
TEL：04-2955-6054 e-mail：saito-ak@tokyo-kasei.ac.jp

研究

小児から高齢者を対象として、神経・筋・筋膜・関節に起因する機能障害（疼痛、関節可動域障害、筋力低下）の予防や治療方法に関して研究しています。

子どもから大人までのあらゆる年齢層において、心身ともに健康な生活を維持するためには、様々な原因により生じる機能障害（疼痛、関節可動域障害、筋力低下など）を予防していくことが重要です。最近では、スマートフォンやコンピュータの普及とともに、かつてみられなかった機能障害（頸胸部痛、上肢痛・しびれなど）を訴える人が急増しています。

こうしたなか、各個人の日常の活動、レクリエーション、スポーツ、学校生活、職業環境において、機能障害の原因となりうる要因を分析し、正しい姿勢、体の動かし方により機能障害の発生を予防していくことが大切となります。また、生じてしまった機能障害に対しては、適切な評価に基づく治療が必要となります。

姿勢学習とバランス能力の改善に関する研究

キーワード：筋活動 三次元動作解析 運動学習 姿勢学習 体性感覚

健康科学部リハビリテーション学科 理学療法学専攻

齊藤 展士（さいとう ひろし）リハビリテーション学科研究室14

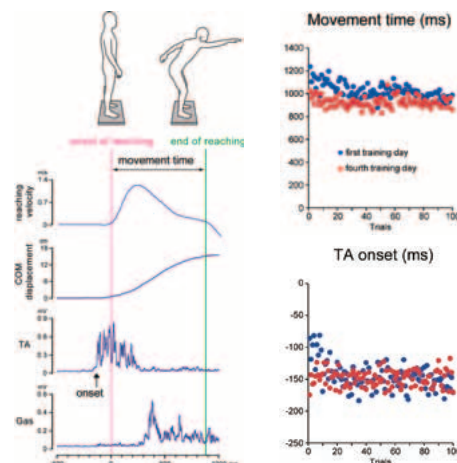
TEL：04-2955-6058

e-mail：saito-h@tokyo-kasei.ac.jp

研究

動作の繰り返しにより運動能だけでなく姿勢制御能も改善するか？

動作を繰り返し行うことで正確性、運動時間、運動速度などのパフォーマンスが改善することはよく知られています。機能的な上肢運動を遂行するには姿勢の安定性は欠かせない要素ですが、立位において上肢運動を繰り返し行ったとき、姿勢の保持に関わる筋の応答も変化するのでしょうか？このような単純な疑問さえ、未だ詳しくは解明されていないのが現状です。健康者や高齢者を対象として姿勢学習やバランス能力の改善に関する研究に携わっています。



ヒトが発する生体情報（身体及び脳機能特性）を視覚化する

キーワード：生体信号 脳電位 筋電位 心電位

健康科学部リハビリテーション学科

清水 順市（しみず じゅんいち）リハビリテーション学科研究室6

TEL：04-2955-6028

e-mail：shimizu-j@tokyo-kasei.ac.jp

研究

ヒトの身体内部ではたくさんの電気信号が発生している。その電気信号の源は脳である。しかし、脳以外で発生した電気信号が脳に伝達され、その反応を基にヒトは判断して行動している。その信号の構成によってヒトは生活を営んでいる。その信号が有する意味を解析して、ヒトの行動分析を行なう。

ヒトは見て、聴いて、感じて、想像して、判断し、行動する。その過程を解析することで視覚化できる。そこからヒトの個性・特徴を探ることが可能となる。



図形・手の心的回転課題における脳機能・反応時間に関する研究

キーワード：心的回転（mental rotation; MR）課題 運動イメージ 視覚イメージ
利き手 男女差 脳卒中 統合失調症 加齢

健康科学部リハビリテーション学科

下田 信明（しもだ のぶあき）リハビリテーション学科研究室13

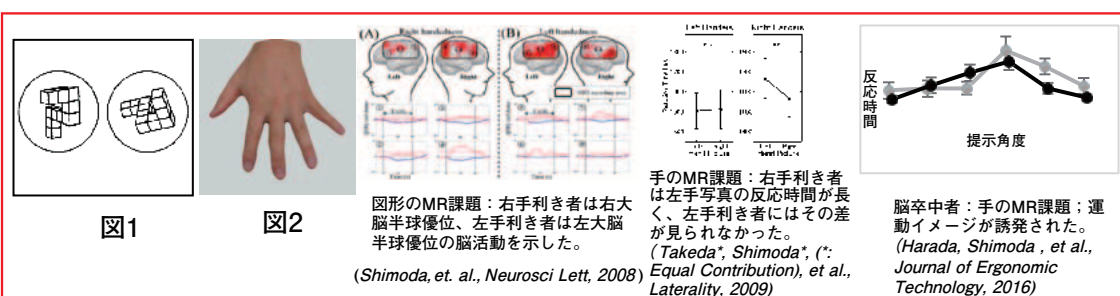
TEL：04-2955-6057

e-mail：shimoda-n@tokyo-kasei.ac.jp

研究

■図形のMR課題：2つの図形が同じか、鏡像かを問う（図1）。手のMR課題：手写真が左手か右手かを問う（図2）。→脳機能・反応時間を計測→手のMR課題は運動イメージを誘発する→脳卒中運動麻痺のリハビリテーションにも応用されている。

■脳機能・反応時間における利き手による差、男女差、加齢の影響、また、脳卒中者、統合失調症者の特徴などを検討している→MR課題をリハビリテーションに応用するための基礎的知見の提供が目標。



発達障害児に対する学校適応支援を目的とした作業療法

キーワード：作業療法 参加 就学支援 適応評価 特別支援教育 発達障害

健康科学部リハビリテーション学科 作業療法学専攻

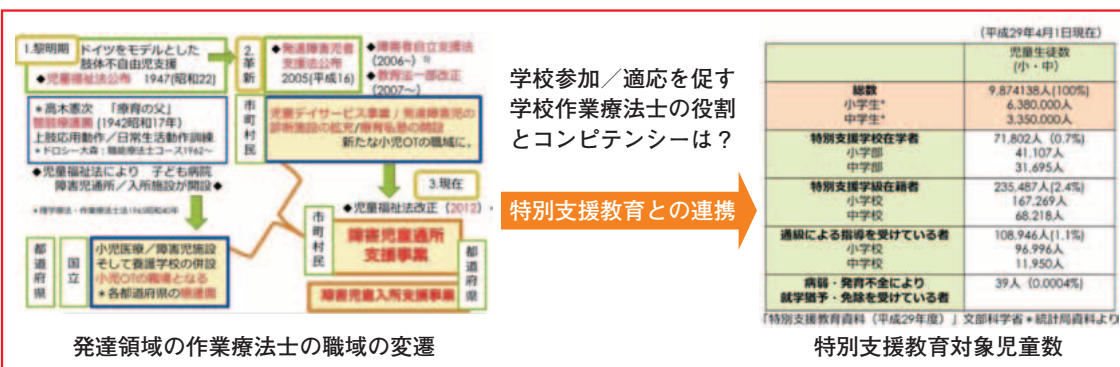
助川 文子（すけがわ あやこ）リハビリテーション学科研究室23

TEL：04-2955-6089

e-mail：sukegawa-a@tokyo-kasei.ac.jp

研究

近年小学校通常学級においても支援を要する発達障害児が多く在籍する事が示され、専門的な知見も踏まえた特別支援教育の介入が求められている。本研究では、作業療法による学校適応支援を調査し、作業療法による学校適応支援の構成概念から、現在わが国で進行する、学校作業療法士モデルにおける作業療法士の役割と、そのコンピテンシーを明確にすることを目的とする。



人の行動学習に関する行動神経学的研究

キーワード：リハビリテーション科学 臨床神経生理学 行動分析学

健康科学部リハビリテーション学科

鈴木 誠（すずき まこと）リハビリテーション学科研究室18

TEL：04-2955-6074

e-mail：suzuki-mak@tokyo-kasei.ac.jp

研究

私の専門は、行動学習に関する研究です。研究を通じて、「どのような対象者に、どのような行動練習を実施すると、どのような結果が予測されるのか、なぜそうなるのか？」という問いに答えることが私の研究の目標です。

超音波エコーを用いた運動器深部組織の解析

キーワード：運動器深部組織 胸腰筋膜 超音波エコー 腹横筋

健康科学部リハビリテーション学科 理学療法学専攻

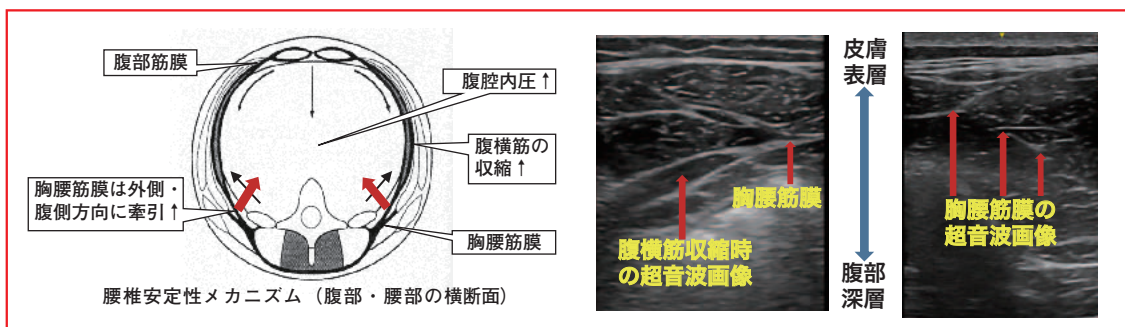
村上 幸士（むらかみ たかし）リハビリテーション学科研究室16

TEL：04-2955-6065

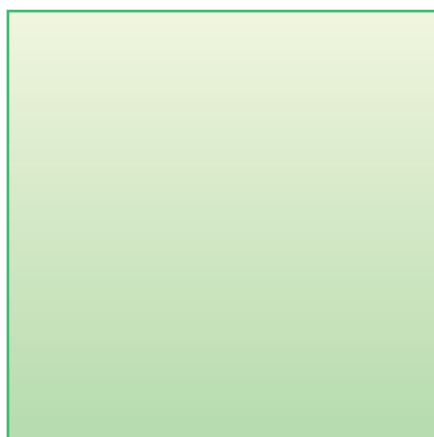
e-mail：murakami-t@tokyo-kasei.ac.jp

研究

近年、超音波エコーを用いた腰椎安定性メカニズムの解析は注目されている。その解析の中心は腹横筋であったが、腰椎には付着しておらず直接的な安定性の関与とは言い難い。つまり、腹横筋は胸腰筋膜を介して腰椎に付着していることから、胸腰筋膜の画像上変化を数値化し、解析することで、これらの腰椎安定性への関与を初めて述べる事が出来る。以上のテーマを中心に、運動器深部組織の解析を実施している。



子ども学部



子 ども 支 援 学 科

障害のある子どもの余暇・スポーツ支援

キーワード：障害 特別支援 教育 余暇 スポーツ レクリエーション
大学院人間生活学総合研究科 児童学児童教育学専攻 子ども学部子ども支援学科
阿部 崇（あべ たかし）

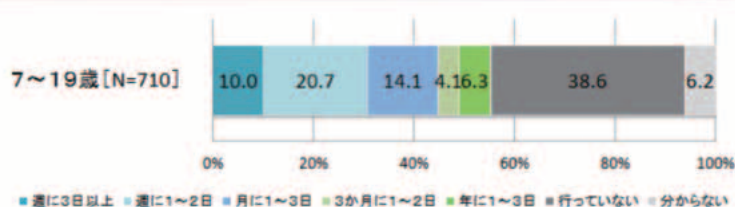
TEL：04-2955-6946

e-mail：abe-t@tokyo-kasei.ac.jp

研究

我が国では、2020年の東京オリンピック・パラリンピックを控え、障害者スポーツにもメディアが注目するようになってきた。しかしながら、一般の障害のある子どもたちに目を向けると、スポーツ活動への参加は積極的であるとは言い難い現状がある。彼らが余暇活動として当たり前のように体を動かす社会を作り上げるために、どのような教育・余暇支援と仕組みが求められるか、そのありようを検討している。

障害児（7～19歳）が過去1年間にスポーツ・レクリエーションを行った日数



地域における障害者のスポーツ・レクリエーション活動に関する調査研究報告書（平成25年度文部科学省委託事業）より

表現発表環境のアップデートと発表内容の向上への取り組み

キーワード：スポーツ心理学 スポーツ音響学 運動学 幼児教育（運動）

子ども学部子ども支援学科 池森 隆虎（いけもり たかとら）
子ども支援学科研究室3

TEL：04-2955-6941

e-mail：ikemori-t@tokyo-kasei.ac.jp

研究

各種表現の準備やステージ等で使用する音響、照明機材の進歩により、表現方法の可能性も広がっている。発表環境の改善が演者の意識や演出効果にどのような効果を及ぼすかを実践的に取り組む。

コミュニティワークの援助手法を活用したワークショップ型研修プログラムの開発

キーワード：小地域福祉活動 福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程

地域福祉担当職員研修 民生委員・児童委員研修

子ども学部子ども支援学科 岩崎 雅美（いわさき まさみ）子ども支援学科研究室2

TEL：04-2955-6092

e-mail：iwasaki-m@tokyo-kasei.ac.jp

研究

地域福祉に関わる地域住民・行政・社会福祉協議会・地域包括支援センターや民生委員・児童委員等が地域社会の課題を解決するための協働関係を構築していくための実践方法を身につける研修プログラムを実施している。神奈川県地域福祉担当職員研修（現任者編）や福祉職員キャリアパス対応型生涯研修課程中堅職員コース、民生委員・児童委員課題研修、平塚市市民後見人養成講座フォローアップ研修等の機会にどのような支援と仕組みが求められるか、そのありようを検討する。

平成30年地域福祉担当職員研修（現任者編）「コミュニティワークの援助手法を活用したワークショップ型研修」アンケート結果

日時 平成30年10月2日（火曜）13時50分から16時30分
回答数 33名（回収率97%） ※受講者数は34名

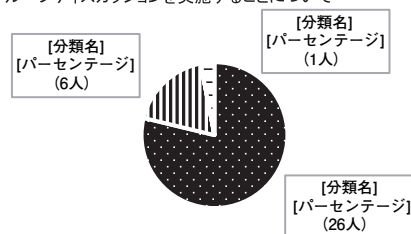
会場 横浜市開港記念会館 1階 1号室
主催 神奈川県福祉子どもみらい局福祉部 地域福祉課

研修の内容について 今回の研修を受講して10点満点という何点ぐらいになりますか。 平均 8.3点

（主な意見）

- ・アイスブレイクの手法がとても参考になりました。
- ・コミュニケーションのとり方について勉強になった。
- ・ワークを通じて地域ケア会議の進め方や援助手法等を学ぶことができた。
- ・「地域組織化説」とても興味があった。
- ・喪失体験の理解は地域の痛みのアセスメントになると思った。
- ・様々な部署、年代の方と知りあいて刺激になった。
- ・他機関の方と話をすることがありとても刺激になった。
- ・他の自治体の方々が思う地域の課題を知ることが出来て勉強になった。
- ・これだけ、グループの人と会話が弾んだ研修ははじめだった。
- ・グループ作りがすばらしく、序盤から思っていることを素直に話せた。
- ・とても良い雰囲気で行えた。
- ・GW型の研修で、立体的に楽しく学べた。
- ・意見が活発化するいい形式だった。

グループディスカッションを実施することについて



保育者の専門性と保育者養成における実習教育のあり方について

キーワード：保育者 専門性 保育者養成 実習教育

子ども学部子ども支援学科 小櫃 智子（おびつ ともこ）子ども支援学科研究室15

TEL：04-2955-6953

e-mail：obitsu-t@tokyo-kasei.ac.jp

研究

就学前の保育・教育、子育て支援の役割を担う保育者に求められる専門性とは何か。保育者養成校において、保育者の専門性をどのように養成していくか。保育を担う保育者の専門性とは何かを探求し、その専門性をどのように養成しうるかを明らかにしていくことを研究の目的としている。特に、実習を保育者養成の核と位置づけ、保育者養成における実習教育のあり方について検討する。

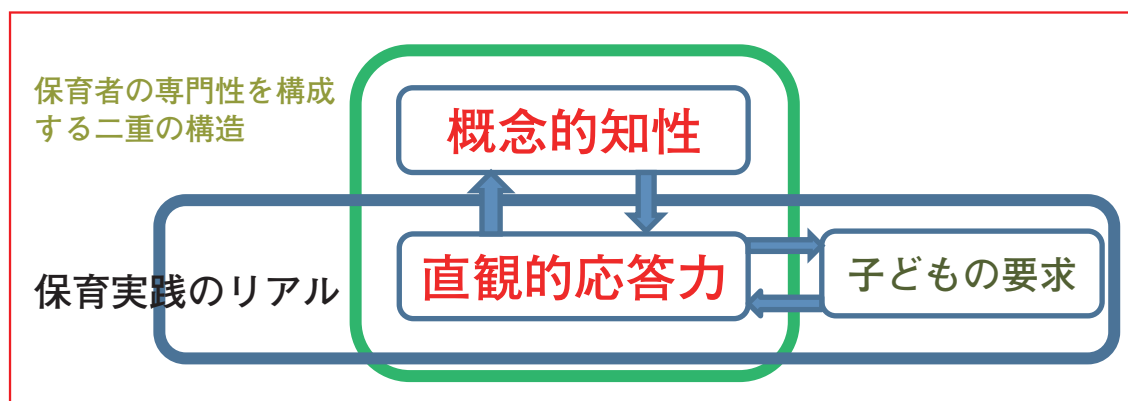
保育カリキュラムの理論と実際

キーワード：保育カリキュラム 保育者の専門性 保育実践 保育実践記録

子ども学部子ども支援学科 加藤 繁美（かとう しげみ） 子ども支援学科研究室8
TEL：04-2955-6936 e-mail：kato-s@tokyo-kasei.ac.jp

研究

保育者中心か子ども中心かという二項対立の図式で語られてきた保育実践の姿を、相互主体の関係を基礎にした「対話的保育カリキュラム」として理論的に再構築することを研究の中心課題に、対話的保育を創り出す保育者の専門性を高める方法と、条件整備の在り方について研究を進めている。



子どもの豊かな感性を育む「音楽表現」に関する研究

キーワード：音楽表現 リトミック こどものうた 伴奏法

子ども学部子ども支援学科 佐藤 邦子（さとう くにこ） 子ども支援学科研究室4
TEL：04-2955-6942 e-mail：sato-k@tokyo-kasei.ac.jp

研究

音・音楽は人の心や身体に非常に強く、直接的に働きかける力を持っている。この力を保育の中でどのように活かしていくのか、子どもの心身の発達、人とのコミュニケーションを取り持つ媒体として、音楽が担う役割とは何かについて研究している。

具体的には、身体の動きによる音楽表現について、ダルクローズ・リトミックを主とした音楽教育法の理論と実践、また保育者養成における「こどものうた」「音・音楽・あそび」「こどものうたの伴奏法」の指導法研究も行っている。



保育所及び施設保育士の専門職倫理の検討と 倫理を基盤とした養成プログラムの開発

キーワード：全国保育士会倫理綱領 保育士の専門性 保育士の専門的倫理
子ども学部子ども支援学科

千葉 弘明（ちば ひろあき） 子ども支援学科研究室13

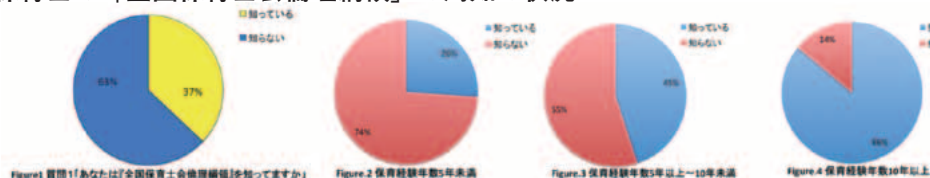
TEL：04-2955-6952

e-mail：chiba-h@tokyo-kasei.ac.jp

研究

保育士を含む対人援助職には、各専門職の職能団体によって倫理綱領が示され援助の際の行動規範として活用されている。しかし、全国保育士会で示される「全国保育士倫理綱領」の内容が抽象的で現場保育士の解釈に相違が生じたり、そもそも倫理綱領を知らないなどの問題が生じている。そこで、本研究では①保育士の専門的倫理についてのニーズの実態調査（量的・質的調査）、②倫理的判断を要する保育現場での事例の収集（質的調査）と検討、③保育士養成における専門的倫理に関する教育の現状把握（量的・質的調査）を通して、現場での実践に結びついた専門的倫理を学ぶプログラムを開発と試験的運用を行い、その試験的運用結果をふまえて検証、評価、適正性の確認・修正して効果的に活用できるプログラムの開発を目指している。

現場保育士の「全国保育士会倫理綱領」の周知の状況



出典：千葉弘明、上村麻郁、仲本美央「保育士の倫理に対する倫理のイメージ」日本保育学会第69回大会、P.463、2016。

保育者の専門的発達と保育の質と向上、乳幼児期の発達について

キーワード：保育の質 保育者の専門的発達 乳幼児期の言語発達 社会的発達

大学院人間生活学総合研究科 人間生活学専攻 児童学児童教育学専攻

子ども学部子ども支援学科 野口 隆子（のぐち たかこ）子ども支援学科研究室11

TEL：04-2955-6951

e-mail：noguchi-t@tokyo-kasei.ac.jp

研究

発達とはヒトを取り巻く環境・社会、歴史・文化の中で生じる。子どもの発達、さらに職場集団における保育者の発達について探求する。また、特に就学前の保育の質、保育の質向上に関わる要因について、保育実践を高めるツールや園内研修について、児童期の教育との接続についての研究をおこなっている。

感性を豊かにするアートと生活の質（QOL）の関わり

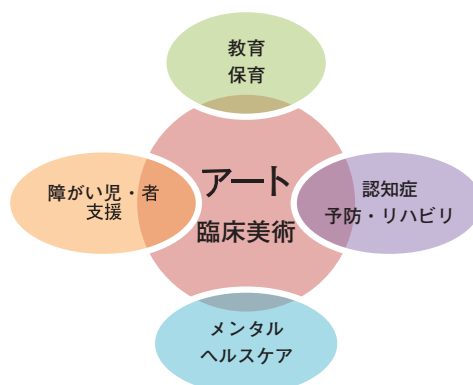
キーワード：臨床美術 幼児造形表現 認知症予防 感性アート

子ども学部子ども支援学科 保坂 遊（ほさか ゆう） 子ども支援学科研究室5
TEL：04-2955-6943 e-mail：hosaka-y@tokyo-kasei.ac.jp

研究

アートは、生活に豊かな意味を与えてくれる。『臨床美術』は、認知症予防・リハビリ、教育・保育現場、発達障がい児支援、メンタルヘルスケアとして広がりをみせている。このようなアートの社会的意義と可能性について探求する。

生涯の様々なステージに、アートの持つ力を最大限に活用することで、人と人との豊かな関係性を創造する。



家庭的保育者の働きやすい環境づくりモデルの構築

キーワード：保育者 労働環境 健康 子育て支援

子ども学部子ども支援学科 細井 香（ほそい かおり） 子ども支援学科研究室9
TEL：04-2955-6947 e-mail：hosoi-k@tokyo-kasei.ac.jp

研究

少子化対策として、出産・子育て・就労の希望がかなう社会を作るためには、子どもの預け先の確保は最重要課題である。現在、子ども・子育て新システムにおいても保育所待機児童対策として、小規模保育サービスの一環である家庭的保育事業の拡充を図っているところである。しかし、いくら制度の拡充を図っても、その制度の下で働いている保育ママが、安心して働ける環境におかれていなければ良質なサービスは提供できず、子どもへの良質な生育環境を保障することにはならない。本研究では、1) 保育ママの労働環境（雇用条件、実施基準、体制整備等）の実態解明、2) 保育ママの精神的・身体的負担感の度合いの定量化及び、これらを規定する要因分析、3) 行政担当者への調査をすることにより、保育ママが「安心して働ける環境づくり」のモデル案を構築することを目的とする。

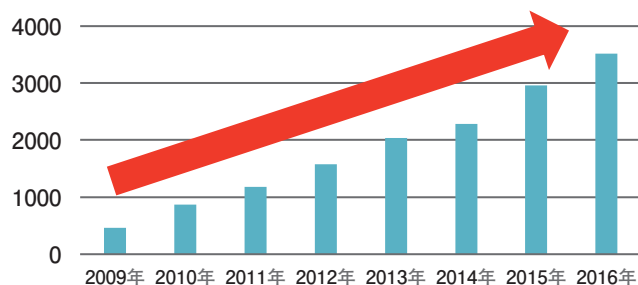
発達障害の大学生に関するメンタルヘルスリテラシー

キーワード：大学適応 発達障害 メンタルヘルスリテラシー スティグマ（偏見）
 援助要請 セルフ・コンパッション（自己への慈しみ） 学生相談
 障害学生支援

子ども学部子ども支援学科 水野 雅之（みずの まさし）子ども支援学科研究室4
 TEL：04-2955-6004 e-mail：mizuno-ma@tokyo-kasei.ac.jp

研究

主な研究テーマは、大学生の大学適応やキャリア発達、就職活動支援である。近年は、特に発達障害の大学生の大学適応に着目している。大学教員の発達障害に関するメンタルヘルスリテラシーの向上が、発達障害の学生の支援システム構築に繋がると考え、大学教員を対象に研究を進めている。



日本学生支援機構の 発達障害の定義

- ・自閉スペクトラム症（ASD）
- ・注意欠如・多動症（ADHD）
- ・限局性学習症（SLD）

日本学生支援機構『障害のある学生の修学支援に関する実態調査結果報告書』を基に作成

発達障がい児に対する支援と地域連携

キーワード：発達障がい 心理社会的治療 薬物療法 行動療法 ペアレントトレーニング
 子ども学部子ども支援学科 宮島 祐（みやじま たすく）子ども支援学科研究室6
 TEL：04-2955-6944 e-mail：miyajima-t@tokyo-kasei.ac.jp

研究

近年「集団行動に参加できない」「こだわりが強い」「かんしゃくをおこす」など、行動や社会性の問題を示す子ども達が増えていると話題になっているが、それら全てを「障害」とすべきか議論も起こっている。「行動の問題」を呈する子どもであっても、愛着を示す幼児期から学童低学年の時期こそ信頼される大人の存在は不可欠である。本人・家族を中心として、地域の保育・教育・福祉・行政と医療が互いに信頼し協力し合える関係を構築し、適切な対応・支援・治療が行えるよう「かせい森のクリニック」「放課後等デイサービス：つくし」および他施設との共同研究を行い検討している。

【幼児期だからこそ有効な行動療法】

前もって児の理解できる約束作り
 適切な行動を認め・強め・積み重ねる
 《正の行動：集中・覚えていた・静かにできた等》
 具体的に褒める・ポイントを与える
 《負の行動：わめく・ちょっかい・暴れる・騒ぐ等》
 無視（待つ）・制止・ポイントの減点

【こだわりの強い子への対応】

1. こだわりがあるからこそパターン化
2. 冷静なときに前もっての約束作り
3. 否定・命令でなく肯定的言葉
4. 絵・写真など視覚化して伝える
5. 行動など手順は一つずつわかりやすく
6. 叱るときは個別に、褒めるときは皆の前

【適切な薬物療法】心理社会的治療を基盤としたうえで、薬剤の作用機序・処方量と副作用に配慮し、子ども自身にとって利益となる小児適応薬剤使用方法の確立

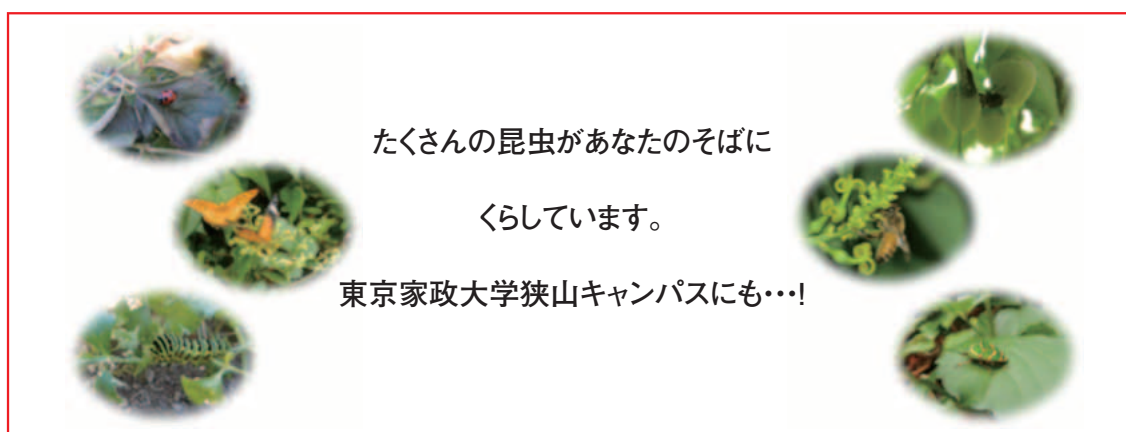
昆虫類を用いた教材開発研究

キーワード：昆虫 生物多様性 環境 教材開発 幼児科学教育

子ども学部子ども支援学科 渡部 美佳（わたなべ みか） 子ども支援学科研究室12
TEL：04-2955-6950 e-mail：watanabe-m@tokyo-kasei.ac.jp

研 究

すべての人を対象に、自ら興味・関心を持ち、自然や社会と関わっていくための力を身につけられるような教材の開発を目指しています。題材には、地球上で最も種類数の多い生物のグループとされている「昆虫」を用いています。



短期大学部



保
栄

育
養

科
科

インクルーシブな保育実践研究

キーワード：【幼児教育・保育】乳幼児期の生活と遊びに関する諸問題、保育者や家族への支援
【障害児保育臨床】インクルーシブな保育実践、障害児保育の方法論
【行動分析学：応用行動分析】パフォーマンスマネジメント 行動コンサルテーション
短期大学部保育科 石川 昌紀（いしかわ まさのり） 教職実践研究室
TEL：03-3961-4251 e-mail：ishikawa-m@tokyo-kasei.ac.jp

研究

障害のある子どものいる家族への寄り添いをライフワークにしながら、「多様なニーズのある子どものいる保育を問い直すこと：インクルーシブな保育実践」、「子どもの育ちを支える保育者を支えること：保育者支援」について探究しています。

インクルーシブ :inclusive

- inclusion (排除しない) ≠ Exclusion (排除)
- 包括的=誰をも排除しない!

障害があるうがなかるうが...
多様なニーズがあることを
前提とするために...
対象は **すべての子どもたち**

インクルーシブ教育・保育
子どもたちが持つ課題や問題の原因を子どもに求めるのではなく、周りの環境との関係で捉えて解決を図るという考え方で、誰をも排除しない教育・保育

一人できる < みんなでできる

- 特別支援教育
自立や社会参加を可能にするために障害を克服や軽減をする教育

ちゃんとほめる」ために

- 成功体験 = 無誤学習 : errorless learning
成就感・自己効力感や肯定感・有用感など
- 行動連鎖 : chaining
複雑な行動がつながること。そのために1ステップずつ指導すること。
① 順行連鎖化 : forward chaining
② 逆行連鎖化 : backward chaining
- プロンプト : prompts
反応が確実に正しくなるように出す補助

「日常の姿が認められる」って嬉しいことなんです。
「気になる」眼は、魅力を「気にする」眼に!

乳幼児の造形表現活動について

キーワード：感じて・考えて・行動する 表現素材の種類

短期大学部保育科 井戸 裕子（いど ゆうこ） 保育内容研究室
TEL：03-3961-5362 e-mail：ido@tokyo-kasei.ac.jp

研究

- ・乳幼児の造形表現活動をする時、どのような環境設定をして、どのような造形表現素材を準備するのか？ 年齢や発達に応じた自己表現しやすい素材とは？
- ・造形表現素材の年齢や発達に応じた取り扱い方などについて。

【幼児教育・保育】「遊び」に関する理解と援助・遊び場面における協同的体験 等
 【保育者養成】教育実習記録に関する諸問題 等
 【保育現場の研修】子ども理解・指導計画・保育実践・省察から改善へ・学級経営 等

キーワード：幼児教育 保育 保育者養成 教育実習指導 保育実践

短期大学部保育科 榎本 眞実（えのもと まみ） 保育実践研究室2
 TEL：03-3961-5609 e-mail：enomoto@tokyo-kasei.ac.jp

研究

保育における「遊び」の理解と援助に関して継続的に研究を続けています。また、保育者としてのスタートとも言える教育実習に学生が意欲的に取り組み、豊かな学びを得られる指導についても研究しています。

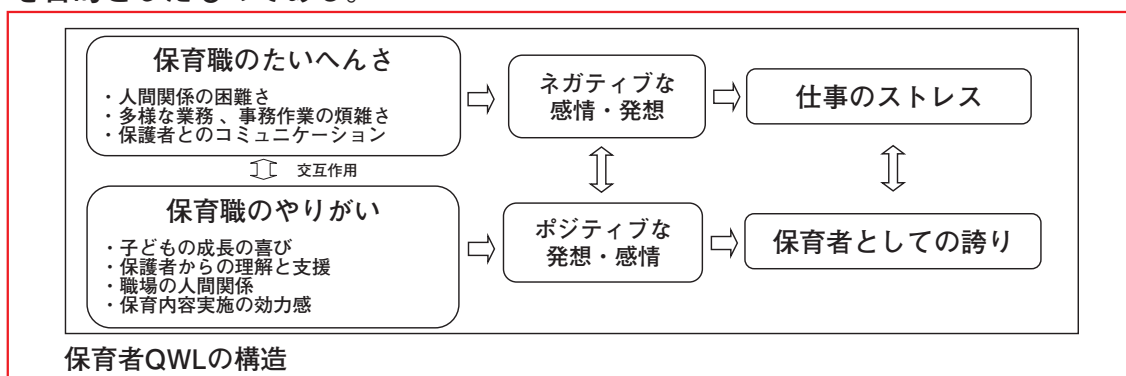
保育者のQWL（Quality of Working Life）尺度の開発と展開

キーワード：保育者 QWL尺度 ストレス ストレスマネジメント
 仕事のやりがい 生活の質

短期大学部保育科 金城 悟（きんじょう さとし） 社会福祉研究室
 TEL：03-3961-7610 e-mail：kinjo@tokyo-kasei.ac.jp

研究

保育者のワークストレスに関する研究はある程度行われるようになったが、仕事のやりがいに関する研究はまだこれからである。本研究は、保育職のたいへんさとやりがいを測定するQWL測定尺度の開発と保育現場における効果的な活用の展開を目的としたものである。



保育者・教員養成における指揮の学習を通じた音楽的能力の向上について

キーワード：音楽 指揮 音楽作品の分析 合奏 合唱 身体表現

短期大学部保育科 齋木 麻美（さいき あさみ） 120周年記念館資料室
TEL：03-3961-5830 e-mail：saiki-a@tokyo-kasei.ac.jp

研究

保育者・教員養成において、指揮を学ぶことは教員にとっても、学生にとっても音楽的能力を高めるために有益である。学生たちが現場に出た際、式や発表会等で指揮を振る必要に迫られた時に必要な指揮の技術の習得だけでなく、子どもたちとともに日常の中で音楽表現や演奏を行う際に、音楽作品を捉え、より音楽的にテンポやリズム、曲想等を伝えることのできる力を指揮の学習を通して身に付けることにより、子どもたちと豊かな音楽の時間を共有することができると考える。自身の指揮および音楽全体の研鑽を積むとともに、保育者・教員養成における学生に還元すべき内容および実践方法を研究している。

乳幼児の心と体の育ち

キーワード：心身の健康 運動能力 非認知能力 基本的動作
保育者の指導・援助 環境構成

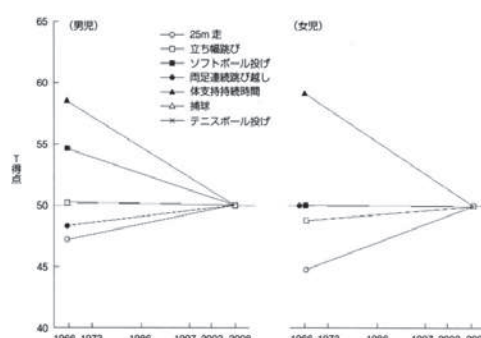
短期大学部保育科 鈴木 隆（すずき たかし） 身体教育学研究室
TEL：03-3961-5364 e-mail：suzuki-t@tokyo-kasei.ac.jp

研究

乳幼児期の運動経験の重要性は、多くの人の認識するところであるが、その低下傾向も指摘されて久しい。この時期の運動はいかにあるべきか、特に運動がもたらす多面的な発達に関心を抱いている。



ゲームの結果について相談する



運動能力は必ずしも低下しているばかりではない

①明治期幼稚園における音楽活動実践史の研究 ②子育て支援における音楽遊び

キーワード：唱歌遊戯 唱歌教育 明治期の保育実践 遊び歌 わらべうた
子育て支援

短期大学部保育科 西海 聡子（にしikai さとこ） 幼児音楽研究室
TEL：03-3961-5952 e-mail：nishikai@tokyo-kasei.ac.jp

研究

- ①明治期幼稚園においてどのような歌が歌われ、どのような指導がなされていたのか、幼児音楽の成立と展開について歴史的な考察を行っている。
- ②遊び歌やわらべうたなど音楽的な触れ合い遊びが乳幼児とその親に与える意義や影響について検討している。
子育て支援ひろばにおける音楽遊びの実践活動



家庭科教育学の構築

—家庭科で何を、どのように学び、自らの人生を拓いていく力を育むか—

キーワード：発達課題 カリキュラム 自立 共生 ワーク・ライフ・バランス

短期大学部栄養科 青木 幸子（あおき さちこ） 家庭科教育研究室
TEL：03-3961-4069 e-mail：aokis@tokyo-kasei.ac.jp

研究

家庭科はジェンダーと親和性が強い。学校教育における家庭科の授業内容や方法の研究を通して、男女共同参画社会の構築に向けて確かな考え方に基づいて自らのライフプランを設計できるような能力を育成するための教材として『教育カルタ』を制作した。

学校や男女共同参画講座で活用されている。（写真は授業風景と展示の一例）



実務経験に基づいた教職科目の指導及び教員採用試験対策

キーワード：特別活動 学習指導要領 アクティブ・ラーニング 授業改善
教員採用試験

短期大学部栄養科 阿久津 利明（あくつ としあき） 教員養成教育推進室
TEL：03-3961-5679/03-3961-3662 e-mail：akutsu-t@tokyo-kasei.ac.jp

研究

学校自己評価システムシートに見られる、家庭・地域と学校の連携に関する記載を調査し、諸調査にみられる保護者の意識や学校や教員への期待との整合について明らかにすることを試みている。それを通して、特別活動における学校と家庭・地域との連携・協力の重要性や、アクティブ・ラーニングによる授業改善の必要性を検討している。

Step 3

ジグソー活動

一人では十分答えの出ない問いに対する答えを作り上げていく。



Step 4

クロストーク

他の班の解の表現を聞きながら、理解を深める。



東京大学CoREFによる
知識構成型ジグソー法
を教職科目で実践

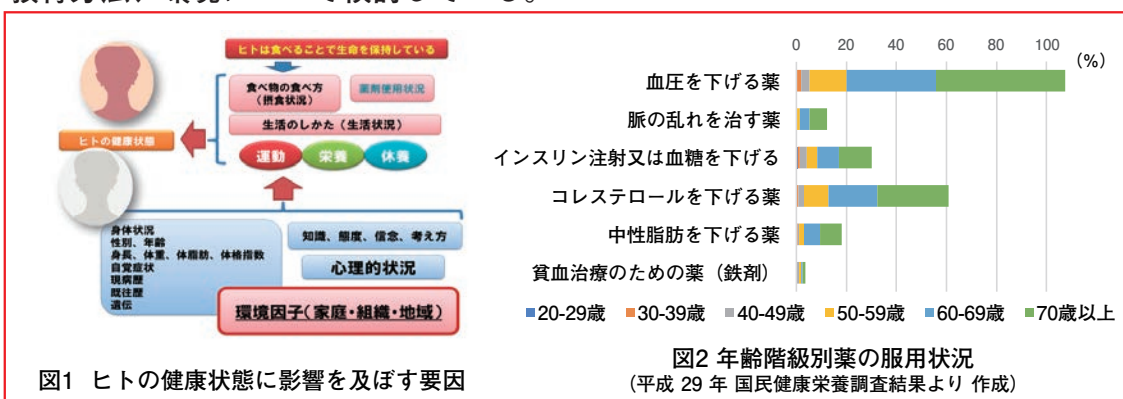
生活習慣病予防および病態悪化阻止のための栄養教育

キーワード：栄養アセスメント 食行動の実態と要因 食教育プログラムと環境整備
食行動変容と継続のためのアプローチ

短期大学部栄養科 塩入 輝恵（しおいり てるえ） 栄養教諭研究室
TEL：03-3961-8829 e-mail：shioiri@tokyo-kasei.ac.jp

研究

我が国で増加している生活習慣病は、医療費増大のみならず個人のQOL（生活の質）を低下させている。食事はその行動や内容を含めてヒトの健康状態に影響を及ぼす因子のひとつである。疾病に関連する遺伝子情報が解明されつつある中で、各個人が自身で健康状態をコントロールできる食行動への変容とその継続に向けた教育方法、環境について検討している。



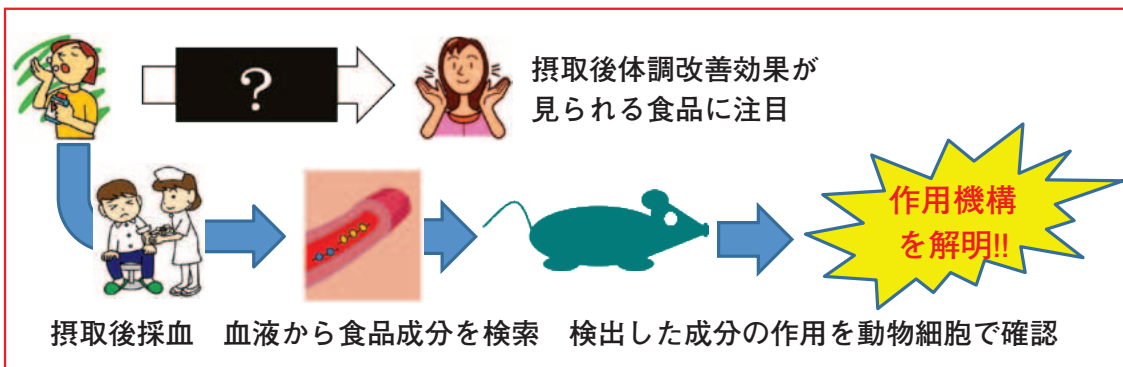
タンパク質分解物を中心とした、食品成分の体調改善効果のメカニズム解明

キーワード：コラーゲン エラスチン 大豆 コーヒー ペプチド

短期大学部栄養科 重村 泰毅（しげむら やすたか） 食品機能学研究室
TEL：03-3961-5629 e-mail：shigemura@tokyo-kasei.ac.jp

研究

詳細な機構が明らかになっていないコラーゲン等のペプチド摂取による体調改善について調べています。被験者に食品を摂取して頂き、採血後の血液から有効成分を検出・同定します。そして、ヒト血液中に吸収されるその成分がおよぼす動物細胞への作用から、体調改善メカニズムの解明を目的として研究を進めています。専門雑誌への研究成果掲載、企業との受託・共同研究、特許取得実績有り。



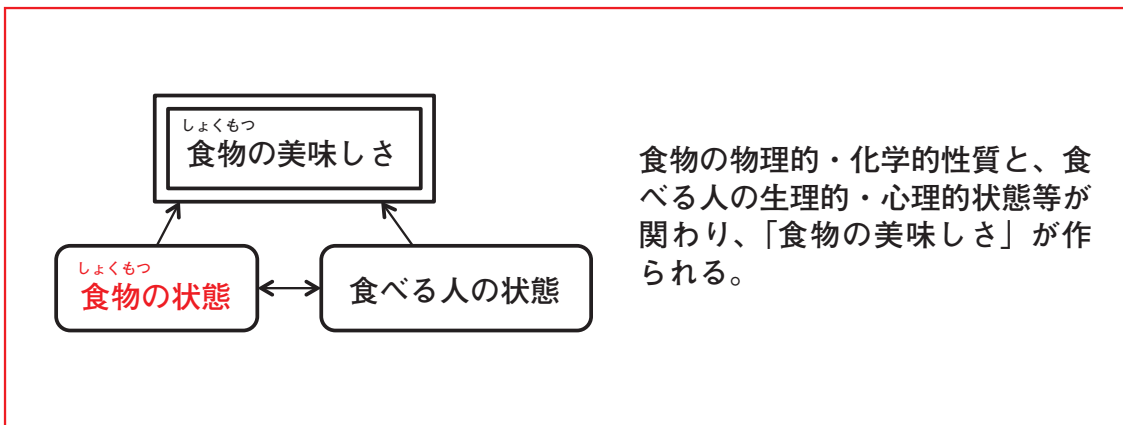
各種製菓材料の調理特性が製品の品質や嗜好性に及ぼす影響について

キーワード：菓子 官能評価 製菓材料 調製 調理性 物性

短期大学部栄養科 土屋 京子（つちや きょうこ） 食物調理学研究室
TEL：03-3961-6996 e-mail：tsuchiya@tokyo-kasei.ac.jp

研究

食物の美味しさは味だけで作られるものではない。食物の状態とりわけ、物理的性質が製品の美味しさにどのように影響するか、主に菓子類を調製することにより検討している。



「大学における教員養成教育のあり方」

キーワード：教員養成教育

短期大学部栄養科 深澤 直樹（ふかさわ なおき） 教員養成教育推進室
TEL：03-3961-5679 e-mail：fukasawa-n@tokyo-kasei.ac.jp

研 究

変化する社会の中で、今後の学校教育のあり方をみすえ、大学における教員養成のあり方を研究していく。

研究は主に次のことの実施を通じて深めていく。

- ・教職課程に関連する授業の実施
- ・教員採用試験対策
- ・年度ごとの「年報」の発刊
- ・関係教員の会議

食品加工における製品開発および製造・衛生管理技術の向上

キーワード：食品開発 製造管理 衛生管理 品質 保存 微生物 乳酸菌
有害菌

短期大学部栄養科 宮尾 茂雄（みやお しげお） 食品加工学研究室
TEL：03-3961-7862 e-mail：miyaos@tokyo-kasei.ac.jp

研 究

地域に根ざした食品開発。有用菌を利用した食品開発。天然物由来の抗菌物質を利用した食品の保存性向上。食品の製造環境における衛生対策。



製品開発

食品の殺菌・保存

微生物対策

衛生管理



索引

研究者名…………… P 99 ～ P101

学部・学科・科別…………… P102 ～ P103

キーワード…………… P104 ～ P112

研究者名

あ行

あ

青木	幸子	栄養科	P93
赤石	記子	栄養学科	P17
阿久津	利明	栄養科	P94
安達	祐子	看護学科	P63
阿部	崇	子ども支援学科	P79
阿部	藤子	児童教育学科	P11
天野	美穂子	児童教育学科	P12
有澤	舞	看護学科	P63
有馬	十三郎	造形表現学科	P42

い

家田	晴行	児童教育学科	P12
五十嵐	友里	心理カウンセリング学科	P53
池森	隆虎	子ども支援学科	P79
石川	昌紀	保育科	P89
石塚	倫子	英語コミュニケーション学科	P49
井戸	裕子	保育科	P89
井上	宮雄	環境教育学科	P38
今留	忍	看護学科	P64
色川	木綿子	栄養学科	P18
岩崎	雅美	子ども支援学科	P80
岩崎	美智子	児童学科	P 3
岩田	みどり	看護学科	P64

う

植村	直子	看護学科	P65
潮田	ひとみ	服飾美術学科	P30
梅谷	千代子	児童学科	P 3
宇和川	小百合	栄養学科	P18

え

榎沢	良彦	児童学科	P 4
榎本	眞実	保育科	P90
海老塚	広子	栄養学科	P19

お

大木	敦子	造形表現学科	P42
大久保	麻矢	看護学科	P65
大澤	亜貴子	看護学科	P66
太田	一樹	栄養学科	P19
太田	洋	英語コミュニケーション学科	P49
太田	美帆	看護学科	P66
大塚	有里	服飾美術学科	P30
大西	淳之	栄養学科	P20
大野	順子	看護学科	P67
岡本	恵	造形表現学科	P43
押元	信幸	造形表現学科	P43
小野寺	光	造形表現学科	P44

小櫃 智子 子ども支援学科 P80

研究者名

か行

か

片田	真一	環境教育学科	P39
加藤	和子	栄養学科	P20
加藤	繁美	子ども支援学科	P81
加藤	由美子	栄養学科	P21
金子	真希	服飾美術学科	P31

き

木村	博人	児童教育学科	P13
金城	悟	保育科	P90

く

久篠	奈苗	リハビリテーション学科	P72
葛原	亜起夫	服飾美術学科	P31
倉	みゆき	服飾美術学科	P32

こ

小池	新	英語コミュニケーション学科	P50
小泉	昌子	栄養学科	P21
小関	正道	栄養学科	P22
後藤	寛司	リハビリテーション学科	P73
小西	康子	栄養学科	P22
小林	理恵	栄養学科	P23
古茂田	恵美子	栄養学科	P23

研究者名

さ行

さ

齋木	麻美	保育科	P91
齋藤	昭彦	リハビリテーション学科	P73
齊藤	展士	リハビリテーション学科	P74
齋藤	正子	看護学科	P67
齊藤	美佳	栄養学科	P24
坂本	友里	栄養学科	P24
笹井	邦彦	児童学科	P 4
里	英子	看護学科	P68
佐藤	邦子	子ども支援学科	P81
佐藤	隆弘	児童学科	P 5
佐藤	英文	児童学科	P 5
佐藤	吉朗	栄養学科	P25
沢尾	絵	服飾美術学科	P32
澤田	めぐみ	栄養学科	P25

し

塩入	輝恵	栄養科	P94
重村	泰毅	栄養科	P95
清水	順市	リハビリテーション学科	P74
下田	信明	リハビリテーション学科	P75

白井 菜月	服飾美術学科	P33
す		
杉田 理恵子	看護学科	P68
杉野(建石)公子	服飾美術学科	P33
助川 文子	リハビリテーション学科	P75
鈴木 彬子	児童学科	P 6
鈴木 隆	保育科	P91
鈴木 誠	リハビリテーション学科	P76
鈴木 幹子	看護学科	P69
鈴木 由子	服飾美術学科	P34

せ

関目 綾子	栄養学科	P26
-------	------	-----

そ

相馬 誠一	心理カウンセリング学科	P54
曾根 博美	造形表現学科	P44

研究者名 た行

た

田頭 憲二	英語コミュニケーション学科	P50
高野 貴子	児童学科	P 6
高水 伸子	服飾美術学科	P34
武田 洋子	児童学科	P 7
田中 恵美子	教育福祉学科	P57
田中 早苗	服飾美術学科	P35
田中 寛	栄養学科	P26
谷岸 悦子	看護学科	P69
田原 美香	看護学科	P70

ち

千葉 弘明	子ども支援学科	P82
-------	---------	-----

つ

塚本 美起子	保育科	P92
土屋 京子	栄養科	P95

て

寺田 恭子	服飾美術学科	P35
-------	--------	-----

と

富谷 智	服飾美術学科	P36
Tom Edwards	英語コミュニケーション学科	P51

研究者名 な行

な

中尾 浩康	児童教育学科	P13
中込 由美	心理カウンセリング学科	P54
中村 直美	心理カウンセリング学科	P55

中村 教子	児童学科	P 7
-------	------	-----

に

新関 隆	環境教育学科	P39
西海 聡子	保育科	P92

ね

根岸 貴子	看護学科	P70
根本 貴行	英語コミュニケーション学科	P51

の

野口 隆子	子ども支援学科	P82
野原 理子	栄養学科	P27

研究者名 は行

は

走井 洋一	児童教育学科	P14
長谷川 望	児童教育学科	P14
濱田 仁美	服飾美術学科	P36
林 嘉瑞子	児童教育学科	P15
早瀬 郁恵	造形表現学科	P45
原 恵理子	英語コミュニケーション学科	P52
原田 萌香	栄養学科	P27
春田 和男	教育福祉学科	P58
半澤 嘉博	児童教育学科	P15

ひ

肥田 乃莉子	栄養学科	P28
平川 俊功	心理カウンセリング学科	P55
平田 浩三	看護学科	P71
平戸 ルリ子	教育福祉学科	P58
平野 順子	保育科	P93
平野 真理	心理カウンセリング学科	P56
平山 祐一郎	児童学科	P 8

ふ

深澤 直樹	栄養科	P96
福井 至	心理カウンセリング学科	P56
福田 啓子	児童教育学科	P16
福富 律	教育福祉学科	P59
藤田 藍津子	看護学科	P71
藤森 文啓	環境教育学科	P40
二川 正浩	環境教育学科	P40
淵之上明日香	造形表現学科	P45

ほ

保坂 遊	子ども支援学科	P83
細井 香	子ども支援学科	P83
細田 淳子	児童学科	P 8
堀 科	児童学科	P 9

研究者名 ま行

ま

前田	和代	児童学科	P 9
松江	なるえ	看護学科	P72
松岡	洋子	教育福祉学科	P59
松本	なるみ	児童学科	P10

み

三浦	正江	心理カウンセリング学科	P57
水野	雅之	子ども支援学科	P84
峯木	眞知子	栄養学科	P28
宮	祐子	児童教育学科	P16
宮尾	茂雄	栄養科	P96
宮島	祐	子ども支援学科	P84
宮地	孝宜	教育福祉学科	P60
宮本	康司	環境教育学科	P41

む

村上	幸士	リハビリテーション学科	P76
----	----	-------------	-----

も

茂木	もも子	環境教育学科	P41
桃木	美恵	服飾美術学科	P37
森	俊夫	服飾美術学科	P37
森田	幸雄	栄養学科	P29

研究者名 や行

や

谷田	恵司	英語コミュニケーション学科	P52
梁川	悦美	児童学科	P10
山田	民子	服飾美術学科	P38
山藤	仁	造形表現学科	P46
山本	和人	教育福祉学科	P60

ゆ

結城	孝雄	児童教育学科	P17
----	----	--------	-----

研究者名 ら行

ろ

Robert J. Lowe	英語コミュニケーション学科	P53
----------------	---------------	-----

研究者名 わ行

わ

和田	涼子	栄養学科	P29
渡部	晃正	児童学科	P11
渡部	美佳	子ども支援学科	P85

家政学部

児童学科

岩崎 美智子	いわさき みちこ	P 3
梅谷 千代子	うめたに ちよこ	P 3
榎沢 良彦	えのさわ よしひこ	P 4
笹井 邦彦	ささい くにひこ	P 4
佐藤 隆弘	さとう たかひろ	P 5
佐藤 英文	さとう ひでふみ	P 5
鈴木 彬子	すずき あきこ	P 6
高野 貴子	たかの たかこ	P 6
武田 洋子	たけだ ようこ	P 7
中村 教子	なかむら のりこ	P 7
平山 祐一郎	ひらやま ゆういちろう	P 8
細田 淳子	ほそだ じゅんこ	P 8
堀 科	ほり しな	P 9
前田 和代	まえだ かずよ	P 9
松本 なるみ	まつもと なるみ	P10
梁川 悦美	やながわ えつみ	P10
渡部 晃正	わたなべ てるまさ	P11

児童教育学科

阿部 藤子	あべ ふじこ	P11
天野 美穂子	あまの みほこ	P12
家田 晴行	いえだ はるゆき	P12
木村 博人	きむら ひろと	P13
中尾 浩康	なかお ひろやす	P13
走井 洋一	はしりい よういち	P14
長谷川 望	はせがわ のぞむ	P14
林 嘉瑞子	はやし かずこ	P15
半澤 嘉博	はんざわ よしひろ	P15
福田 啓子	ふくだ けいこ	P16
宮 祐子	みや ゆうこ	P16
結城 孝雄	ゆうき たかお	P17

栄養学科

赤石 記子	あかいし のりこ	P17
色川 木綿子	いろかわ ゆうこ	P18
宇和川小百合	うわがわ さゆり	P18
海老塚 広子	えびづか ひろこ	P19
太田 一樹	おおた かずき	P19
大西 淳之	おおにし じゅんじ	P20
加藤 和子	かとう かずこ	P20
加藤 由美子	かとう ゆみこ	P21
小泉 昌子	こいずみ あきこ	P21
小関 正道	こせき まさみち	P22
小西 康子	こにし やすこ	P22
小林 理恵	こばやし りえ	P23
古茂田恵美子	こもだ えみこ	P23
齊藤 美佳	さいとう みか	P24
坂本 友里	さかもと ゆり	P24
佐藤 吉朗	さとう よしお	P25
澤田 めぐみ	さわだ めぐみ	P25
関目 綾子	せきめ あやこ	P26

田中 寛	たなか ひろし	P26
野原 理子	のほら みちこ	P27
原田 萌香	はらだ もえか	P27
肥田 乃莉子	ひだ のりこ	P28
峯木 眞知子	みねき まちこ	P28
森田 幸雄	もりた ゆきお	P29
和田 涼子	わだ りょうこ	P29

服飾美術学科

潮田 ひとみ	うしおだ ひとみ	P30
大塚 有里	おおつか ゆり	P30
金子 真希	かねこ まき	P31
葛原 亜起夫	くずはら あきお	P31
倉 みゆき	くら みゆき	P32
沢尾 絵	さわお かい	P32
白井 菜月	しらい なつき	P33
杉野 公子	すぎの きみこ	P33
鈴木 由子	すずき ゆうこ	P34
高水 伸子	たかみず のぶこ	P34
田中 早苗	たなか さなえ	P35
寺田 恭子	てらだ きょうこ	P35
富谷 智	とみや さとる	P36
濱田 仁美	はまだ ひとみ	P36
桃木 美恵	ももき よしえ	P37
森 俊夫	もり としお	P37
山田 民子	やまだ たみこ	P38

環境教育学科

井上 宮雄	いのうえ みやお	P38
片田 真一	かただ しんいち	P39
新関 隆	にいぜき たかし	P39
藤森 文啓	ふじもり ふみひろ	P40
二川 正浩	ふたがわ まさひろ	P40
宮本 康司	みやもと こうじ	P41
茂木 もも子	もぎ ももこ	P41

造形表現学科

有馬 十三郎	ありま とみお	P42
大木 敦子	おおき あつこ	P42
岡本 恵	おかもと めぐみ	P43
押元 信幸	おしもと のぶゆき	P43
小野寺 光	おのでら ひかり	P44
曾根 博美	そね ひろみ	P44
早瀬 郁恵	はやせ いくえ	P45
淵之上明日香	ふちのうえ あすか	P45
山藤 仁	やまふじ ひとし	P46

人文学部

英語コミュニケーション学科

石塚 倫子	いしづか のりこ	P49
太田 洋	おおた ひろし	P49

小池 新	こいけ あらた	P50
田頭 憲二	たがしら けんじ	P50
Tom Edwards	トム エドワーズ	P51
根本 貴行	ねもと たかゆき	P51
原 恵理子	はら えりこ	P52
谷田 恵司	やた けいじ	P52
Robert J. Lowe	ロバート・ジェームズ・ロウ	P53

心理カウンセリング学科

五十嵐 友里	いがらし ゆり	P53
相馬 誠一	そうま せいいち	P54
中込 由美	なかごめ ゆみ	P54
中村 直美	なかむら なおみ	P55
平川 俊功	ひらかわ としこう	P55
平野 真理	ひらの まり	P56
福井 至	ふくい いたる	P56
三浦 正江	みうら まさえ	P57

教育福祉学科

田中 恵美子	たなか えみこ	P57
春田 和男	はるた かずお	P58
平戸 ルリ子	ひらと るりこ	P58
福富 律	ふくとみ りつ	P59
松岡 洋子	まつおか ようこ	P59
宮地 孝宜	みやち たかよし	P60
山本 和人	やまもと かずひと	P60

健康科学部

看護学科

安達 祐子	あだち ゆうこ	P63
有澤 舞	ありさわ まい	P63
今留 忍	いまとめ しのぶ	P64
岩田 みどり	いわた みどり	P64
植村 直子	うえむら なおこ	P65
大久保 麻矢	おおくぼ あや	P65
大澤 亜貴子	おおさわ あきこ	P66
太田 美帆	おおた みほ	P66
大野 順子	おおの じゅんこ	P67
齋藤 正子	さいとう まさこ	P67
里 英子	さと ひでこ	P68
杉田 理恵子	すぎた りえこ	P68
鈴木 幹子	すずき みきこ	P69
谷岸 悦子	たにぎし えつこ	P69
田原 美香	たはら みか	P70
根岸 貴子	ねぎし たかこ	P70
平田 浩三	ひらた こうぞう	P71
藤田 藍津子	ふじた あつこ	P71
松江 なるえ	まつえ なるえ	P72

リハビリテーション学科

久篠 奈苗	くしの ななえ	P72
後藤 寛司	ごとう ひろし	P73
齋藤 昭彦	さいとう あきひこ	P73
齋藤 展士	さいとう ひろし	P74
清水 順市	しみず じゅんいち	P74
下田 信明	しもだ のぶあき	P75
助川 文子	すけがわ ふみこ	P75
鈴木 誠	すずき まこと	P76
村上 幸士	むらかみ たかし	P76

子ども学部

子ども支援学科

阿部 崇	あべ たかし	P79
池森 隆虎	いけもり たかとら	P79
岩崎 雅美	いわさき まさみ	P80
小櫃 智子	おびつ ともこ	P80
加藤 繁美	かとう しげみ	P81
佐藤 邦子	さとう くにこ	P81
千葉 弘明	ちば ひろあき	P82
野口 隆子	のぐち たかこ	P82
保坂 遊	ほさか ゆう	P83
細井 香	ほそい かおり	P83
水野 雅之	みずの まさし	P84
宮島 祐	みやじま たすく	P84
渡部 美佳	わたなべ みか	P85

短期大学部

保育科

石川 昌紀	いしかわ まさのり	P89
井戸 裕子	いど ゆうこ	P89
榎本 眞実	えのもと まみ	P90
金城 悟	きんじょう さとし	P90
齋木 麻美	さいき あさみ	P91
鈴木 隆	すずき たかし	P91
塚本 美起子	つかもと みきこ	P92
西海 聡子	にしかい さとこ	P93
平野 順子	ひらの じゅんこ	P92

栄養科

青木 幸子	あおき さちこ	P93
阿久津 利明	あくつ としあき	P94
塩入 輝恵	しおいり てるえ	P94
重村 泰毅	しげむら やすたか	P95
土屋 京子	つちや きょうこ	P95
深澤 直樹	ふかさわ なおき	P96
宮尾 茂雄	みやお しげお	P96

キーワード あ行

あ

アート	P46
アートマネジメント	P44
アイトラッキング	P63
アクティブ・ラーニング	P94
味	P21
味の相互作用	P24
遊び(特にごっこ遊び)	P 9
遊び歌	P92
遊びの展開	P 9
アタッチメント	P 9
圧迫	P30
圧迫快適感	P30
編物	P30
在り方	P 4
アルコール依存症	P67
アルコール関連問題	P67
アロスタシス	P20
安心	P38
安全	P38
安全教育	P40
安全性	P37

い

医学教育	P25
育児	P65
育児支援	P69
育児性	P69
育成指標	P55
医師	P27
一次救命処置	P54
遺伝子多型	P24
命を守る授業	P54
衣服内温湿度	P30
医療機関	P27
医療者間コミュニケーション	P72
医療的ケア	P71
衣料品	P36
インクルーシブ教育	P15
インクルーシブな保育実践	P89

う

ウイメンズヘルス	P68
うま味	P24
運動	P10, 24
運動イメージ	P75
運動介入	P73
運動学	P79
運動学習	P74
運動器深部組織	P76
運動能力	P91

運動療法	P73
------	-----

え

映画	P49, 52
英語教育：英語授業の進め方	P50
衛生管理	P96
映像	P45
栄養	P24
栄養アセスメント	P94
栄養バランス	P26
栄養量	P18
営利組織	P11
エコクッキング	P17
エスプーマ	P28
エラスチン	P95
嚥下	P28
演劇	P52
援助要請	P84

お

おいしさ	P19, 21
横断的調査	P66
多世代	P46
オーバーレイネットワーク	P50
おとなとの関係	P 3
お端折り	P35
オフフレイバー	P25
親教育	P 7
親子支援	P 9
親役割のコンピテンシー	P69
織物	P42
音楽	P91
音楽教育	P 4
音楽作品の分析	P91
音楽的資質	P16
音楽表現	P81
音楽療法	P 4
お端折り	P35

キーワード か行

か

絵画	P44, 46
絵画	P46
介護準備態勢	P70
介護予防	P29, 70, 73
介護予防プロジェクト	P70
海藻に含まれる機能性成分	P22
快適感	P30
開発途上国	P10
外来染織品	P32
カウンセリング	P56
かおり	P25

価格 P32
 化学修飾 P31
 科学的思考力 P25
 関わり P 4
 学社連携・融合 P60
 学習 P17
 学習意欲 P21
 学習支援システム(LMS) P35
 学習指導要領 P94
 学習者個人への対応 P50
 学習成果の活用 P60
 学習プログラム P60
 学士力 P41
 学生相談 P84
 化合物スクリーニング P40
 菓子 P95
 可視化 P17
 加速度計 P18
 学校 P11
 学校・家庭・地域の連携協力 P60
 学校教育 P14
 学校支援ボランティア P60
 学校の危機管理 P40
 合唱 P91
 合奏 P91
 家庭養護 P10
 家庭料理 P18
 カニムシ P 5
 加熱調理 P17
 紙おむつ P36
 からだ作り P 3
 体づくり運動 P13
 カリキュラム P93
 加齢 P75
 カロリーアンサー P18
 がん悪液質 P19
 環境 P85
 がん教育 P25
 環境教育 P41
 環境構成 P91, 92
 関係性 P17
 間欠通信 P50
 看護 P71
 看護学生 P64, 72
 看護技術の教育 P69
 看護基礎教育 P72
 看護ケア P69
 感じて・考えて・行動する P89
 患者教育 P66
 感性 P43
 感性アート P83
 感染症 P19
 緩速ろ過 P22

官能評価 P25, 28, 95
 カンピロバクター P29
 甘味 P24
 がん悪液質 P19
 器楽合奏 P 8
 利き手 P75
 着心地 P30
 着心地の評価 P33
 気質 P21
 傷つきやすさ P56
 基礎技術 P31
 基礎教育 P63
 機能性 P36, 38
 基本的動作 P91
 基本動作 P10
 疑問詞移動 P51
 キャリア形成 P14
 吸収合併 P66
 教育 P43, 79
 教育開発 P72
 教育効果測定法開発 P41
 教育実習指導 P16, 90
 教員採用試験 P94
 教員へのキャリア支援 P16
 教員養成 P16
 教員養成教育 P96
 教科教育学 P13
 共感性 P20
 狂犬病 P29
 胸腰筋膜 P76
 教材開発 P85
 教材研究 P11
 教師教育 P14, 16
 行事食 P18, 20
 教授法 P64
 共生 P68, 93
 協同 P17
 協働・連携 P11
 郷土食 P18
 郷土料理 P20
 業務バランス P27
 胸腰筋膜 P76
 儀礼食 P18, 20
 筋活動 P74
 筋電位 P74
 近世 P32
 勤務環境改善 P27
 菌類ウイルス P40

ひき

く

空間 P42

け

空間演出	P36
草木染	P37
グラフィックデザイン	P42
クリティカルシンキング	P41
経済性の原理	P51
芸術	P46
芸術療法	P44
鶏卵	P21, 28
ケラチン繊維	P31
健康	P10, 30, 72, 83
健康衣生活	P37
健康関連行動	P66
健康教育	P25
健康支援活動	P69
健康寿命	P29
健康増進	P73
健康不安	P68
健康リスク	P66
言語習得	P49
減災への備え	P69
研修	P55, 65
原子力災害	P68
元素分析	P39
現代美術	P44
権利擁護	P58

こ

効果測定法開発	P41
公共図書館	P58
工芸	P43
口腔	P72
高血圧	P26, 71
広告・広報の効果	P12
抗酸化性	P37
構造	P32
酵素阻害物質	P22
酵素の構造と機能	P22
酵素反応の利用	P22
肯定的変化	P68
硬度	P22
行動コンサルテーション	P89
行動生態学	P39
行動分析学	P 5, 76
行動療法	P84
広汎性発達障害児	P64
合理的配慮	P15
高齢者	P28, 29, 33
高齢者の自立支援	P70
コーチング	P14
コーヒー	P95
小型加速度計	P73

国語教育	P11
穀類	P17
心とからだ	P10
語順	P51
子育て	P10, 93
子育て支援	P7, 57, 83, 92
子育て支援サポートシステムづくり	P64
子育て世代	P46
ごっこ遊び	P 9
骨代謝関連遺伝子	P24
骨密度	P24
子ども	P 4, 5, 10, 46
子供	P33
こどものうた	P81
子どもの健康課題	P55
子供服	P38
こども服	P34
コミュニティ	P17
コミュニティ・アート・プログラム	P44
コミュニティグループ	P65
コラーゲン	P95
コンサルテーション・リエゾンサービス	P53
昆虫	P85
コンテンツデザイン	P42
困難ケースへの対応	P 7

キーワード

さ行

さ

災害	P65
災害栄養	P27
災害看護	P69
細菌汚染	P23
在宅看護	P70
作業療法	P75
挿絵	P37
作曲	P 4
雑穀の有効利用	P23
里親	P10
サルコペニア	P19
サルモネラ	P29
参加	P75
産後クライシス	P69
三次元動作解析	P74
算数	P12

し

シェイクスピア	P49
支援者同士の育ちあい	P 7
ジェンダー	P49, 93
ジェンダー・セクシュアリティ	P52
歯科	P72
紫外線遮蔽	P37

史学一般 P13
 視覚イメージ P75
 指揮 P91
 色彩計画 P36
 刺激等価性 P 5
 思考過程 P63
 自己効力感 P21
 仕事のやりがい P90
 自己表現 P 3
 自己理解 P56
 自殺予防 P54
 自殺予防教育 P54
 支持体 P44
 脂質異常症 P26
 資質能力 P16
 刺繍 P30
 自主グループ P65
 司書 P58
 静物画 P37
 姿勢学習 P74
 自責感情 P68
 自然 P43
 持続可能な開発のための教育ESD P39
 時代衣装制作 P34
 実習教育 P80
 実習評価 P 7
 湿潤感 P30
 実践力 P55
 実態研究 P32
 質問紙調査 P41
 児童虐待 P58
 児童自立支援施設 P58
 児童相談所 P58
 児童養護施設 P 3
 シニアリーダー P70
 視認性 P38
 自発性 P64
 ジビエ P29
 社会遺伝学 P20
 社会科教育 P40
 社会教育指導者の養成・研修 P60
 社会心理学 P12
 社会人基礎力 P41
 社会性 P 3, 14
 社会性昆虫 P39
 社会的発達 P82
 社会的養護 P10, 58
 社会と美術 P44
 社会福祉と美術の連携 P44
 社交不安障害 P53
 写実的 P37
 写真 P45
 就学支援 P75

習慣 P10
 習慣飲酒 P67
 周手術期 P63
 就職対策 P16
 柔軟な作文の指導過程 P15
 住民組織 P65
 週齢 P21
 授業改善 P94
 授業づくり P49
 授業リフレクション P11
 手芸 P30
 術後観察 P63
 出産 P68
 省エネルギー P37
 省エネルギー教育 P17
 唱歌 P 8
 唱歌教育 P92
 唱歌遊戯 P92
 障害 P79
 生涯学習支援システム P60
 生涯学習振興 P60
 障害学生支援 P84
 障害児保育の方法論 P89
 障がい者 P33
 障害者 P72
 障害者の結婚 P57
 障害者の自立生活 P57
 障害予防 P73
 障害理解 P15
 小学校音楽科教育 P16
 小学校教員 P16
 硝酸態窒素 P22
 小地域福祉活動 P80
 少人数指導 P12
 情報活用能力 P15
 情報教育 P12
 情報行動 P12
 情報ネットワーク P50
 ジョージ・ヘンリー・ルイス研究 P52
 職業 P 3
 食教育プログラムと環境整備 P94
 職業関連ストレス P66
 職業性疾病 P72
 職業性ストレス簡易調査 P66
 食行動の実態と要因 P94
 食行動変容と継続のためのアプローチ P94
 食事 P10
 食事選択 P26
 食習慣 P26
 食生活 P29
 食鳥処理場 P29
 食肉 P23
 食肉衛生 P29

職能団体	P58
食の文化	P20
食品	P25
食品衛生	P29
食品開発	P96
食品成分	P19
食品中の低分子化合物の網羅的分析	P22
食品廃棄物	P38
植物遊び	P 5
食物アレルギー	P17, 27
食物繊維(β-グルカン)による生活習慣病予防	P23
食料備蓄	P27
助産	P68
女性	P 3
女性の飲酒	P67
自立	P93
飼料	P21
人員整理	P66
人種	P52
心身の健康	P91
心身疲労	P68
身体	P 4
身体疾患の心理的ケア	P53
身体表現	P91
身長	P24
心的回転(mental rotation; MR)課題	P75
心電位	P74
心理支援プログラム	P56
心理社会的治療	P84
心理的ストレス	P57

す

水質浄化	P38
水分補給	P26
睡眠	P10
筋活動	P74
筋電位	P74
スティグマ(偏見)	P84
ストレス	P64, 68, 90
ストレスマネジメント	P90
スポーツ	P79
スポーツ音響学	P79
スポーツ心理学	P79
スリランカ	P10

せ

製菓材料	P95
生活	P 3
生活習慣	P24
生活の質	P90
制作	P32
精神科学的教育学	P14
精神的・身体的健康度	P64

成人の学習要求	P60
精神保健福祉士	P59
生成	P 4
製造管理	P96
生体信号	P74
生体調節機能物質	P19
生徒指導	P40
静物画	P37
生物浄化	P22
生物多様性	P85
生命尊重の授業	P54
西洋服飾史実物資料	P32
生理活性物質	P40
摂食抑制	P19
セルフ・コンパッション(自己への慈しみ)	P84
セルロース	P33
繊維	P33
繊維造形教育	P43
全国保育士会倫理綱領	P82
染色	P45
染色体異常	P 6
先天性心疾患	P 6
専門性	P80
専門的な知識・スキル	P55

そ

相互ケア	P68
相互性	P 4
想の深まり	P15
藻類	P22
ソーシャリー・エンゲージド・アート	P44
ソーシャル・キャピタル	P60
ソーシャルワーク	P59
素材	P43
素材の特性を生かした服飾デザイン	P34
組織改革	P66
組織改編	P66
組織構造	P28
咀嚼	P18
即興	P 4

キーワード

た行

た

ダーウィンの進化論	P39
ダーツ分量	P35
タイ	P29
大学生	P 8
大学適応	P84
大学防災	P67
体験	P 4
大豆	P95
体性感覚	P74

耐性菌	P23
代替行動の形成および発達支援	P89
第二言語習得	P50
体力	P10
第六次産業の支援	P23
対話	P 4
対話と共有	P15
ダウン症候群	P 6
他者理解	P 4
多世代	P46
脱リン	P38
楽しさ	P21
卵殻粉	P28
多様性	P56
男女共同参画	P67, 93
男女差	P26, 75
男性介護者	P70

ち

地域学校協働活動	P60
地域芸術祭	P44
地域研究	P13
地域精神保健福祉実践史	P59
地域づくり	P60
地域福祉担当職員研修	P80
地域包括ケアシステム	P64
地域防災・減災	P67
地域リハビリテーション	P70
チームビルディング	P14
知の循環型社会	P60
中小企業の事業者・従業員の生涯学習	P60
中食	P18
中心血圧	P71
超音波エコー	P76
彫刻	P36
調製	P95
調理・加工	P28
調理性	P95
調理特性	P21
治療	P73

て

低栄養	P26, 29
ディルタイ	P14
適応評価	P75
テキスタイル	P36
テキスタイルアート	P42
テキスタイル技術	P34
適正飲酒	P67
テクスチャー	P28
デザイン	P33
デジタルデザイン	P42
電車内における情報行動	P12

伝統技術の継承	P31
伝統手芸	P30
伝統食	P18
天然物化学	P40
デンマーク	P59

と

動画	P35
動画教材	P31
統合失調症	P75
動作の円滑性	P73
動作分析	P73
透視図	P36
疼痛マネジメント	P73
道徳教育	P14
動物あそび	P 5
動物由来感染症	P29
動脈硬化	P71
童謡	P 8
読書	P 8
読書時間帯	P 8
読書動機	P 8
読書量	P 8
特別活動	P40, 94
特別支援	P79
特別支援教育	P75
塗工	P33
土壌教育	P41
土壌調査	P41
図書館法	P58
と畜場	P29
共働き社会	P93

キーワード

な行

な

ナノファイバー	P33, 36
---------	---------

に

におい	P21, 25
苦味	P24
日本型食生活	P19
日本工業規格	P38
日本史	P13
日本図書館協会	P58
日本の高齢者福祉	P59
日本服飾・染織	P32
乳酸菌	P96
乳児期の権利	P 9
乳児期の象徴機能	P 9
乳児の遊び	P 9
乳児保育	P 9
乳幼児期の言語発達	P82

乳幼児期の生活と遊びに関する諸問題	P89
乳幼児期の発達	P9
認知行動療法	P56, 57
認知症介護	P70
認知症予防	P83
認知処理	P53
認知療法	P56

ね

ネット依存	P12
ネットワーク	P65
練り上げ	P12

の

脳卒中	P75
脳電位	P74
ノロウイルス	P29

キーワード

は行

は

パーマネントセット	P31
パターン	P33
肌触り	P30
働き方改革	P27
発達課題	P93
発達障がい	P84
発達障害	P58, 65, 71, 75, 84
話し合い活動	P12
母親	P21, 64, 65
パフォーマンス	P52
パフォーマンスマネジメント	P89
反射材	P38
反射波	P71
伴奏法	P81
反復的思考	P53

ひ

比較文学	P49
東日本大震災	P68
非行	P58
被災した看護師	P68
被災者支援	P27
美術史	P44
美術とレジリエンス	P44
美術による地域振興	P44
美術を通じた個人の成長	P44
微生物	P96
微生物二次代謝物	P40
避難所	P27
非認知能力	P91
被服構成学	P35
被服材料	P33

肥満	P26
表現	P45
表現素材の種類	P89
表現方法	P36
表象	P52
漂白	P31
品質	P96

ふ

ファッションイラストレーション	P37
ファッションショー	P33
ファミリーホーム	P10
フィジカルアセスメント	P63
フィリピン	P29
風合い	P36
風俗画	P37
夫婦関係	P69
フェルト	P42
腹横筋	P76
複合災害	P68
福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程	P80
服飾工芸	P30
服飾制作技術	P34
服飾文化	P30
舞台表象	P49
物質循環	P39
物性	P95
物理的特性	P21
不満調査	P33
舞踊	P 3
古着の再利用	P30
古布	P30
フレーバー	P25
プログラミング教育	P39
プログラム開発	P41
文化	P52
文学	P32
文書	P32
分析	P19
分析型官能評価	P24

へ

ペアレントトレーニング	P84
平面表現	P44
ペプチド	P95
ヘルスリテラシー	P25
編曲	P 4

ほ

保育	P90
保育学	P 9
保育カリキュラム	P81
保育計画・記録	P 9

保育実習	P 7
保育実習指導	P 7
保育実践	P 9, 81, 90
保育実践記録	P81
保育指導論	P92
保育士の専門性	P82
保育士の専門的倫理	P82
保育者	P 4, 80, 83, 90
保育者の援助	P 9
保育者の指導・援助	P91
保育者の専門性	P 6, 81
保育者の専門的発達	P82
保育者や家族への支援	P89
保育者養成	P10, 80, 90
保育士養成	P 7
保育相談支援	P 6
保育の質	P82
保育臨床	P 9
放課後等デイサービス	P71
放射線教育	P39
縫製	P33
保健師	P65
保健室	P55
保護者との連携	P 6
ポジティブ心理学	P57
保存	P96
キーワード ま行	
ま	
マイクロアレイ	P20
マインドフルネス	P20
まちづくり	P60
末梢血単球細胞	P20
慢性疾患看護	P66
み	
ミクストメディア	P44
ミシン刺繍	P34
ミニマリストプログラム	P51
見本合わせ	P 5
ミャンマー	P29
民生委員・児童委員研修	P80
む	
無機蛍光物質	P38
め	
明治期の保育実践	P92
瞑想	P20
メタボローム	P20
メディア・コミュニケーション	P12
メンタルトレーニング	P14

メンタルヘルス	P21, 57
メンタルヘルス	P57
メンタルヘルス研修	P56
メンタルヘルスリテラシー	P84
も	
問題解決型授業	P12
キーワード や行	
や	
野外活動	P43
野外教育	P13
薬物療法	P84
役割遂行上の選択	P68
ゆ	
有害菌	P96
ゆかた	P35
ユニバーサルデザイン	P15
ユニバーサルファッション	P33
よ	
洋画	P37
養護教諭	P55
養護教諭教職課程	P54
幼児科学教育	P85
幼児教育	P43, 90
幼児教育(運動)	P79
幼児造形表現	P83
幼児の表現	P 8
幼児理解と援助	P92
ヨーガ	P20
余暇	P79
予防理学療法	P73
キーワード ら行	
ら	
ライフスキル	P14
ラオス	P29
ラマン分光法	P31
卵殻粉	P28
り	
理学療法	P73
リサイクル	P38
立体造形	P36
リトミック	P4, 81
リハビリテーション科学	P76
臨床神経生理学	P76
臨床判断	P63
臨床美術	P83

臨地実習 P63
 冷凍エビ P23
 歴史に見る服飾制作技術の変遷 P34

れ

レクリエーション P13, 79
 レジリエンス P56
 レプリカ P32, 34

ろ

労働衛生 P72
 労働環境 P83
 ロコモティブシンドローム P73
 ロボティクスコミュニケーション P50
 論理情動療法 P56
 論理的思考 P15

わ

ワークショップ P43, 46
 ワークショップ自然 P43
 ワーク・ライフ・バランス P93
 和裁 P31
 和服構成 P31, 35
 笑い P20
 わらべうた P 8, 92

キーワード

英字

A

AED P54
 Art P46

C

Cog Network P50
 CPR P54
 Critical applied linguistics P53

E

EFL P51
 Error correction P51
 Espuma P28
 ethnography P53

F

feedback P51

G

GC-MS装置 P25

H

HACCP P29

I

Information Centric Network P50
 IoT P50

L

LLサイズ以上の体型 P35

M

motivation P51

N

native speaker P53
 Native-speakerism P53
 non-native speaker P53

P

pulse wave velocity P71

Q

QWL尺度 P90

T

teacher development P49

W

Webサイト P42

2019年3月31日 発行

発行者 東京家政大学 地域連携推進センター
〒350-1398 埼玉県狭山市稲荷山2丁目15番地1号
TEL 04-2955-6959 FAX 04-2955-6929
e-mail : chiiki@tokyo-kasei.ac.jp

印刷 明治堂印刷株式会社
〒358-0008 埼玉県入間市河原町5-13
TEL 04-2964-2944

発行者および発行所の許可を得ず、
無断で複写・複製することは、法律により禁じられています。
